チートな俺は、Gクラス。

夜来

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 のPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

【小説タイトル】

チートな俺は、Gクラス。

[エート]

【作者名】

夜来

【あらすじ】

戦闘あり、笑いあり(?)、そして涙(笑)に恋愛(爆)と様々な アレだったけどな。 の学園生活を送ることになっちゃいました。 でチートな【チカラ】を貰っちゃった俺は、 ト野郎の異世界生活記、 フラグを連立&回収しながら最強街道一直線。 死んだ 異世界で転生。 000&am 少年または青年の主人公チート系異世界学園物 とりあえず、 良くあるテンプレだ。 P;ユニーク1 ご覧あれ~ まぁ、 4 異世界の学園で二度目 入ったクラスは Ó 00越えキタ 9/23:P そんなこん そんなチー

フロローグ:誰に向かって語ってんだよ。

生とか。 幽霊が現れるとかさ、 正直ね。 俺はあんまりこういうの信じなかったんだよ。 妖怪とか、 鬼とか。 勿論、 魔法とか。 転

世界は物理法則にしたがって動いているのだー なんてことは流石に言ってないけれども。 フハハー

じなかった。でも、もう一度言うが、そういうオカルト系とか魔法系は、 俺は信

過去形。 「かった」なんだよ、 俺の場合。

つまりさ、 信じざるをえない場所に来ちゃったわけで。

良いかい、これを見てる読者達。 よく考えろよ?

俺さ、 日本から飛び立ってとある国に来てたんだ。 何て言うかな

ぁ、休暇? みたいな感じで。

あ 名前は言わないぞ? どうせ、 もう要らないだろうから。

そしたら、 いきなりテロに巻き込まれたみたいで。 比較的安心な

国って言われてたんだぜ。 其処。

それでさ、 はしなかったんだ。 多分だけども、 頭に鉛弾食らって。 幸か不幸か、 即死

人生の終わりにそんなこと考えて。 「他人のくっだらない争いに巻き込まれて死ぬのかよ...」 其処で視界が真っ暗になった。

しかも、 :.. でさ、 何て言うんだよ。 前世の記憶も完全に有る。 目が覚めたら「赤ん坊」になってるんだぜ? これをさ、転生と言わずして

能力。 さらにさらに、 あぁ、 もう疑うのは止そうと思ったよ。 【チカラ】なんてのも有るんだ。 俗に言う、

というわけだ。 まぁ、これを読んでけば自ずと分かってくるんじゃないか? え、 全然分からない?

「これは、テンプレ世界のテンプレ男によるテンプレなお話」 ただ、ちょっと男が強すぎるだけ。

良いけどな。 .. それじゃ、 ページをめくってくれ。 無論、 興味のある人だけで

あぁ、 重要なところだからな。 読み進めればわかってくるさ。 「Gクラス」って何? だって? 俺の第二の人生を決める、

プロローグ:誰に向かって語ってんだよ。 (後書き)

夜来と申します。 絶賛学生生活中です。

す。 転生してチート野郎になるって良いよね...なんて思ったのが最初で でくれる方には最大級の感謝とお礼を。 いうかどん底なので、アドバイスもドンドンお待ちしております。 書き始めたらドンドン gd gd。 小説を書くのは下手。 あら不思議。 ま、読ん

第1話:アルトは、 状況整理で大いに混乱した。

「・・・・・ん」

じの天井が広がっていた。 ... 俺が目を開けると、 いかにも西洋の小さな一軒家だなぁという感

...見知らぬ。 見知らぬ天井だ...。

とりあえず、 そうと... 此処は何処だろう。そう思って体を起こそうと...起こ

出来ない?

な、なんで出来ないんだ。 混乱する俺。

それではと、首を横に曲げようと...曲げ

出来ない...。

な、何がどうなって...て...手...?

あれ、 俺の手はこんなに小さかったか。 これではまるで赤子のよ

うじゃないか。

...目を動かしてその付け根、腕の方を見る。

...短い。 異様に俺の腕が短いではないか。

そして、見る限り俺は何かを着せられているようだ。 白くて... こ

の感覚は、タオル地?

言う、全く分からない。 ... 全く分からない。 俺は今何がどうなっているんだ。 もう一度

うもない。 あぁ駄目だ。 状況を確認しようにも首が動かせないのではどうしよ

そんなことを思っていると、 それは顔に集中し、 口や目に集まってきたようだ。 体の其処から、 変な感覚が襲ってきた。 いや、 脳 に も。

何だこれは... 此処で堕ちたら負け......負け?

... いや、 堕ちなければいけないのか? この変な感覚に?

はそれより強大な力を見せる。 理性では嫌だと、 この感覚に負けたくないと思っているのに、 本能

7

...っ...だ、駄目だ...この...感覚に..

... 負けっ... !-

「 オギャー !!オギャー !!」

口から出たのは、言葉、ではなく泣き声。

目には、 自然と涙が溜まって行き、 小さな水玉となってツゥー . ツ と

: は?

... 本人、唖然。

無理もない。 な泣き声が喉の奥から遡って来るのだから。 この奇怪な感覚に身を落とした直後、 赤ん坊のよう

「あらあらまぁまぁ! ダー リン! アルトが泣いちゃいましたよ

かい?」 何!? ... 本当だな!マイハニー! もう食事の時間じゃないの

それまで愛しのアルトを見ててくださいな!」 あら、本当ですわ! ドァーリン!ミルクを作って来るから、

OKさムァイハニー ハッハッハ!」 アルトを見てるだけで10日はいけるさ

その2人の声は、 耳に入ってくるのは、 て人間の高い女の声1人分と低い男の声1人分。 多分吹っ切れてる。 無駄にテンションが高い。 バタバタと床の上を走る音が2人分。 というか高すぎる。 そし

俺は、そのとき初めて男の声の主を見た。

様が逃げ出そうかというくらい可愛いよ!」 いつ見ても可愛い顔してるなぁ アルト! 君を見るだけで大天使

どんくらいなんだそれは。

ぐらいの男性だった。 それはともかく、 俺に顔を近づけてきた男声の主は、 齢 5 0

髪は、 いる。 白髪と金髪が混ざっていて、 顔にはあちらこちら皺が寄って

無いぞ、こんなの。 鼻の下には、 横に伸びた立派な髭が。 おぉ、 漫画でしか見たこと

声や口調は40代くらいかと思うほど張りのある声だったのだが。 何時もこのテンションだから、声は若く聞こえるのかな。

ことを言っている爺さんを見ていると、次に女の声の持ち主が。 そんなことを思い、 ハンカチで俺の目を拭いながら先ほどのような

が消滅しかけそうになるくらい可愛いわよ!」 やっぱ リアルトは可愛いわぁ! 貴方に見つめられると、 悪魔王

あ、 消滅はしない んだ。 なんだか複雑な気分だな。

さんだった。 爺さんの次に顔を近づけてきたのは、 やはり50~ 60代ほどの婆

ねているようだ。 やはり金髪と白髪が入り混じった長い髪。 顔にはやっぱり皺があって。 これを後ろで1 つに束

だった。 しかし、 にっこり笑うその顔は俺のお袋を思い出す。 優しい笑顔

口調も見かけより若々しい。 優しい笑顔だが、 何か怖い。 こんな2人が俺を見つめてい

「ほら、 アルトも自分の顔を見て、その可愛さに失神しちゃいなよ

たのは。 ...そう言って爺さんが俺に手鏡を近づけてくる。 其処に写ってい

紛れも無い。

赤ん坊だった。

...な、な・・な..

オギャー!!オギャー!!!

げてくれ!」 「マイハニー アルトが激しく泣き始めたよ! 早くミルクをあ

坊って、 : 俺は、 大変なんだなぁ」 全てを理解したと同時に、 ڮ 心の中で1人ごちた。 「 赤 ん

第1話:アルトは、状況整理で大いに混乱した。 (後書き)

感想、アドバイス、お待ちしております。

第2話:アルトは、 この世界の知識を10年で蓄えた。

「ラブリーなアルト! 10歳おめでとう!」

かしくないわ 「貴方が10歳になったということは、全世界に発信されててもお

「そうよねダーリン!」

ハッハッハ!」 「そうさマイハニー 発信されないのが不思議なくらいだよ!

: うぜぇ。

「…あ、ありがとう」

年という月日が経ったわけで。 というわけで、俺は10歳となった。 つまりは、 あの日から10

うのもなんだがキリッとした目。 俺の容姿を説明しておくと、赤茶色の首まで伸びた髪に、 なんだろう、 自分なのにカッコ 自分で言

良い。

元の世界でブサメンだった俺だから言えるセリフ・ なのか?

た。 シュー 10年間、俺は「 バと、 婆さん、 この世界」について...この爺さん、 サナブ= シューバから色々と聞くことになっ ナシズ=

2人のテンションは10年間全く変わらず。 いや、 それはそれで

れて行ってもらったりもした。 10年も一緒に居れば話が聞けるのは明白で。 そうそう、 外に連

な。 占めている世界。 この世界。 【エンヴァー】 というより、 大陸がエンヴァーしかないんだよ と名の付いた大陸が陸地の殆どを

その周りは殆ど海。 それは後で説明しようかな。 「殆ど」? と思う人がいるやも知れないが、

大陸は、幾つかのエリアに分かれている。

世界みたいだ。 右半分と、大陸の北に、 ン・エリア」 面積の割合は、ざっと55%。大陸はほぼ円形なのだが、そのほぼ 人間が住むだけあって、 または 人形、 たぶん「ヒューマン」からとったんだと思うが。 人間に友好的な魔族が街を築く...通称「ヒュ 左半分へとピョコンと突き出た5%分。 緑が一杯、資源は豊富、 人間一杯。 元の マ

そのヒュマンも、 できないかもしれない。 幾つかの都市に分かれている。 多すぎて、 紹介

左半分はといえば、魔族たちのご登場である。

ではない動物達の総称である。 みんな予想はついてると思うが、 ..そうそう、魔族の説明をしていなかった。 魔族というのは、 この世界で人間

それは殆どが動物型であり、 そいつ等は「魔獣」 部は高度に

発達した通称 た者たちだ。 ヒュマンに居る人型の魔族は、 魔人」 と呼ばれる。 魔人と呼ばれる、 俗に言う、 悪魔だったり。 高度な知能を持つ

間と大陸左半分に居る魔族たちは対立している。 .. 突然だが、 大陸左半分、 サタナー ・エリア」。 上35%を占めるのは、 ここはテンプレ世界。 悪魔...サタンからとったのか。 人間に対立する魔族が住む、 だから、 やはりというか、 人

景観はというと、 ヒュマンと対して変わらないらしい。 意外や意

だが、 るで地獄のようだという。 のはこれ。 一部は血の河が海へと流れていたり 溶岩がどろどろと流れる高い火山が有ったり、 「殆ど」海といっ ま た

そして、 草原があったり。 残り10%、 大陸左半分、 南はというと、 密林があっ たり、

然保護区のようなものだろうか。 ヒュマンと変わらないが、そこに人間はあまり住んでいない。 自

とったのかな。 其処に住む。 比較的弱かったり、 名前は、 人間と比較的友好関係を結ぶ魔獣、 「ジャンガー・エリア」。 ジャングルから 魔人たちが

ない奴も居るそうだ。 比較的」 なので、 中には強い奴もいれば、 あまり人間と友好的で

にある小さな村、 ソツタと呼ばれるところだ。

村と言っても、 自然豊かな村であり、河川や森、 人が住んでいない村らしく...。 滝もあるらしい。 住んでいるのは、

俺たち3人だけらしい。

らであろう。 人が住んでいない理由、 西を見れば、 それは単に、 直ぐ近くに密林が見える。 ジャンガーに隣接しているか

さてと、日常に戻ろう。ふぅ、こんなぐらいだろうか。

「なぁ、爺ちゃん。_

なんだいアルト! 答えられることなら何でも答えちゃうぞ!」

へ行くんだよね。 お...僕ももう10歳じゃん。 やっぱり、 15歳になったら学校

私達が教えられることは全部叩き込んでおこうと思ってね!」 勿論さ、 愛しのアルト! だからね、 15歳になるまでの5年間、

全部アルトに教えると思うわ!」 「そうよアルト! ダーリンは格闘術で鳴らしてた頃があったから、

私も教えられる魔法はすべて教えるつもりよ!」

「ダ リ ン!」「マイハニ !

付いていけない。 何故かひしと抱き合う2人。 やはり、 この2人のテンションには

どっちも使えるって、 へえ、 か不安だけど、 爺さんは格闘家だったみたいだな。 教わることが出来る物は、 良いよな。 この5年間で全部覚えられるの 全部教わっていかなきゃ 婆さんは、 魔法使い か?

それまでは、 ら、教育が始まるらしい。 たいに、魔法や格闘術を教えたり。 「学校」は、 親が基本的なことを教えたり、 皆さんご存知、 元の世界ではもう高校生だ。 教育の現場だ。 ナシズ爺やサナブ婆み この世界は · 5 歳か

そして学校へと入ってからは、 てこの世界特有、 魔法の授業なんかもあるらしい。 勿論普通の授業、 言語や数学、 そし

かなかったかと思うけれども。 という不可視の力が存在する。 見える人には見えるらしいが。 人間や魔族、ついでに植物にさえ、個体一つ一つの中には、 : さて、 ついに魔法だ。 今までサラッと登場してて、 あまり気付 魔力」

ことが出来る。 人間や魔人は、 魔力を「練り」、 その魔力を繊細に扱うことが出来 (個体差があるが) 現象として「顕現」させ、 「魔法」として扱う

勿論、魔法には色々な種類がある。

とで角の攻撃力を高めたり、 いろらしい。 魔獣などの動物、 植物などは、 硬い皮膚の防御力を高めたりと、 無意識に魔力を練り、 魔法を使うこ いろ

ものがあるらしい。

例えば「火の玉を出現、操ることが出来るチカラ」 可視の防御壁を出現させるチカラ」だったり。 だったり、 不

だが、 人によって様々な【チカラ】、 現象として其処に存在するのだ。 Ιţ まだ魔法とは違い、原理も全く分からない。 同じ【チカラ】を持つ者もいる 確かに。

期待。 【チカラ】は、 とワクワクする気持ちも分からなくは無いだろう。 一般的に13歳前後で開花するらしい。

通用するかは分からないけど、 私は1から格闘術を教えるからね! 教えて損は無いからね!」 学校へ行っ たときに

らないけど、 私も魔法を教えるわ! 教えておいて損は無いわね!」 今の魔法のレベルがどんななのかはわか

あアル **!** 今日は格闘だ! 最初の最初から教えるからね

アルト=シューバ。格闘術と魔法を教わる。

このとき俺は、 【チカラ】 つまり。 の開花もあっ かなり充実した5年間になったわけだ。 5年間がこんなにも長い物だとは思わなかったんだ。 たし、 あの時驚いたのは、 今でも記憶して

さぁ、次のページだ。

第2話:アルトは、この世界の知識を10年で蓄えた。 (後書き)

本当は年齢を5歳にしようかと思いましたが、後々のことを考えて 10歳に手直し。

どこか直されていないところがあったら、何なりとどうぞ。

勿論、 感想やアドバイスもお待ちしております。

第3話:アルトは、 この世界での「普通」 を目の当たりにした。

さて、 俺もあれから3年経ち、13歳となった。

感じがする。 赤茶色の首まである髪はそのままに、 自分なんだけれども。 やはり少し大人っぽくなった

に 「一般的に【チカラ】が開花する歳」...。 俺自身期待している。 俺の【チカラ】 の内容

続けている。 俺は、 未だナシズ爺とサナブ婆による格闘

&魔法のレッスンを受け

践あるのみ、 ... そう言っても、 という感じだな。 もう教えられることはほぼ教えたらしく、 後は実

「よーしアルト! 今日はジャンガーの、 ミーモの森に行って、

実践だよ!」

「気をつけて行ってらっしゃいねアルト! 心配ないとは思うけど

ガー ミーモの森.. このソツタ村から1番近いところに位置する、 ・エリアの森林地帯だ。 ジャン

そこに住んでいるのは、鹿型魔獣のディアノ、 な魔獣、 ボアーナ、 その他たくさんの虫型魔獣が殆どだ。 猪型だが性格は温厚

稀に、 のだろうと思う。 心配は要らないだろう...そう思って爺さん婆さんは其処を選んだ 凶暴な大型魔獣が出ることも有ると聞いたが...まぁ、 稀だ。

は軽く心配する。 は何故か、 両人曰く、 この後抱き合っていた)、 「普通に教えたからだいじょぶ!」 普通で大丈夫なのか? だそうだが(両人 俺

そしてフラグにしか聞こえないのは、 俺だけか?

ということで、やってきましたミーモの森。

ソツタに近いとは思えないぐらいの、

ಠ್ಠ 所々、 木々に遮られ陽光が当たらず、 深い森林が其処に広がってい 暗い場所もあるぐらい

だ。

道らしき道も見当たらず、 適当に進んでいる。

ح 爺さんが俺に課した課題。 それは「ボアーナを5体狩ってくるこ

その証拠に、ボアーナの尻尾を刈って持ってくるように言われた。 因みにだが、 それは珍味として人気らしい。 どうでも良いが。

お

事中のようだ。 そうこうしていると、 ちょうど良い。 早速ボアー ナ1体を発見。 どうやら、 お食

寄り、 ボアー ナは、 その尻を... お食事に目がないらしいのだ。 そー っと後ろへと近

「ブモォ!?」「…オラァッ!」

蹴った。 瞬だけ俺の姿を確認した。 勿論驚いたのであろうそのボアーナは、 思いっきり蹴ってやった。 そう、 蹴った奴の姿を。 クルッとこちらを向き、 それはもう清々しいくらい。

大切なお食事タイムを邪魔したクソ野郎の姿を。

ボアーナはお食事を邪魔されるとその温厚な性格は何処へやら、 お食事中がちょうど良いといったのはその事もあって。 暴とは行かずも、好戦的な性格へと変貌する。 やっぱり、 凶

好戦的な相手と戦ったほうが実力付くと思うし。

そしてボアー ナは、 少しだけ前進、そしてこちらに振り返り。

ってきたのだった。 まさに「爆走」 よし 猪突猛進」。 行くか。 そんな勢いで、 こちらへ向か

ないっぽい。 やはりというか、 ボアー ナの攻撃、 突進は直線的だ、 直ぐに曲がれ

俺は、 を使わせてもらうことにした。 遠慮なく爺さんに教わっ た格闘術と、 婆さんに教わっ た魔法

ボアー ナの突進を左側に少しだけステップすることで回避。 ぁ

ボアー ナと目が合った。

俺は、 俺の右側を通り過ぎようとするボアー ナに攻撃を食らわせる

べく 右足を軸に反時計に回転。

回転する勢いを利用して左足を思い切り振る。 元の世界で言う、

後ろ回し蹴りだ。

ボアー ナの弱点は、 その柔らかい腹だ。 思い切り振った左足の

踵は、 丁度その腹へと直撃。

直進していたボアーナはその攻撃に対処することが出来ず、 そんな

鳴き声を上げながら奥へと吹っ飛んだ。

っ飛ばしたんだぜ? 俺はというと、 残心を決めながらも結構驚いた。 だって、 猪を吹

な ..爺さん。 のか? この世界じゃ、 蹴りで猪を吹っ飛ばせるぐらいが普通

そして、 す場所まで走り、 驚きつつもボアー 両手を体の前で合わせる。 ナに止めを刺すためにボアー ナが倒れ伏

ボアー ンス。 ナは、 先ほどの攻撃が効いたのか全く起きる気配が無い、 チ

「…スパークアロー!」

俺の思い通り、 厨 | かよ..。 の名を叫ぶ。 「行けつ!」 とばかりに右手をボアーナに向かって振ると、それは ボアーナに向かって飛んでいった。 すると、 そう思いつつも魔力が矢になるイメージと共に魔法 俺の右横に電流を放つ黄色の矢が現れる。

ょ 婆さん曰く、 」だそうだ。 「魔法は、 魔力がどんな形で顕現するのかが大事なの

矢が飛んでいく魔法になるという、 つまり先ほどのように、 頭の中で魔力が矢になるイメージをすれば、 シンプルな理論。

そうか。 かといって何でもかんでもイメージすれば良いわけでは勿論無く。 そこは、 まぁ修行によるんだと。 詳しくはまぁ、 別の機会に話

さて、 「バン!」 飛んでいった電流の矢は、 と音がし、 その一瞬後にはボアー 見事ボアー ナの丸焼きが完成して ナの頭に直撃した。

ちぎり、 さて、証拠として集めるよう言われたボアーナの尻尾は強引に引き か、婆さん。 さすが電気。 「後4体かー 明らか雷みたいな音がしたが。 しかし、 電流で猪の丸焼きが完成するのが普通なの などと考えていると。

: ?

それは、 足音も無く接近してきた巨大な影。 させ、 こちらがボア

黒い、ゴワゴワしていそうな体毛、3mは優に超すだろう体躯。 今にもギランと光り、 ナ狩りに夢中になって気づかなかっただけか。 狩られる者を見つめ殺そうかという、 鋭い目

稀に、 ラグ回収。 凶暴な大型魔獣が出ることも有ると聞いたが...」 Ļ フ

.....ギャオオオオオオオオオ

進して来た。 俺が振り向き、 ソイツの姿を確認した直後、 ソイツは俺目掛け、 突

恐竜のような鳴き声と共に。

るූ ソイツの名は、 大熊型魔獣、 ベアル。 性格は、 いたって凶暴であ

第3話:アルトは、この世界での「普通」を目の当たりにした。 (後書き)

感想、アドバイスお待ちしております。

話:アルトは、 その 【チカラ】 を発揮した。

大熊型魔獣、ベアル。

3mを超える体長と、 元の世界での熊に似ている。 3 0 k gを超える体重を持つ、 巨大な魔獣。

言われたり言われなかったり。 違うのは、 切れ長の目。 目を見るだけで、 小魔獣は気絶するとも

だけで中型の魔獣が怯みあがってしまうとか何とか。 鳴き声はもはやゲームで言うラスボスの鳴き声であり、 それを聞 <

ばいとか何とか。 その歯は動物をかみ殺すために犬歯が比較的長く、 み出ているのが普通。 それに噛みつかれると、 大型の魔獣でもや 少し 口内からは

そのほか、 鋭い両手の爪も、 相手を引き裂くのに十分なほどだ。

性格は基本凶暴。 そんな性格をカバーするため、 狩れそうな相手を見つけると、 身体能力は高い。 所構わず狩る。

そのため、「魔法使い殺し」と呼ばれたりする。撃を無効化する不可視の鎧を作り出すことがある。 深層魔法(魔獣が無意識に使う魔法、 のに苦労したらし 第2話参照) を使い、 サナブ婆は、 魔法攻 倒

雪原地域には、 は深層魔法で暑さを遮断する、 基本的に黒い体毛だが(ブラッ ベアルが居る。 同じく寒さをシャッ 紅い クベ 体毛のレッ アルと呼ばれる)、 トアウトする、 ドベアル。 白い体毛のホワ 火山地域に

とまぁ、 ベアルとはこんな感じの魔獣である。

つまり、 ばいやばい。 ブラッ 殺されるって。 クベアルに見初められた俺は、 かなりやばい。 き

「ギャオオオオオオオオオオオ!!!」

Ļ 離があるだけ避けられない事も無い。 突進してくるベアル。 その速度は中々の物だ。 だが、 距

ベアルが近づくにつれ、 のが付着しているのが一瞬見えた。 ベアルの口元、 はみ出した犬歯に、 赤いも

「食ってんのかよ...」

腹が減った凶暴な魔獣より怖い魔獣は居ない。 震え上がる俺。 サラサラ無いが、 れそうに無い。 逃げられる気が全くしない。 このベアルの体からして、ボアーナー体で腹は膨 つまり腹がまだ減っている可能性が。 駄目だ、 勝つ気は

が近づいてきた そして脱兎の如く逃げ出す...そんな理想を立てて、 とりあえずベアルがギリギリまで近づいたときを狙って、 いよいよベアル 横っ飛び、

ギャアアアアアオオオオオー!

「.....うおおおぉぉっ!?」

先ほどあんなに理想を描いていたにもかかわらず、 た爪の鋭さ に右に跳んだ。 近づいてきて分かる、 こんな物、受け止められるわけねぇだろー 圧倒的な威圧感、 殺気、 そし 俺はほぼ無意識 て振 り上げられ

楽々とオレが血だまりの中で倒れているイメー あんな物俺が喰らったら 爪によって直径の3分の2くらいが引き裂かれている。 ズバンッ!と、 元の俺の位置、 その後ろにあった木の幹がベアルの まだ格闘術と魔法しかない俺に ジが想像できた。

グオオオオオオオオオオ

... あっ... やべえ!!!」

そうとする。 の怒りの咆哮に正気を取り戻し、 その光景に呆然としていた俺は、 横っ飛びの体勢から急いで逃げ出 獲物を逃したことによる、 ベアル

.. だが、現実はそう甘くも無く。

うおおおおおお!? 速えええええ!!!」

決してベアルの身体能力を侮ってい さとはまったく違うその俊敏さに、 チラリと後ろを向いた俺は度肝 たわけではないが、 先ほどの速

を抜かれた。

しかし、速い。 食い意地というものは、 動物をこんなにも進化

させるのか いやいや、違う違う!

れては、 もう少しで追いつかれそうだ。 対処できない! そして、後ろから爪を振り下ろさ

...クソ、一か八か...ッ!

「...オラアアアァァァァ !!!」

俺が行ったのは、 逃げる体勢から振り返り、 爺さん直伝の正拳突き

をベアルの腹へとお見舞いすることだった。

ベアルは俺の行為に驚いたようだが、今更防いでいられないらしい。

なんたって、 俺は振り向いて直ぐ正拳突きを放ったのだから。 俺とベアルの距離はベアルの速度で2秒もないだろう

バァン!」と音がし、俺がベアルに向かって放った突きは

ベアルの腹、体毛で止まっていた。

やはり俺の突きはベアルにダメー 俺は改めてやばいと感じた。 ジを与える事が出来なかったらし

だが、ベアルからは一向に攻撃は来ない。

実はベアル、弱

点というか欠点が有る。

どなのだ。 それはリー チの短さ。 身長が1 m 5 0 無く、 3mという体長の癖に、 しかもベアルの懐に居る俺に爪 腕はなんと1 m

が届くことは無い。

しかし、 冉 掛けて俺を潰そうと仕掛けてくるだろう。 懐に居れば安全というわけではなく、 これが、 勿論ベアルは体重を 俺の恐れる理

深層魔法で魔法は無意味。 それから逃れようと懐から脱出しても、 かけてくる その身体能力で、 万事休す。 爪の餌食。 爪を逃れても直ぐ追い 格闘は効かず、

· グ..... グァ...。」

圧死させようとしている! 今のは俺の呻きだ。 そう、 予想通りベアルは体重をかけ、 俺を

もう俺は仰向きに押し倒されていた。

俺は、 心からこう願った時は元の世界でもないだろう。

怪力が欲しい...コイツを超えるような強さが欲しい...」

そして、その願いは叶うことになる。

圧死する寸前だ。 そう考えていた。 もう少しでも力が入れば、 「潰れる」

あぁ、 っ た。 俺は転生しても、 13年で人生を終えるのか こうも思

神様はそれを許してくれなかったようだ。

- ... グ?」

見事に、 それは、 そんな感覚を覚える。 られるのではないのか」と。 何か、俺の中から力が生み出されて各部位に補充されていくような、 俺の中にある考えを過らせた。「今なら、」感覚を覚える。端的に、力が漲ってきたのだ。 俺とベアルの声が重なった。 どちらも、驚愕。 コイツを超え

グググッ...と、 ン漲っていく。 し返されていく。 俺を圧死させるために掛けられたベアルの体が、 少しずつ。 その間にも、 俺の中の力はドンド 押

と伸ばされている。 ベアルの腹に当てられた俺の手は、 一方の腕だけでも。 立ち上がるために片腕を使ったが、 再び押されること無く上へ上へ そのもう

· う、おおぉぉ...」

だが、 そして、 何かが俺に教えてくれる。 決定的に違うのは、 元の...ベアルに突きをぶち込んだ時の体勢へと戻った。 俺が優勢であるということ。 「もうパワーは十分溜まっている」 ځ

...うおおおおぉぉぉらぁぁぁぁぁゎ゠゠゠」

だろうその正拳突きは、ベアルの腹にダメージを与えるどころか、 渾身の力を込めた。 吹っ飛ばした。 しかも、 先ほどと同じ、 拳で。 だがスピードや威力が段違い

地に堕ちた。 ことなどできず、 5mほど宙を舞い、 ズドォォンと言う轟音と共に、

さも相まって動けないベアルへと近づく、 そして俺はベアルに止めを刺すべく、 背中を強く打ちつけ、 そしてその喉に狙いを定 腕 の短

俺はその喉に向かって手刀での突きを放ち、 の強靭な喉を貫いた。 骨が折れるグシャッという音 それはいとも容易くそ

喉を真っ赤にして絶命していた。 ...俺が手を引き抜いた時には、 ベ ァ ルは目を驚愕に見開きながら、

ハァ...ハァ...これが...これがか...」

俺にはもう分かってた。 る特殊能力かと。 動かなくなったベアルを見下ろし、 これが【チカラ】かと。 荒い息を吐き続ける俺。 人間にのみ備わ

嬉しいが、早く家に帰らなきゃな.....そう思った矢先。 急に脚が崩れ落ちる...? あれ、

を闇に飛ばすのだった。 それだけでな Γĺ 意識も急に朦朧としてきた俺は、 あっけなく意識

それはベアルと戦闘したことでの極度の緊張が解けたことによる積 初めて【チカラ】を使ったことで、体がそれについていけなくなっ み重なった疲れもあったのだろうが、 たのがそれなのだが、 当時の俺がそれを知ることは無く。 違う要因もあった。

後に心配 した爺さん婆さんが絶命したベアルと共に倒れ伏す俺を見

だった。 つけ、家で俺が目覚めるまで、俺の意識は何処かへと飛んでいたの

それは、俗にチートと呼ばれる物であり... 転生した彼だか こうして、アルト=シューバの【チカラ】は開花した。

ら持てた物なのかも知れなかった。

第4話:アルトは、その【チカラ】を発揮した。 (後書き)

【チカラ】開花フラグ回収ー。

感想、アドバイスお待ちしております!

第5話:アルトは、 己にとって大事な場所へ行くこととなった。

......見知らぬ天井だ...。

何言ってるの愛しのアルト ここは私たちの家よ

「思考読まないでよ婆ちゃん...」

あら? 口に出てたわよ 」

だった。 目を開けた視界に入ったのは、 俺の良く知った老婆の心配そうな姿

見た目5・6 寝起きのぼんやりした意識を、シャキッとさせた。 0台の婆さんが語尾に「 」を付けてる風景は、 俺の

心配そうな顔で「 しないで欲しい。 だって本当にそうだったんだから。 」をつけてるとかどういう以下略 とかは気に

それにしてもすごいわねアルト! ベアルを倒しちゃうなんて!」

いなんだ」 「え?.. ぁ あぁ、 うん。 なんか... 【チカラ】が発現したみた

を開花させる他に無いからね!」 ぁ やっぱり? アルトがベアルを倒しちゃうなんて、 【チカラ】

でも、 な...ちょっ あぁ、 あの... 俺の つまり俺はまだベアルを素で倒せるぐらい強くないんだよ とショックだ。 【チカラ】 ナシズ爺は昔、 なら...。 素手で倒せたって言うし。

て所かな!」 ... あの現場を見る限り、 アルトの 【チカラ】 は 身体強化系」 つ

あらダーリン! 何時の間に?」

さっきからさハニー

ダア

.. ガシッと抱き合う2人。 ...にしても身体強化系か」... -- 勿論俺の目に二人は気づかない。 ベッドでそれを冷めた目で見つめる俺。

Ļ 俺は考え込む。

さて、 今回は【チカラ】についてだ。

カラ】がある。 【チカラ】はこの前言った通り、 人によって多種多様、 様々な【チ

だが、 ことが出来るのだ。 様々な【チカラ】も大別すれば幾つかのカテゴリー に分ける

今日は、そのカテゴリーを紹介しようかな。

強化する【チカラ】のカテゴリーだ。 身体強化系」...その名の通り、身体の一部、 または全部の能力を

ない俊敏さを得ることが出来たり。 この前の俺のように怪力になったり、 特殊な例としては、 腕を鋼鉄にしたり、 体を煙に出 とてつも

身体能力を強化するので、来たりとかかな。 のまんまだな。 「ブースター」 と呼ばれるらしい。 そ

現象を操る【チカラ】のカテゴリー。 自然操作系」. .. これもその名の通り。 自然の物体、 または自然

雷を操ったり、 イとかいった奴は。 木の根っこを触手のように操っ 後は、 水の三態を操っ たりね。 たり...誰だ、 触手プ

が世の常って奴だよな。 これは結構強力な力の為、 デメリットも多いらしい。 無かったらチートだし。 まぁ それ

特殊な例を挙げるなら、 ゴンの召喚者なんかは、 ではない武具や防具を召喚できる【チカラ】もあるらしいな。 魔獣を召喚するのは勿論の事、魔人を召喚したり、もしくは生き物 召喚系」…いろいろな物を召喚する【チカラ】のカテゴリーササナー 自分の分身を召喚するって所かな。 結構強力だ。 ドラ

他能力」...上記3つに分類されない、ジ・アザー 特殊な【チカラ】 のカテゴ

ラ】を持つ人は稀。 殆どの能力は上の3つに分類されるため、 かつ強力なのが多いらしい。 このカテゴリー の 【チカ

癒す回復系の【チカラ】もあるらしい。 相手の精神を乗っ取るなんて【チカラ】、 触れるだけで傷や病気を

見ているだけではこのカテゴリーが1番面白いかも。 RPGの勇者みたいな、 光を操る【チカラ】みたいなのもあっ

他能力」 上3つは似たような【チカラ】が多いため、 の 【チカラ】は似たようなのが少な ò 0 0 1 ぐらいらしい。 いため、 絶対数も多い。 絶対数の割合

でパアー ツ とパーティーだね!」 アルトの【チカラ】が開花したことだし! 今日は3人

リンは何を用意するの? そうね じゃあ私はチーキンの丸焼きでも用意するわ ダー

だ安静にしてるんだよ!」 サクッとポテイーター でも狩ってくるよ じゃ あアル ま

2人を見送り、 .. 本当に仲がいいなぁと今更ながら思いながら、 俺は再びベッドに横になった。 ドアから出て行く

同じで、 そうそう、 やはりその肉は元の世界と同じで美味い。 チー キンとはその名の通り鶏型の魔獣だ。 姿形は鶏と

ポテイーターは植物型魔獣だ。端的に言うと、 食人植物。

人を飲み込めるぐらい巨大な葉が印象的だ。 元の世界のハエトリソウみたいな二枚貝型の、 しかし鋭い牙が付き、

美味い。 葉が生い茂る地域に住み着き、気付かずやってきた人間を食う恐ろ しい植物だ。 根茎はそのままじゃが芋。 芋は勿論、 葉もかなり

とまぁ、 も一度食ったことがあるため、 2人は美味しい魔獣と植物を取りに行ったわけだ。 結構嬉しい。 2つと

38

俺は2人が帰ってくるまで、 していた。 俺は先ほどの出来事を巻き戻し、 再生

力が漲り、 あのベアルを押し返したときの感覚。 今でも忘れられな

き付いている。 そしてベアルの喉笛を突き破ったアレは、 今でも鮮明に、 網膜に焼

のタイミングで【チカラ】が開花したことは本当に幸運だっ これも神様の悪戯だろうか。 た。

そんなことを考えていたら、 いつの間にか眠っていたよう

考えていたことはひとまず胸にしまっておいて、 既に帰ってきて、 気がつくと、 鼻を擽る良い香りが漂ってきた。 料理を作っているらしい。 どうやら婆さんが 今日は素直に、 料

理を楽しむとするかな。

アルト! ちょっと話があるんだけど、 聞いてくれるかな?」

パンだ)。 プに、パンのような主食(あくまで『ような』 チーキンの丸焼きとポテイーター のサラダ、コンソメのようなスー だが、 食感は完全に

そんな、 なく、味も申し分なく美味い。 この家にしては(量だけは)豪勢な夕食だ。 香りだけで

そして、 るんだ。 ながら、 チーキンの丸焼きに齧り付くというワイルド ナシズ爺が唐突に切り出してきた。 どうやって声を出して な食い方をし

いい t... じゃなくて、何? 爺ちゃん。」

て 用事のな 61 い日曜の昼はいつも増刊号を見ていた俺。 もし _! する癖が付いていた俺は、 危うく恥をかく所だ 画面に向かっ

気を取り直して、 に厳しかった。 スープを静かにすすりながら (サナブ婆は食事マ 爺さん以外には、 だが) 用件を尋ねた。

ね 「うん、 愛しのアルトももう13歳... いや、 もう少しで1 4歳だよ

そう、 あと1年ちょっとで俺は二度目の教育を受けなければいけな

ſΪ

るが、 元の世界ではそれはもう散々な学校生活を送ってきた俺。 期待はそれを大きく上回っていた。 恐怖もあ

と思ってね。 「15歳になっていきなり大きな街へと行くのはちょっとどうかな 「そうだけど...何?」 今度、私と一緒に学校がある街へと行かないかな?」

おお、 確かに、 たまには良い事を言うな。 それは良い提案。 下調べ的なものをしておけば困ることは無いだろう。 爺さ

それを兼ねて行こうか」 それじゃあ決定だね。 思考読まないでよ...。 何を言うんだいアルト。 それじゃ明後日。 そうだね、一度行ってみたいかも」 私が何時良い事を言わなかったんだい?」 色々買出しもあるし、

ある街、 な物となるのだった。 この買出し兼下見はその目的だけでなく、 このように、俺は爺さん婆さんが俺を入らせるだろう学校が 王都へと足を踏み入れることとなった。 俺の今後を決める、

第5話:アルトは、己にとって大事な場所へ行くこととなった。 (後書き)

ワタ 旅行中止(活動報告参照)でテンションがた落ちヽ(^o^)/オ

おかげで文も思いっきりグダグダになってしまいました。すみませ ん o r z

: W W あ、老夫婦の思考読みは思いっきりネタですww 突っ込まないで

感想・アドバイスもどうぞよろしくです!

第6話:アルトは、 王都エクシリア探索に出かけた。

王都エクシリア。

ある。 このエンヴァー 大陸には、 「四大国」と称される4つの大きな国が

そのうちの1つ、 クシリアなのである。 「ガフリア王国」の首都。 それがこの王都、 エ

その大昔、テンプレ世界には良くある魔王軍の侵略がこのエンヴァ - にもあったらしい。

エリア。 そして、これまた良くある勇者の活躍で平穏を取り戻したヒュマン

その勇者.. エクシルという名前だったらしい... がその仲間と共に小 たらしい。 さな町に住み着き、その町が次第に大きくなった結果、 王国となっ

クシリア城」を中心に、同心円状にひろがる都だ。 王都と言うだけあってそれはそれは繁栄しており、 王族の住む「エ

2番目の3分の2には平民、もう3分の1には貧民。 王城に1番近い円のエリアには、位の低い王族や富豪たちが住み、 人、つまりは店が広がっている。 3番目には商

空から観察すると、 綺麗に分けられているという。

これは、 王城へとたどり着く前に体勢を整え、 やはりと言うか外敵からの攻撃を防ぐためであって、 迎え撃つということらしい。

リアさ!」 ζ 着いたよアルト! 此処がガフリアの首都、 王都エクシ

凄いね。 ... あの大きな城がエクシリア城だよね?」

「そうさアルト! やっぱり大きいなぁ...」

ら遠い商人のエリアから見ても圧倒される城のデカさに驚いた。 王都に着いた俺とナシズ爺は、 まずはその都の大きさと、

かしんでいるかのよう。 正確には驚いているのは俺だけで、 ナシズ爺といえばこの光景を懐

豪、平民、 エクシリアのエリア区分はかなり厳しいらしく。 貧民それぞれのエリアには全くお店というものが無いら 王城、 王族・ 富

うのも頷ける。 るのだ。 つまりは、 1番面積が広い、 商人エリアには5つのエリアすべてから人が集まってく 3番目の円のエリアに陣取っているとい

歩いている。 周りを見てみる。 魔獣を売って いる。 人間が居る。 トラの魔人の女性がその子供(?)を連れて 蛙っぽい顔した魔人が魚っぽ

そう、 色々な人が居るのだ。 つまりは、 めっちゃ平和。

「それじゃあ、まずはお店を見ていこうか!」

「うん、そうだね」

うべきものを買って、 このエクシリアに来たのは元々は買出しが目的。 それからゆっ くりと散策でもしようかな。

・うーん、アルトにはこれかな!」

ないでしょ!」 待った待った! これ完全にメイド服じゃん! 着れるわけ

まぁまぁそう言わず! これも体験の一部だから、 さぁさぁ

電矢!」

Ó 流石はハニー直伝の魔法だね! かなり威力がある

長かな、エプロンをつけた綺麗な金髪の女の人は唖然としている。 ...服屋に立ち寄った俺達は、店内でそんなことをやっていた。 魔法喰らってピンピンしてるし。 これがギャグ補正という奴か。 ほんとに何やってんだろうか。俺達。 今着ているような茶色い服などを買って、 っていうかナシズ爺、 俺達はそこを出た。 店

けど 「爺ちゃ hį お : 僕、 ちょっとエクシリアを散策してみたいんだ

4時ぐらいになったら西門の出口に来てね!」 うん? あぁ、 私なら勝手に回っていくから良い よ! えーと、

「…はーい」

爺さんにそう提案した。 しかし、 店めぐりは結構暇である。 だんだんそう思ってきた俺は

さん、 意外とあっさり、 知らない所に1人にして。 爺さんは了承してくれたのだが...。 エクシリア、結構広いが。 良い

晴 まぁでも、 あと3時間はこのエクシリアを満喫できるわけだ。 許してもらったものは遠慮なくやるのが俺だ。 今 は 1

そうだ。 ...といってもお金があるわけではなく。 ブラブラ歩くだけとなり

好き勝手に歩き回った。 俺はその後、 王族・富豪エリア、 平民エリア、そして商人エリアと

リア。 キシー 王族・ 富豪エリアでは、 ドが似合うイケメンが闊歩していた。 優雅にドレスを着こなす麗人や、 うわ、 さすが富豪工 漆黒のタ

い た。 平民エリアは、 園があったが、 子供が無邪気に遊んでいて、 俺と同じような服装をした人たちがたくさん。 元気だなぁとか思って

商人エリアは少しだけ。 アポロという、 宇宙船のような名前で林

檎のような形の果物を見ていると、 一欠けくれた。 店主 (ライオン顔の魔人?) が

強面の癖に、性格は優しいなぁとか思ってしまったな。 林檎みたいで、甘くて美味しかっ た。 あ、 味は

.. 流石に城までは入れなかった。 まぁ、 縁はないだろうし、 良い

まぁ た俺だった。 (パンフレッ しかし、 トより)。 これ歩いてもまだ10分の1も踏破していないらしく 改めて「王都」と呼ばれる由縁を理解し

さて、 どと軽く欠伸をしながら立ち上がり、 平民エリアに居た俺は時計でそれに気付き、 もう帰ろうかなー そんな時間もあっという間に過ぎ、もう少しで4時だ。 背伸びをした。 な

キャアアアアアアアアアアア・!!!」

っ た。 でも、 ね ・ ・ ... 突然聞こえる女性の悲鳴。 と振り向いた俺はその事を理解すると、 尋常ではないことは良く分かった。 なんてことは当時思わなかったな。 あぁ、テンプレだから、 急いでその声の元へと向か ちょっとだけその方 良くあるよ

「...どうしたんですか?」

るっぽいけど・・ あそこにバー ディ ンが2体..今、 剣士のお嬢ちゃ んが戦って

適当に、 えが帰ってきた。 その声の元へとたどり着くと、 近くにいた女性へと何が有ったか聞いていると、 人がたくさん集まっていた。 そんな答

る るが、 バーディンとは、 その主な攻撃方法は、 鳥型の魔獣だ。 異常に発達した脚で繰り出す蹴りであ 体長は2mくらい。 一応飛べ

普段は鳥らしく、 ジャンガーやヒュマンの空を駆け回っている。

実際俺もソツタで見た。

だが、空から降りてくることは少ない。 るとなると珍しいことありゃしない。 しかも、 人と戦闘し てい

まぁ、人の性ってやつだな。も肝の据わった奴だなー・・ 性格は基本穏やかなはずだが、今居る2体は凶暴な性格らし 目にしようとした。 しっかし、そいつらの相手をしてる剣士のお嬢ちゃんとは、 ・と思い、その姿を見てみたくなる。 人を掻き分けながら、そいつの姿を なんと

くっ、 このっ たかがバーディンの癖にッ!」

ドーナツ状に広がる人の群れを押し退け、 いた穴の部分を見た俺。 その5mほどポッカリ空

バーディン2体と戦っている光景だった。 其処では金髪の、 俺と同じくらいの歳であろう少女が剣を振り回し、

そんなことを叫びながら戦う少女。 ように強靭な脚を使って高く跳び、 素早く動き、 バーディンはそれを嘲笑うか 剣はまったく当

たってない。

それに全く気付かず、 ただけの俺が言える立場ではないが。 ただ振り回しているだけ。 てもらったが、その観点から行くと少女の剣の扱いは下手くそ。 しかも、 という感じだ。 俺は爺さんに一応剣の振り方を教え 一応」教えてもらっ

そういえば、 って感じだ。 しかし、此処の民衆は少女を助けようともせず、 40代以上のおっさんおばさん以上しかいない。 よくよく見てみるとこの民衆の中には俺ぐらい そんなにバーディンが怖いのか。 ただ見ているだけ 。 の 歳 の

うことは、 これはひどい。 なるほど、 いるのか。 バーディ この女の子は無謀にもバーディン2体に挑み、 ンを倒せるぐらい強い奴がいな 61 か。 苦戦して とり

ザシュッ!

そんな、 然一体のバーディンの翼に当たったらしい。 やった!」...そうやって小さく言う少女。 物を切り裂く音がした。 見ると、 少女の放った一撃が偶 いやそれ、 フラ g..。

突いて背後に移動していた。 …言わせねーよ!とばかりに、 もう1体のバーディンは少女の隙を

.. これはやばくないか?

そう思ってる間にも、そのバーディンは右足を浮かせ、 を放とうとしている。 渾身のキッ

うん、 る前にやることがあるだろうがッ ヤバイね。 女の子、 その事に気付いてないし。 余韻に浸

だろう。 正って奴だろうな。 自然に体が動いた。 しかし、 もうバーディ 距離はおよそ5 m。 ンがキックを放つまで0コンマ何秒しかない 主人公補正。 あぁ、そのときは思わなかったが、 届きそうで届かない、 そんな距離 きっと補

間に合わないか...? くそ、 俺にもっと速さがあれば..。

カラ】が開花した時と同じような感覚。 そう思った途端だ。 今度は脚に集まる。 あれはベアルに押し潰されかけて またも、 直感みた ゚゚゚゚゚゚゚゚゚゙゚゚゙゚

そう、

いなのが俺の頭を過った。その力の源みたいなのが、

行けるー

ぶれ、 途端、 5mもの距離を、 その一瞬後には目の前にバーディンが居た。 景色が溶けた。 一瞬で詰めた訳だ。 先ほどまで正常に見えてい た周囲が微かに

が驚きの鳴き声をを上げようとした。 そのバーディ しかし、 グエッ!?」 その鳴き声は「グ」で止まった。 ンの腹に、 Ļ 俺が突然視界に入ったことによりバーディン 何か、 深く深く沈みこむものがあったから。 何故か? それは、

そう、 引いていた俺は、 やったのだ。 それは俺の拳。 バーディ ンの腹に向かって正拳突きを叩き込んでバーディンが目の前に来た時点で右腕を

は、 は吹っ飛ばされる。その進行方向に居た民衆の目の前に落ちたそい 「ギヤアアアアアア 苦しそうに声を上げた。 と甲高い声を上げながら、 その大きな体

俺の拳に沈んだバーディンもギャアギャア五月蝿く鳴くと、シンク む、気絶しなかったか...。 などと思っていると、 口したかのように2匹は立ち上がり、 したバーディンが立ち上がり、なにやら五月蝿く鳴き声をあげる。 大空へと舞いあがっていった。 先ほど剣で怪我

.. 骨を数本折った感触が有ったんだが、 アイツ大丈夫かな...。

後ろを振り返ると、 を払っていた。 でハンカチを振っていると、後ろから何かが立ち上がるような音が。 達者でなー...と、 もう既に見えなくなったバーディンを思い、 先ほどの少女が立っていて、体についていた砂

だね。 ん? あぁ、 さっきのストレー トで驚いて尻餅ついたのか。 健気

あ、あの―…」

「::何?」

「あ、えっとぉ...助けてくれてありがとう...」

「あぁ、良いって良いって」

なんだ、 だろうか。 るときとは大違い。 何か恥ずかしがりやな性格っぽいな。 もしかして、 仕事になると性格変わるタイプ さっきの剣振って

クショウ! かせてもらっていいでs...良い?」 あの、 ん、俺?...アルトって言うんだ、よろしく。 私エイナって言います。エイナ=ユーグリッド。 4時過ぎてる! ... じゃ あなエイナ!」 :.. あっ、 :: 名前聞 あー チ

「えっ、ちょっと...」

だ。 何気なく時計を見ると、指しているのは4時10分。 くらいの歳だからだろうか。 俺は当然ため口。 敬語かため口か迷っているよう オーマイガ

ナシズ爺怒るかな...。

は 門へと向かった。 そういうわけで、その少女、エイナとの話を強引にぶっち切っ エイナの困惑する声も聞きつつ、人を掻き分け、 エクシリア西 た俺

ずとも、 西門へたどり着いた俺は、 ちょいと注意させられた。 やはり待っていたナシズ爺に怒られはせ 気をつけます。

アルト= シューバの一日王都探索は終わった。

第6話:アルトは、王都エクシリア探索に出かけた。 (後書き)

ふぅ、文も気分も乗らないヽ (^ο^) /オワタ

感想・アドバイスお待ちしております!

第7話:アルトは、 自分の【チカラ】 を改めて実感した。

うーん.....」

たかい?」 「どうしたんだいアルト! 元気無いじゃないか! 風邪でも引い

「全くよ! そんな元気が無いアルトなんて、 アルトじゃないわ!」

...いやいや、別に違うっt...」

こうしちゃ居られないね! 薬でももらってくるよ!」

私も行くわ!アルトはそのまま待ってて!」

ハニー!」「ダーリーン!」

...... はぁ。

こう。 とりあえず、 2人が抱き合いながら家を出て行ったのは無視してお

...俺がこんなに落ち込んでいる...訳ではなく、 俺の【チカラ】のことだ。 考えているのは単に

前日 向かった。 を占める四大国の1つ、 俺とナシズ爺はエンヴァー 大陸のヒュマン・エリアの大部分 ガフリア王国の首都、 王都エクシリアへと

それは、 単に服や生活必需品などの買出しと、 王都という物の下見、

散策を兼ねた物だったのだが..。

瞬だけだが凄まじい脚力を得たようなのだ。 そこで偶然出くわした鳥型魔獣、 バーディンとの戦闘(?)で、

俺はその数日前に、 アレは、どう見ても、どう感じ取っても【チカラ】なのだろうが...。 【チカラ】を身に着けたはず。 大熊型魔獸、 ベアルとの戦闘で「怪力」という

... 不思議だ。

れは無い。 【チカラ】 は 2つ身につけることは出来ない。 というより、 そ

ということは、 これは1つの【チカラ】なのか?

ということは、 うん、 そうに違いない。 「爆発的に体の一部を強化できる【チカラ】

...よし、ちょっと確かめてみよう。

しだったドアをくぐり、 とばかりに俺は立ち上がり、 家の前にある地面の上に立つ。 2人が飛び出して行ったまま開けっ放

手に収まるくらいの手ごろな石発見。 アレで良いや。

も起きないよな。 俺はそれを手に持ち、 グッと力を入れてみる。 まぁ、 そりゃ何

さて、 体の中の 怪力! 此処から本番だ。 【チカラ】を眠りから覚ますように...! グッと力を入れ、 神経を集中させる。 :.. さぁ、

…バァン!

ſΪ 飛び散った石のかけらで少々掌に傷がついたが、 ... そんな爆発したような、 ていた石は粉々に砕け散っていた。 しかし硬質な音が響き、 ... うわ、 すげぇな。 これは、 俺の手に収まっ 結構楽し

なんたって、 ろうよ。 「歳の俺にとっては (精神年齢はあれとしても) はしゃぐだ 元の世界で傷くらいが限界だった石が、 粉々なんだぜ

それじゃ次は...脚力だな。

出す... 脚 力 : 来い とか思いながらクラウチングの姿勢をとり、 走

数秒走ったところで、 りの景色が溶けて見えると聞いたが・・ 途端に、 景色はあの時のようにぶれる。 はたと足を止めてみる。 まさにそれか。 F 1 の選手は走行中、 周

... これはひどい・・・。

まっ 途端にそう思ってしまう。 たらしいのだ。 なんと、 ミーモの森へと突っ込んでし

だな...。 後ろを振り返る。 く見える。 あぁ、 本当にとてつもない【チカラ】を手に入れたん ソツタに一軒しかない俺達の家が、 とても小さ

鹿型魔獣のディ アノが、 いきなり、 しかも尋常ではない速度で突っ

込んできた俺を見て、 たぶん、 唖然としているのだろう。 逃げもせず、 攻撃もせず、 まぁ、そりゃそうなる。 ただ俺を見ていた。

たもやベアルが襲ってきてもおかしくは無い。 これ以上ミーモの森で力試し (という名の暴れ回り)をすると、 【チカラ】で自信はあるが、 無闇に殺生はいけないな。 帰ろう。 ま

ある。 た。 ... そして俺は、 それでディアノー体が気絶したのは、 またもや凄まじいスピードで家に向かって走り出し 本人が知らない逸話で

食時だ。 帰ってきた2人が執拗に勧める風邪薬を何とかやり過ごし、 今は夕

この前のチーキンの残りや、ご飯(のような物、 を食べながら、 爺さんはまたもや切り出した。 味とか食感はご飯。

ね? アルト! 15になったら学校に行くのはちゃんと分かってるよ

勿論..。 何? 今更そんなこと聞いて」

í, 昨日までハニーと相談してたんだけど...」 アルトの行く学校が決定したのよ!」

本当? へぇ、楽しみだなぁ...で、どんな学校なの?」

「うん、その事なんだけど・・・」

「いい?アルトが行くのは、

ガフリア国立エク

シル魔法学園よ!」

アルトは、その名を聞くと硬直してしまった。

: 何

・・だと?

第7話:アルトは、自分の【チカラ】を改めて実感した。 (後書き)

何故かツイッター始めました。 「Yorai_G」でお待ちしております。 何故かこの名前で。

感想・アドバイスドンドンお願いしますねー。

第8話:アルトは、 ガフリア国立エクシル魔法学園へと向かった。

... 待ちに待ったこの時がやってきた。 てから1年程経ったのだ。 そう、 俺が学校の名を聞い

さて、 寮生活で大変だと思うけど! もう準備は出来たかい? 頑張ってきてね!」 アルト!」

もう何回も確かめたし。 大丈夫だと思うよ」

今日は生まれ育った家を発つ日。 ... 0歳の頃から意識があるから、なお更だ。 ここまで15年。 長かった。

生活用品などが入っている。 必要は無いかな。 まぁ、先ほど俺が言ったように何回も確認したし。 俺が持つバッグの中には、2人に揃えてもらった衣類や、文房具、 多少の本と、そしてお金が少量。 何かを忘れる

それじゃ、行って来るね」

「気をつけるんだよー!」「いってらっしゃーい!」

゙ハニー!」「ダーリーン!」

ソツタを後にした。 もはや恒例となった夫婦の抱きつき付きの挨拶を背中に受け、 俺は

巨大学園都市。 俺が向かうのは、 ガフリア王国首都、 ガフリア国立、 エクシル魔法学園である。 王都エクシリアの郊外にある

ガフリア国立エクシル魔法学園。

首都名の元にもなっている、 エクシルの名が付いた教育機関。 かつてエンヴァー 大陸を救った勇者、

ップとも。 その名に恥じない高いレベルを持つ学園であり、 それは大陸中でト

:. そう、 が初めてその名を聞いた時、 「トップ」なのだ。 戦々恐々としていたのはそのためだ。 元の世界で言う、 ハーバード?

6分の5が落とされるらしい。 勿論高いレベルのため、 しかし、 受験で出される問題も、 毎年多くの受験者がやってくる。 難易度の高さが伺える。 他の学園とは桁違い。

こここで、 前は受験してそれに受かったのか?」と...。 多くの読者様はちょっと疑問に思うだろう。 え_、 お

...アンサー、NOだ。 ッと滑ってもらっても構わない。 せ、 ちょっと違う。 俺は、今から受験に向かうのだ。

実はエクシル魔法学園、受験者に対する態度が物凄い良いのだ。 これは「自分が通うかもしれない学園なのだから、 の仮の寮を作ってくれるのだ。 毎年受験になると、建築系の魔法を扱う者たちが総動員で、 知名度を保つためなのか、それは分からないが。 本当の寮と、 瓜二つぐらいに。 寮の雰囲気にも

かのような雰囲気だったのも、 ソツタの家から持っていった荷物が少なかっ このためである。 たのも、 紛らわしい。 もう受かっ た

どである。 ガフリアを斜めに踏破し、 エクシリアに着いたのはその日の正午ほ

通に歩くより疲れたが。 .. 速すぎ? 11 せ 俺の 【チカラ】を使っ たのだ。 おかげで、 普

我慢しなければ。 そのおかげで魔獣とエンカウントしなかっ しかし、 結構辛い。 たのだ。 このぐらいは

が使えるのは試験日からである 試験日は、 明日である。 俺は適当に宿を取り 旅(笑)の疲れをとることに 学 園 の仮の寮

騒ぎである。 エクシル魔法学園の試験日は、 エクシリアではちょっとしたお祭り

段とは比べ物にならないぐらいの集客が見込めるということで、 なぜかというとヒュマン・エリア全土から受験者が来るのだ。 人エリアはかなり賑わうらしい。 商 普

そして学園に行くにはエクシリアを横断 かなければいけない。 専用の出入り口から行

変なことになるのである。 何が言いたいかというと。 主にもみくちゃ 試験日当日にエクシリアに行くと、 的な意味で。 大

それを避けるため、 **弁願** の宿を取る事にしたのだ。 いたい。 俺はその前日にエクシリアに入り、 試験の直前に疲れるのは、 是が非でも 出入り口付

`...あ、アレがエクシルの出入り口か」

学園の出入り口がエクシリア内の1つしかないのは、 めなのだろう。 単に防衛のた

強力な魔法壁が学園直属の魔術師によって張られている。学園の周囲では強固な壁がそり立っているし、上には透明ながらも 俺だけだろうか? 敵の侵入を防ぐんだそうだ。 それでも心配な学園長は、 入り口をエクシリア内に作ることで、 だが、あまり意味が無いと思うのは、

そして、 名前に似合わぬ、 ンター ck」という名の宿だ。 に座っていた。 宿を発見。 質素な入り口から入ると、 出入り口の目の前にある「Bla ... そんな名前で、 店主らしき人が、 宿なのか? c k カウ J a

おう、 B 1 a c k Jackへようこそ」

すごい低い声」でようこそ、 ムチな魔人」が、「エプロン(普通の灰色の奴だ)」つけて「もの 帰ろうと思った。 だってさ、だって「黒い土佐犬のガッチ だぜ?

身震いがした。 だが、 だがこういう人に限って良い人.....

泊まっていくか?」 学園の受験者か? ... なるほど、 宿代半額にしてやるよ、

人だった。 お一良かった。 ... しかし、 よく俺が学園受験

者だとわかったな..。 観察眼パネェ。

ことにした。 屋で空き部屋はなくなっ 良い人そうだったので、 たらしい)、その店主の魔人と話してみる 俺は早速泊まる事にし(幸運にも、 俺の部

ど、毛色は漆黒だしな。 店主の名前はジャック。 店名は其処からつけたらしい。 なるほ

じ考えを持った奴が挙って泊まりに来るのだそうだ。この店は数年前から開いており、学園の試験日前日に の試験日前日になると俺と同

そうだ。 っ た。 ジャックさんは、 強面な顔に似合わず、 そんな受験者に優しく宿代を半額にし やはり優しいジャックさんなのだ ているのだ

り怖い。 屋から出てきたが、 .. この後、 俺も半額にしてくれよ~」とか言う酔っ払いの客が部 ジャックさんは「うるせぇ!」と一喝。 やは

ッドに棚やクローゼットが配置よく、 宿の二階に上がり、 なっていた。 俺は宿代である銀貨1枚(元の世界で言う、 ックさんに渡し、 ジャックさんに貰った鍵で部屋を空けると、 とりあえず俺は部屋に行くことにした。 それでいてシンプルな造りに 5000円ほど) をジ

ベッドに横になる。 丁寧に干して...... 身震いが。 おお、 フカフカだ。 主にイメー ジで。 きっとジャッ クさんが

はなく、 俺は持ってきたバッグから本を取り出す。 受験 のための勉強だ。 といっても小説などで

ナシズ爺とサナブ婆特製の、 てきたからなぁ としみじみ。 元の世界で言う暗記本。 かなり勉強

そして、 そうそう、 【チカラ】のレベル測定と続く。 学園の受験科目は基本科目の国語と数学、そして魔法学、

学園は魔法と【チカラ】に文字通り力を入れているようで...

カラ】のレベル×2』が受験での点数になり、 「国語の点数」 + 「数学の点数」 + 「魔法学の点数×2」 + 合否とクラスが決ま

値化したもの。 【チカラ】のレベルとは、その名のとおり、 最高は100。 【チカラ】の強弱を数

例えば「火の玉を操る【チカラ】」なら40ほど。 【チカラ】」なら60ほどと、差はある。 火炎を操る

婆さんは言っていた。 平均は460点ほど。 よく知ってるな、 入るには380点は取らないと...なんて、 婆さん。

う夜は更け、 俺は金の入った袋をバッグから引っ掴んで夜の街へと駆け出した。 勿論夜飯を食うためだ。 . そのまま暗記本を見ていると、 辺りは段々と賑わっているようだった。 寝てしまっていたようだ。 も

物体)を売る店を発見。 適当な店で食おうと思っていた俺。 アレで良いか。 あ、 ホットドッグ (らしき

にしたのは、結構腹が減っていたから。 2つで」というと、 らっ すぐにホカホカのホットドッグ以下略が。 魚の魔人が対応してきた。 「それ 2 つ いや

10枚らしい。 えー っと...あ、 9 枚 しかない。

すると、 だ。 見落としていたのか? ...後1枚あったらな...仕方ない、1つにして他の店に行くか ふと見た袋の底にきらりと光る円形のメダルが。 俺はその魚人に1個にして欲しいと伝えようとしたんだ。 : 銅貨

た。 た。 これで10枚。 パン (らしき物) がちょっと硬かったが、 やはり2つで良いや。 結局俺は2つそれを買っ まぁ まぁ 美味かっ

...やっぱり見落としていたのかなー...と俺は自己解決し、 c k Jack」へと戻り、 風呂歯磨き洗顔、 すぐに寝た。 В 1 а

ガフリア国立エクシル魔法学園の試験日まで、 あと1日。

第8話:アルトは、ガフリア国立エクシル魔法学園へと向かった。 (後書き)

昨日何があったんだろうか

書きましたっと。 とりあえずアルトの【チカラ】がブー スターじゃ ないということは 12000pvやら何やらありがとうございます!

うおお、サッカー見ないと!

感想・アドバイス、お待ちしております!

第9話:アルトは、 縋る思いで最後の掲示を見た。

「…おっし」

A M 7 : 3 0 °

アドバイスだ。 よりぐっすり寝たほうがしっかり試験に臨めると、ナシズ爺からの 一晩ぐっすりと寝て、 今日はエクシル魔法学園の試験日だ。 徹夜

あった服を取り、 今日からは学園謹製の仮寮生活となるため、 バッグに全ての荷物を入れ、 クロー 部屋を後にする。 ゼットにかけて

「…おはよう」

...あ、おはようございます」

この人だけは、流石に敬語でしか喋れねぇな・・ 1階へと下ると、 ジャックさんは既にカウンターに座っていた。 •

裏へと入っていった。 朝食を頼むと、 ジャックさんはその強面とガチムチな体を動かし、

B l a c k まるでホテルだなと思いながら、 Jack」...夕食は出さないが、 ジャックさんを待った。 朝食は出してくれ

お待たせ。 B a c k Jack特製のウィッチサンドだ」

数分待って裏から出てきたジャックさん。 で言うサンドウィッチが皿に盛られていた。 その手には、 元の世界

: うん、 ガー 美味そうだ。 のようにとてつもなく厚いんだ...? 美味そうなんだが...なぜ挟まれている具が

... ウィッ チサンド。

野菜)、 その昔、 レタス (に似た葉物)を食パン (みたいな物)で挟んで食 高名な魔女がハンバーグ(のような物)とトマト(っぽい

あぁ、だから「魔女サンド」なんだ。ったのが始まりらしい。 ンバーガーを合わせた物だと。 紛らわしいな。 つまりサンドウィッ チとハ

「…美味しいですね」

八八、 だろ? 此処らへんじゃ1番だと自覚してるからな」

か。 ジャ ツ クさんはウィッチサンドのことを褒められると笑うのだろう 今までいつも強面だったのに。

味のほうだがもちろん見た目通りに美味く、 しまった。 ちゃんと噛まなくちゃな。 僅か数分で食べ終えて

: さて、行くか。

よし、頑張って来いよ」

「はい、行ってきます」

試験には受験者だけ居れば良いのだが、 表へ出ると、 宿屋「Black たちと、 きちんと洗顔歯磨きをし、 くの受験者に親が着いてきているようだった。 その親だろう老若男女が集まってきていた。 其処には試験を受けるのだろう、たくさんの少年少女 Jack」を出たのはAM8:00だ。 ジャックさんの声援兼挨拶を受けながら やはり心配なのだろう、

た。 k まだ比較的空い が学園正門に近い事もあって、 ている時間帯だったらしく、 楽に門を潜り抜けることが出来 В 1 а c k а C

そういえば、 俺は敷地内へと、 まだ学園全体を見たことは無い 1歩足を踏み入れた な...そう思いながら、

か分からない。 エクシル魔法学園の敷地は広大だ。 東京ドー ムが何個入る

その中には一般の教室棟を始め、各種類に応じた道場(武術家も集 まるのか...) や食堂、 温・冷水プール、 果てにはスタジアムまで

来る。 ありとあらゆる施設が有り、 そのレベルの高さを窺い知ることが出

制服はブレザーらしい。 ところでその紺色の制服を見た人物を見かけた。 試験会場に行くまでの間、 ありとあらゆる

私服なのは、俺達受験生だけだ。 さっさと試験会場へと行こうか。 :.. まぁ、 紹介はこれぐらい

場所は、 け取り、 あるが、 試験会場は一般の教室が立ち並ぶ一般教室棟。 俺は受付でエルフの姉ちゃんに俺が受ける場所が記載された紙を受 全てを使って試験を行うらしい。 その場所へと向かう。 ¬ 3 Ē どうやら3・EというHRのようだ。 受験者数が多いためだ。 A・B・Cと3棟 案

クラスに分けられ、 この学園は合否判定と共にクラスが決まる。 点数が良く上位クラスに入ることができたならば待遇もよく、 それは卒業までの間、 維持される。 点数によってG~ 内板に従い、

3・Eへと向かう。

下位クラスならば待遇は低い。

つまり、 とりあえず出て来い。 この入学試験で全て決まるわけだ。 この制度作った奴、

された席へと着く。 兎にも角にも、 俺は指定された3・Eへと着き、黒板(?)に掲示

そして、 席に着き、 俺が爺婆特製の暗記本を読んでいる間にも次々と受験者は 思い思いの方法で最後の追い込みをしている様だった。

られると、 そして、 、魔術式遠隔声波発信器で張りのある女の声が告げた。AM9:00。(国語、数学、魔法学全ての試験用紙が 魔法学全ての試験用紙が配

それでは、試験始め!」

だった 俺は、 少し緊張しながらも、 一枚目..国語の用紙を表向きにしたの

の 日。 それから、 んだから。 : え、 早 い ? 週間が経った。 仕方ないじゃないか、 今日は、 エクシル魔法学園、 本当にすることが無い 合格発表

お 全教科90点以上は超えているだろうと思う。 簡潔に言うと、 これは上位クラス確定か? 試験は結構簡単だった。 フラグ? 自分で言うのもなんだが、 またまた。

を開け、 間もなく、 あれか? なにやら、 【チカラ】 バスケットボールほどの大きさの黒い球を持ってきた。 ガ のレベル判定は、 深く帽子を被って濃紺のローブを着た男が3.Eのドア 試験開始の宣言をした女の声がスピーカーから聞こえる。 ツか? と思っていると、男はそれを教壇に置い 3 教科が終わった後、 最後に行われた。 た。

なさい。 秒手を付け、 今入ってきた男たちが持つ黒い球は「判定球」 以上 【チカラ】のレベル判定をしてから仮寮の受付に行き だ。 それに1

俺が見ていた限りでは、ある者は触った途端にその黒が透明に変化 判定球は、 の中で逆巻き始めた。 ある者は、黒が透明に変化すると、その黒は漆黒の火炎のように球 なるほど、 し、その透明の球の中で雲丹のような棘棘が浮いていた。 俺達は一列に並び、順番に判定球へと手を伸ばす。 手を付けるとその黒がいろいろな変化をするらしい。 これで【チカラ】のレベル判定をするわけか。 納得。

Ļ も起こらなかった。 その黒が透明に変化し、どんな変化が起こったかというと...。 つい 何も起こらないのだ。 に俺の番が来た。 神妙な面持ちで、 0 秒経っても、 判定球に触る俺。 同じ黒球のままで。 何

派手な変化を内心期待していた俺は、 ·Eを後にしたのだった。 ちょっとがっ かり しながら3

クラス関係なく同じ部屋だという) とまぁこんな感じだ。 そして仮の寮 (結構快適。 に登録し、 今に至ると。 こればかりは

さて、 の声。 そろそろかな...と思っていると、 スピーカー からまた同じ女

格者の掲示をしておく。 「 諸 君、 おはよう。 午前9:00になった。 仮寮の入り口に合

いなさい。 「合格したものは、 以上 あわせて掲示されているクラスのHRへと向か

下を駆けていく同じ受験者達と共に俺は掲示へと向かった。 やっと来た。 「行くか!」という自分を鼓舞させる声を出し、

かれ、 仮寮入り口、掲示近くへと来た俺は、 きな学校だ。 G~Aの7クラスで280名なのだから、 「エクシル魔法学園 その横には「合格者数 合格者掲示」という大きな文字が一番上に書 280名」と書かれている。 張られている掲示に目を移す。 1クラス40名か。 大

得点も掲示されるとは中々鬼だな、この学園。 そして掲示の方法は、「順位 名 前 得点」 の順で掲載される。

俺は、 最高位クラスから俺の名前を探すことにした。

Aクラス

- ダント・サスティーフ 540

40 エリカ=フレイユ 516

Aクラスには俺の名前は無かった。 日本人っぽい名前を見つけるのはなぜだろうか。 まぁ仕方ないか。 エリカと

がエンカウントすることは無かった。 その後も、 次々と掲示を見て回る俺だったが、 俺の名前と俺

た。 そして最後、最下位Gクラス。 俺は、 縋る気持ちで掲示を見てみ

G クラス

241 ミリア・メテリア 400

•

•

280 アルト=シューバ 380

:

...最下位...だと...?

園に合格し、 こうしてアルト゠シューバは、 入学することとなった。 ガフリア国立エクシル魔法学

だが、入るクラスは最低の、Gクラスだった。

第9話:アルトは、縋る思いで最後の掲示を見た。(後書き)

はい、 ト 君。 Gクラスはここで出ました。 最下位クラスの最下位、アル

感想・アドバイス、お待ちしております。

第10話:アルトは、Gクラスからの痛い視線を受けた。 (前書き)

何はともあれ、ありがとうございます。ランキング55位だった件について。

今回は、1番 gd gdですorz

0話:アルトは、 Gクラスからの痛い視線を受けた。

の[▸]Gクラス。 エクシル魔法学園の1学年全7クラスのうち、 最? 低^ス 位

面々は、何時も個性的である。けで其処に落とされる秀才が居たり、 だが、総合得点が低いだけであり。 中には一教科が出来なかっ 天才が居たり。 G クラスの

た。 垂れる中で近くにある魔術式遠隔声波発信器から流れる声に気づいらたりので近くにある魔術式遠隔声波発信器から流れる声に気づいいりつえりです。 頂ぅ

入りなさい 繰り返す。 合格した者は、 速やかにそのクラスのHRに

: あ、 やべ...」

悲しみの中、 急いで俺は1 · GのHRへと向かった。

た。 …その面積だけでも広大な一般教室棟。 その1階で俺は走ってい

- Aから1 · Gまでは順番にクラスが並べられ、 Gクラスは1番遠い。 当然のように1

そのお陰で、俺は1・Aのもは玄関から1番近く、 こととなった。 ·Aの設備の良さをまじまじと見せ付けられる

あえて言うなら、 大学の講義室を普通の教室用に改造した物。 全

なっている。 ての者が黒板を見やすいように、 後ろへ行くに従って机が一段高く

高校生なのに大学レベルかよ...。 · Gの姿を想像するとな。 俺は泣きたくなる。 これから考え

その他にもまだ設備はありそうだが、 てしまいそうだ。 深くへ突っ込めば本当に泣い

そして1 の前へとたどり着いた。 . В 1 -C と過ぎていき、 ついに俺は1 Gのクラス

...うわ、開けにくっ...

早速欠点発見。 これはひどいな。 窓はすりガラスだが、 如何せんドアが開けにくい。

アを開け切った。 開けられないというわけではない。 力を少し入れて、 ド

:

後ずさりし、ドアをもう一度閉めたくなった。

あぁ、 設備はボロ臭い学校机と椅子だ。 まぁ酷いにしても良かっ

た、段ボールとかじゃなくて。

子までもが。 ? しかし、それよりも。 多分俺が入る前までは談笑してた男子、 ... クラス中から、 視線が飛んでくるんだぜ 女子、 突っ伏してた男

目が痛い。 もう俺以外は揃っていたのであろう。 あぁ 俺が座る席が何処か、 8個の突き刺さるような わくわくしてるわけだな。

べられている。 この学園では、 縦5×横8席。 計40個の机と椅子が1クラスに並

と続き、1番右下が40位だ。 上から見て、1番左上がクラス1位。 其処から右へと2位、 3 位

のか。この空気の中で、 俺は1番右下の席へと座らなければいけない

.. 意を決して。

ガタッ... ガタッ

見 た。 座ったさ。 あぁ、 座ったとも。 チラリと、 周りの様子を

談笑してた男子A「...フ.....ガヤガヤ」

突っ伏してた女子B「.....フフ...」

にさらに憂鬱となり、それで先ほどの動きを再開させたクラスメイト達に、 皆から笑われたよね。 机へと突っ伏したのだった。 微笑を受けたよね。 主に哀れみの。 俺はさら

おH

な。 トントンと、 肩を叩かれた。 男なのか女なのかわからない声だ

... ほっといてくれよ、 からかいに来たんだろ.... 俺は皆から笑われて憂鬱なんだ、 お前も俺を

「...ガッ!? 痛え...!」「おーい!」

ドン! い意思に反して反射的に思わず起き上がる俺。 Ļ 肩を叩かれた。 そんな声と共に、 起き上がりたくな

そして、殴った奴のほうを向いた。 する奴は! 誰だよ、 俺にこんな仕打ちを

.. 其処には、 な顔で、とても殴る奴の顔とは思えなかった。 黒いローブを着た赤金色の髪を持つ女が居た。 端正

はり殴る奴の顔とは思えない。 ..多分俺がこの女の方を向いたからだろうがニコニコしており、 き

聞いてみた。

「......何だよ」

赤茶の髪を掻きながら尋ねる俺。 事を口走ってきた。 するとその女は、 思いも寄らぬ

.....

やっぱりだ。..... 久しぶりだな、アルト」

ナンパしたことなんてないぞ? は? 瞬、 思考が止まった。 え、 俺はこんな美少女を

:.. あぁ、 人いると言うし。 同姓同名の人違いかな。 同じ名前を持つ人はこの世に3

「......人違いじゃないか?」

これでこの女が去ってくれれば、 この言葉は、 しかし、女はまたも予想を裏切り、思いも寄らぬ事を口走った。 俺がこの日衝撃を受けた言葉、第2位だ。 俺はまた憂鬱感に浸れる...ウフフ..

言う俺の名前をさ」 違えーよ。 ...覚えてないか? エイナ= ユーグリッドって

... またも思考が止まった。 ... エイナ゠ユー グリッドって言えば

!!!!

日 だ。 思い出した。 そこで、バーディン2体と果敢に戦っていたあの少女。 一年前のあの日、そう、 エクシリアに下見に出た

「...は、お前..本当にエイナか?」

「正真正銘、本物だ」

震える声で聞くも、 しがり屋で金髪、そしてこんな男勝りな口調じゃなかったはず...。 即答された。 :. だが、 確かエイナは恥ずか

そんなで日々鍛えてたら、 ... いやな、お前とあの日会ってから自分が情けなくなってよ。 こんなになった。

た。 俺の考えを見透かすように、 その女...エイナ= ユー グリッドは言っ

とか。 ために猛烈に特訓したらしい。 エイナによると、 あんまり似てないが。 あの日バーディンをぶっ飛ばした俺に近づく 髪色は俺に似せるよう魔術で変えた

そして、自分の年齢と同じ『様』 入ると確信し、 猛勉強した結果。 だった俺を『勝手に』エクシルに

背は俺よりも頭1つ小さいが、 グリッドが完成したらしい。 赤金の髪を持つ男勝りなエイナ= ユ

のだが。 だろうか..。 ... 何たる執念だろうか。 俺としては、 あの時の俺がそんなにかっこよかっ バーディンをぶっ飛ばしたに過ぎない たの

..しかし、知り合いが居た。

「…あぁ、よろしく!」「よろしくな、アルト」

ちょっ の隣。 と元気が出た。 知り合いが隣に居ると、 エイナはこのクラス39位。 こんなにも安心感が出るのだろう まり、 俺

ときは、 しかし、 嘘かと思ったよ」 アルトが280位とは思わなかったぜ...。 掲示を見た

だが。 3教科は多分90点以上、 あの時を思い出しているのだろうか。 【チカラ】 もそれなりにあると思っ エイナが言う。 確かに、 たん

俺も嘘かと思ったが...どうやらホントみたいだな。 おかしい

な...上手く出来たと思ったんだが...」

ろ?」 なっ た物はしょうがないさ。 これから取り返していけば良いだ

またも項垂れる俺に、 男勝りな女神様か。 エイナは笑みを投げ掛けてきてくれる。 納得。 あ

ボアーナが大軍勢で爆走するような音。 ...そこで、音がした。 何だと首を傾げる。 まずは廊下から、 話していた俺とエイナは、 ドドドドドツ !という、

うな音。 そしてこのクラスの前でキキキィィ 最後に、 廊下側、 クラス前のドアが「ガララッ 1 !と車の急ブ キのよ では無

なかったな。 !」と閉められる音だった。 「 ピシャ アアアア <u>!</u> と開けられ、 俺ら40人、 絶句。 ピシャ アアアア よくドア壊れ

そして、その音を出した張本人はといえば。

けよー」 ちょっと遅れた。 すまんなー。 はいはー ſĺ 席に着

碧の髪で、 った...「女性」だった。 パンパンと手を叩き、そんな抜けた声で席に着くよう指示する..... 同じ色のジャージ、そしてメガネをかけ、 ファイルを持

も 俺たちは、その言葉で絶句状態から抜け出し、 のは席へと座り、 座っていたものは身なりを正しくするのだった。 席から離れてい

ジェイ・クロウスだ。 Gクラスの皆、 おはよう。 よろしくなー」 私が1 - Gの担任を務める

黒板に「 抜けた口調でこう続ける。 J a У C r 0 W S と書いたジェイ先生は、 癖だろうか、

後は自由だー」 もらって、 それじゃ 解散、 ĺ 今日は顔合わせということで、 その後は外で寮の登録して寮に入れよー。 皆に自己紹介をして その

なんでも良いぞー。 「じやー、 1番の... メテリアー。 では、どうぞー」 名前とか趣味とか得意な事とか

と呼ばれた長い銀髪の少女は、 メテリア...そういえば掲示の一番上だったから名前は知ってたな.. 席を立って、こちらを見た。

とは...お菓子作りです。 ミリア・メテリアです...。 ... よろしく」 :: えと、 趣味は読書、 得意なこ

ら「思い出させるな」と軽く頬をぶたれた。 しかし口調が昔のエイナに似てたので思わず口にすると、 可愛いな。 特にお菓子作りのとこが。 痛いんだが。

さて、 ほぼ皆の自己紹介が終わった。 次はエイナの番だ。

ことは...無い! 「エイナーユー グリッドだ。 よろしく!」 趣味は鍛錬かな。 剣技の。 得意な

:.. まぁ、 元気はい いけどさ、 でもこの男勝りな感じは一部の男子にもてそうだな。 _ 無い で締めくくるって... えええぇぇ تع

ワーストだけど、よろしく」 「よーし、最後だなー。 ... アルト= シューバ。 趣味は料理。 シューバ。 どうぞー。 得意なことは格闘術。

という顔をしていた。 俺がそう言いきって席に座ると、今度はエイナが「えええぇぇえ」 何か悪かったかな。

であるサナブ婆に鍛えさせられたからな。 あぁ、言い忘れてたけど俺、結構料理が得意だ。 自称料理の達人

ら聞こえたのは気のせいだろうか。しかし、俺がワーストと言った途端、笑いがどこからかちらほ

う言って、ジェイ先生が語り始める。 「いやー、しかし今年も個性的な奴らばかりだなー」 ... 唐突にそ

「二つ名持ってる奴らばっかりでなー。 《爆速》のヨハンー、《金剛剣士》のユーグリッドとー」 《獄焔》のメテリアにー

今年のクラス対抗は、 番狂わせが起こるかもなー」

強さの証みたいなもんか。 フフと笑うジェイ先生。 さっきのメテリアも? 二つ名? ...って、エイナが二つ名持ちだと!? あぁ、厨二の証..ではなく、

のだが、 サラッというエイナだが、俺は驚きが隠せない。 「クラス対抗」というのは、 あぁ、なんか剣技の鍛錬してたら、二つ名付けられた」 それは別の機会に話そうかな。 いわゆるクラス同士での戦闘の対決な 軽く

みだー。 それに、 《不運な天才》のシューバも居ることだしー。アンラッキー・パーフェクター あー 楽

: ん? ス中の視線が俺に...痛い...。 なんか変な二つ名を付けられたような。 あれ、

:: いや、 お前も二つ名持ちなのか?」 貰った覚えはないんだが。 とエイナに尋ねられる。

しとけよー。 じゃー、 今日はこれを配っておしまいなー。 其処で必要な制服とか教材も貰えるからなー。 ぁ 外で寮の登録

書いてある。 そう言って配られたのはプリントだ。 「それとー。 ん ? あぁ、 明日の持ち物とかが

高位のダント・サスティーフと一緒に呼ばれてるみたいだぞー。ップ 「シューバはこれが終わったら学園長室に行くようにー。 学 年 最⊦

たく鼻で笑ってたクラスメイト達も、「トップと共に」で一斉に振 .. えええ!? り返った。 学園長室に行くよう言われた時は「何したんだ」

.. いたっ、 てくれ…。 視線が痛い。 ぁ エイナも見てる。 ... 痛いぞ... やめ

先生は、 から出て行った。 「それでは今日は終わりー。 先ほどの入り方とまるで違う、 じゃあなー」 のろのろした歩き方でここ ... そう言うとジェイ

皆が次々とクラスから出て行き、俺も同じように1 としか答えられない。 エイナに「何したんだよ。 そして学園長室に行こうとし、 俺自体、全く心当たりがないのだから。 」と尋ねられるも、 気付く。 「いた、 - Gから出た。 わからん」

「...学園長室って、何処だ...?」

学園生活が始まった。 こうして、アルト=シューバは知り合いも増え、1.Gでの

学園長室に呼ばれたアルトは、その日、一番の驚き様を呈す

る事となる。

第10話:アルトは、Gクラスからの痛い視線を受けた。 (後書き)

これからは gd gdしないように気をつけないと...。 もう一度、ありがとうございます!

1話:アルトは、 勝手に宿敵扱いになったようだった。

クしていた。 た重厚な造り 俺は、 ジェイ先生から「その通告」を受けた10分後。 の木の扉の前に立ち、何を言われるのかと内心ビクビ 【学園長室】と刻印された金属のプレートが吊るされ

「…ふー……よし」

の場所を探していた。 Gクラスでの顔合わせが終わった直後、 俺はとりあえず、 学園長室

... 案内板があればな...。 直ぐ分かるんだけども...」

Ļ そこでちょうど案内板が。 : お、有った。 どれどれ... 「特別教室棟、 急いで駆け寄り、学園長室を探す。 5 階 ?

確認してみよう。 今俺がいるのは一般教室棟の1階。 そし

て、学園長室は特別教室棟の5階。

..それぞれの距離は、およそ100m。

:. え?

た俺は、 という訳で、 やっとその扉の前にたどり着いたのだった。 急いで100m + の距離を【チカラ】 使用で走破し

ける。 意を決して、 俺はその扉を軽く2回、 ノツ ク 声を掛

「1.Gのアルト= シューバです」

「入りなさい」

ドアノブを握り、 聞こえてきたのは、 した優しい男性の声。 グッと回してドアを開けた。 、。 いや、アレは40代位の声だったけど。ナシズ爺よりも歳を召してそうで、ふんわ! ふんわりと

優勝したのか、 床には赤いカーペットが敷かれていて、両側の壁には何かの大会で された校旗が立てかけられていた。 奥の窓近くには、 開けた先には、扉と同じく重厚で豪奢な部屋が広がっていた。 トロフィーが30個ほど並べられていた。 剣と盾を交差させたような配置の、 学園章が刺繍

その手前、 髪の老人が座っていた。 そして、 たプレートが置かれたそこには、 1番早く目に付く、 高そうな机と椅子。 \neg 声と同じく優しそうな表情の、 ヤツ」 は立ち、 学園長と書かれ 白

を見ていた。 俺から見て左側に、 首を回してこちら

う「細マッチョ」かとそう思う。 白と黄色を基調にした、 長身痩躯だが、 捲くった腕は明らかに筋肉がついていて。 まるで騎士のような姿をし、 腰には細い 俗に言 剣

でも忘れない。 金髪で無表情な、 ... アレは完全に、 だが口元に少し笑みを浮かべたヤツの表情は、 馬鹿にしたような顔だ。 今

レイピアだった。

:: さて、 2人揃ったところだ。 話を始めようか」

から話し始めた。 ファルモート ・ガインと名乗ったその老人...学園長は、 そう言って

まぁ... 2人には話すことが違うからのぉ... まずはサスティーフ。 お前からじゃ」

はい。 ...して、なんでしょうか」

学園の長と、1年最高位が、話し始める。

や よ。 ことは分かっておったよ。 「お前さんが此処に来ると分かった時から、上位に食い込んでくるゃよ。 ...しかし、流石若くして《聖騎士》と呼ばれる男じゃのう」 なに、 毎年最高位の奴にはワシから1回話すことにしているんじ とりあえず、おめでとう」

· はっ、ありがとうございます」

その能力も他の奴らより頭1つ抜けているという。 …どうやら、トップのサスティーフは《聖騎士》の二つ名を持ち、 美貌で多くの女性を虜にしているらしい。 その名は王都では広く知られており、 能力もさることながら、 その

なんだ、 ア 充。 ..で、最低位の俺が何でそんな人間と並んでるんだよ...。アネトア充。 パーフェクト人間じゃねぇか...。 頭脳明晰、眉目秀麗、おまけに運動も出来る。 そしてリ 落ち

込む俺。

並んでいるのでしょうか」 「...して、 なぜ私がこのようなGクラスの、 しかもワーストの奴と

こっちが知りたい。 後、 その馬鹿を見るような目はやめてくれ。

がメインだったりするものでのぉ...」 「…さて、 次はシューバ。 お前じゃよ。 ... 実を言うと、こちら

: え? に驚いた感情が見え隠れしている。 こちらがメインだと? ... サスティー フも、無表情の中

「…それで、なんでしょうか」

俺がそう問うと、 ガイン学園長は.....なんと、頭を下げた。

学園長。 顔を上げた学園長は、 「まずは謝らなければならん。 …時にシュ 」 バ 俺は、 驚きのあまり声が出ない。 続いて俺にそう尋ねた。 お前は、自分の能力を理解しているか?」... 本当にすまなかった」...そういう

と捉えていますけども...何か?」 ... 自分の中では、 『爆発的に体の一部を強化できる【チカラ】

ふむ、 実はな、 家庭の事情で、そんな風に捉えることも仕方ないじゃろう。 お前の【チカラ】はそんな小さいものではないぞ」

カラ】 意外とハイテクだったんだな、 : え? の種類を測定する機能も付いているらしい。 違うの? 聞けば、 あの球。 あの黒い球…「判定球」 には、 【チ

ねると、 : で、 俺の ガイン学園長は、 【チカラ】はどんなものなんですか?」 口を開く。 俺がそう尋

手に入れる【チカラ】』...通称『創造主』じゃ」「...あぁ、お前の【チカラ】は...『自分が望んだモノを創り出し、

ば、硬直していた。 ...読者の皆様にとってはもう予想済みだろうが、その当時俺といえ そう、これこそが、 ラ】が違って、しかもチート能力...? 俺の1番驚いた様子。 まさに「はっ?」って感じで。 俺の思っていた【チカ

.. そう考えると、確かに... と思える部分がある。

ディンを吹っ飛ばしたときは、 枚銅貨が足りなかったが「もう1枚銅貨があれば」と望んだら袋の そういえば、 底に1枚出現した。 ベアルを押し返したとき、俺は「怪力が欲しい」と願った。 夜店でホットドッ クもどきを買ったとき、 「脚力が欲しい」と望んだ。 明らかに1 バー

先ほど「案内板があれば」と望んだ時、 るように思ったが、 あれももしかして。 偶然にも近くに案内板があ

... ホントなんですか?」

あぁ、 本当じゃよ。 判定球」 に狂いはないわい」

マジかよ...そう単純にそう思っていると、 いついてきた。 サスティ フが突然喰ら

何があると言うんですか?」 ... しかし学園長、 クリエイター』 それだけで合格してきたGクラスのワーストに、 · ? 俺より強い【チカラ】だと...?

...驚いた表情のサスティー あるある。 っ あぁ、 コイツ負けず嫌い つ ぽいな。

言い返すように返答する。 まぁ、言っている事は確かだろうな...そう思っていると、 学園長は

レベルが『0』 何を言うておる、 と測定されたというのに合格してきたんじゃぞ?」 サスティー っ。 シューバはな、 【チカラ】 の

·...なっ!?」

つまり俺は、 してきたのか? 今度はサスティ \neg 国語 ーフが驚いた。 + _ 数学」 + 「魔法学×2」 ついでに俺も驚いている。 9 だけ』 で合格

ンスよく、 サスティ ı 平均は90だったのう」 っ お前は確か、 学力も【チカラ】 のレベルもバラ

はい、 じゃないな、 とサスティ コイツ。 ーフは返す。 しかし平均90とは...、 並大抵の男

判定球がが それが無くとも380という点数を出したのなら、 の平均は、 が機能しなかったようじゃな。 は非常に強力な【チカラ】でのう...あまりに強力で、 95点じゃ」 よってレベルは0」 シュ バの学

ゃのう」 断されたのじゃが、 それだけではなく、 多分「クリエイター」のレベルは98くらいじ シューバの「クリエイター」はレ ベルロと判

それを2倍して、 シューバの点数にあわせると...」

「「576・・・」」

俺とサスティー なんて...。 まで高い点数とは...。 Į, 2人の声が合った。 しかも、 レベルが超高い【チカラ】だった 簡単とは思ったが、 そこ

シューバは」 「普通ならば、 サスティーフの点数を軽々超えていたんじゃよ。

「だがのう...クラスはもう変える事は出来ぬ。 ...シューバは、それで良いかのう?」 待遇もそのままじ

だ。 あぁ そういう話か。 : ふ む。 だからガイン学園長は頭を下げてきたわけ

あぁ ... 俺は良いですよ。 Gクラスで知り合いも出来たので...」

そんな理由かと思うかもしれないだろうが、 ほど大切な物はないと確信している。 しかも、Gクラスは何か面白そうだし。 • 俺はそう思ったのだ。 知り合いなら、 Gより良い物は無い 俺としては学友の存在 尚 更。

とになりそうじゃのう。 ・Gのジェイも言っておったが、 まぁ2人とも、 今年のクラス対抗は面白いこ 仲良くするんじゃ

冗談じゃ有りませんよ。 俺より強い奴なんて居ないです。

...クラス対抗で、潰して見せますよ」

そう、 ず嫌い」が「確実に負けず嫌い」へとシフトした。 悔しそうにこちらを見ながら言うサスティー っ 「多分負け

... Aクラスは強い奴ばかりですからね。 頑張りますよ」

俺はそういうだけ。 ガイン学園長は、笑いながら最後に言っ た。

行って来るんじゃな」 とはいえ、お前達が卒業するまで面白いことになりそうじゃ 私の話はこれで終わりじゃ。 早う寮の登録と必要な物を貰いに

など無いだろうけどな...ハハハ。 ... お前の名前覚えておくぞ。 とはいえ、ワーストと当たること それでは学園長。 失礼します」

イツの名は「負けず嫌い」っていう渾名と一緒に覚えておくか。そう言って勢いよく扉を開け、歩き去るサスティーフ。 まぁ.. うざったい笑みと共に名前を覚えられ、 ん、これは死亡フラグか? 何か宿敵扱いされたような まぁ...ア

「…えっと、それじゃ失礼します」

まぁ、 扉の先にはサスティーフが歩いていると思ったが、もう居なかった。 そう言って俺も扉を開け、一礼してから学園長室を後に 最後に見た後、走ったのだろうか。 俺にはどうでもいいことだし。 歩いて帰ろう。

そう思って、

俺は歩き、

寮の登録、

必要な制服や教材などを貰っ

て、登録された寮の部屋へと入った。

こうしてアルト=シューバは、自分の【チカラ】の全てを知

っ た。

それは、これから始まる学園生活の、ほんの序章に過ぎなか

った。

... まぁ、まだ1日目だしね。

第11話:アルトは、勝手に宿敵扱いになったようだった。 (後書き)

ありがとうございますありがとうございますありがとうございます...

マジでビビッてます、マジで。

るので、お願いします! ありがとうございます、これからも読みやすい小説を目指して頑張

2話:アルトは、 唯一の知り合いの 【チカラ】を知った。

ダント・サスティーフから勝手に宿敵な感じにされた俺。 寮登録をするため特別教室棟の階段を下りながら、 ガイン学園長から衝撃の事実を叩きつけられ、 俺は考える。 学年トップの

... つまり、 俺が何か望めばそれが叶うってことなのか?」

思わず口にし いた事実だったのだ。 てしまうが、 誰だってそうなるだろう。 気にしない。 それほど、 俺にとって驚

__

事を確認する。 ちょっと試してみよう。 金を入れる袋を開け、 何も入っていない

そして、「金よ来い!」 やっぱ何か制約g と願ってみた。何も起こらない。

する。 途端、 ることも出来る。 俺の袋には一瞬の内に金貨が半分ほど入っていた。 夢かと思ったが、 振るとちゃんと音がするし、 しっ かり触 呆然と

るූ この世界の硬貨は、 金貨は一枚で銀貨の200倍、 銀貨は一枚で5000円だからな。 全部で3種類。 日本円で100万相当の値打ちがあ 銅貨が1 00円相当、

気のせいだ。

そんな金貨が、

5000円相当、

金貨が100万相当。

相当幅がある気がするが、

目測30枚ほど。 総計、300

0万...。

んでもやばい。 やはり、 夢ではなかった。 学園でもやばいかもしれない。 しかし、 大金を持って歩くのは幾らな

物だ。 俺が消えろと念じると、金貨は跡形も無く消えた。 やはり、 本

俺は、 内心ビクビクしながらエクシル学園寮へと向かうのだった

0番となります」 はい、 Gのアルト= シューバさんですね? 部屋番号は28

あ、ありがとうございます」

ります」 のアルトさんですね、 制服はこちら、 教材等はこちらとな

はい、ありがとうございます」

ませ、 眼前に広がるのは、これまた巨大な学園寮。 まなければいけないらしい。 寮の前へと来た俺は、これといった問題も無く、 1番だったらしいのだが。 しかし、 制服と教材を貰うのだった。 俺の順位と同じ280という番号は偶然だった。 どうでも良いか。 近くに住むやつは涙目かもな。 生徒は全員、 普通に寮登録を済 寮は同じなのだか 寮に住

50

本当は た感じもする。 Aクラスだったらしい俺。 だが、 Gクラスのほうが良かっ

唯一の知り合いであるエイナと出会えたし、 番狂わせになるかも、 とジェイ先生も言っていた。 今年のクラス対抗戦は

ようかな。 なんか面白そうな奴らもちらほら居るし、 明日にでも話しかけてみ

寮の中に入ると、 学年1階らしく、 くそ、 廊下は結構長く続いており、10 やっぱり1番の方が良かっ 幅3mほどの広い廊下の両壁に扉が付いて 1年は1階だ。 たかも。 そして2 0m以上はあるだろう。 80番は廊下の一番奥。 61

.. ん? ... あぁ......「脚力」!

とたどり着き、 面倒臭くなっ た俺は、 扉の前に立つ。 その場で 【チカラ】を発動。 瞬で奥へ

け。 そして、 それだけで、 鍵を取り出す...のではなく、 閉ざされて居たドアは開く。 ただドアノブを握り、 回すだ

施錠 貰ったパンフレットによれば、ドアノブには『認証』 け閉めするらしい。 の魔術が掛かっており、 触れるだけで本人を認識、 と『開錠』、 鍵を開

定球』で入手したらしい。 本当にエル・ホールで入手したらしい。 本当にエルビホール 本当にハイテクだな、 因みに自分の情報は あれ。 判べ

「おぉ…」

てみた。 部屋に入っ た俺は、 まずは目を上下左右に動かし、 全体を見渡し

前方は、 ジネスホテルみたいな感じだ。 ベッドや机、 本棚..一見すると、 ちょっと豪華になったビ

も居るんだよな。 左を向くと、 右にはキッチン。 クローゼット。 俺はあんまり服は買わないだろうけど。 そしてその奥に風呂&トイレだろうか。 やっぱり服を良く買うおしゃ れな奴

つ かりしてるし。 なるほど、アパー トをちょっと豪華にした感じか。 ベッドもし

..突然だが、こういう時にはやる事があるんではないだろうか。

おぉ、 フカフカ!

さすがトップと呼ばれる学園だ。 ベットにダイビングである。 良いのを使っているっぽい。

何回もダイビングし なんか、 スト レスが溜まっていたのだろ

うか 漸く気が済んだところで

良くなっていた俺は、 コンコン、 ドアをノッ クする音が。 はいはーい」 とドアを開けようとし、 ベッドダイビングで気分が

直してしまった。 ドアを開けた先、 目の前にあった、 巨大な剣の切っ先に、 思わず硬

「...お**ー**い?」

この声は、 10秒ほど経っただろうか、 エイナ・・・? その声で、 漸く硬直から脱した俺。

.. 大剣がゆっくりと下がっていく。 赤金色の髪を持った少女、エイナ・ユーグリッドだった。 その先に居たのは、 紛れも無

... いやー すまねえ すまねえ。 許してくれよ」 ちょっと驚かそうとしただけだぜ。

...... あぁ、大丈夫」

此処は俺の自室。

明るい声でそう言ったエイナだったが、 顔が青ざめたエイナ。 すぐさま別の方向へと軌道修正する。と言いながらも顔がちっとも笑っていなかったらしい。 このときの俺は「大丈夫」

「そういえば、 学園長に呼ばれてたろ、 何だったんだ?」

トップに勝手に宿敵認定された」 :.. まぁ いいせ。 とりあえず...俺の【チカラ】がチートで、

簡潔すぎるにも程があるだろうというほどの分量で俺は話した。 エイナは訳がわからず。

「 ... チートって何だ?」

...あ、其処からか。

つまり、 その後、 うこと。 スティー 学年最高位のサスティーフは実は2位。『判定球』が原因で、俺はGクラスに詳しく訳を話した。 俺のチカラが【剣 フはそれを認めず、俺を宿敵扱いしたこと。 俺のチカラが【創造主】だったとい 俺はGクラスになったこと。 負けず嫌いのサ

それは、 先ほどの「何も入って無い袋に金貨出現」をやってみせた。 リアクションをやってのけた。 エイナはテレビのマジックショー で大げさに驚く客の如きオーバー ひとしきり話した後、エイナは俺の【チカラ】を見たいというので、 本当に必要な時な。と言って) (くれとせがまれたが、 断った。

...ところで、エイナの【チカラ】は?」

「あぁー... これだ」

布団にちょんと触れた。 エイナは立ち上がり、 俺のベッドへと足を向ける。 そして、 掛け

触れた俺の布団にちょんと触ってみる。 「触ってみろ」 とエイナが言うので、 俺も立ち上がり、 エイナが

茶硬いぞ? · 硬い? なんだこれ、 さっきまでフカフカだったのに滅茶苦

俺の 【チカラ】 はな、 条件付だが【触れたものを硬化させるチカ

크 《金剛剣士》 って二つ名貰った理由は、 これらしいぜ?」

類としては「身体強化系」に属するらしい。 自分の体も硬化できるそうで (むしろソッ く超えるとか。 チがメインらしい)、 その硬度は、 鋼鉄を軽 分

なるほど、 ダイヤ みたいに硬くさせるから金剛な訳だ。 納得納得

.....ん?

ちょっと待て、俺の布団はどうする?」

「…大丈夫だ、ちゃんと戻せる」

うのは、 そう言って、 ちゃ んと言ってからにしましょう。 エイナが触れるとフカフカに戻っ た布団。 ... そうい

からな)へと戻り、そういえば、1回しか会った事無い ん普通に喋ることができたなぁと思う。 あなー」とエイナは向かい側の部屋(エイナは279番だ のにずいぶ

った事無いが)だからか。 まぁクラスで、 いや学年で唯一の知り合い (と言っても1回しか会 しかも、 出会いがあれだからな...。

: ま、 を除く) 仲良くしよう。 仲良くしといて悪い事は無い 部例 外

IJ が料理好きだということを知った食堂のおばちゃ その後は、 やはりエイナと共に夕食をとったり、 んと仲良くなっ 行った食堂で、 た 俺

そのおばちゃ んから幾つか料理のレシピを教えてもらったり。 今

度作ってみようかなとか思ってみたり。

.. あれ? から突き刺さる視線が痛いんだが。 何か料理人小説へと変貌してないか? しかも、 どこか

冗談はともかく、 ってしまった。 磨きの3段コンボ。 寮でエイナと別れた俺は、 そしてベッドに横になり、 部屋で風呂、 あっという間に眠 洗顔、

しかし、 こうして、波乱のエクシル魔法学園、 明日からはもっと多くの驚きがアルトを待ち構える。 1日目は終わった。 105

無事に過ごしていけるのか?

...俺は、1つだけ忘れていたことがあった。

...時間割り決め忘れたのだ。 えることになった。 そのおかげで、 明日は忙しく朝を迎

第12話:アルトは、 唯一の知り合いの【チカラ】を知った。 (後書き)

感想ご指摘ありがとうございます。

この小説を書き終える頃には、ちょっとでも自信が付けばなと思っ 国語的な知識がまるで無い自分ですので、とても役に立ちます。 ております。

感想やアドバイス、ドンドンお待ちしておりますよ!

皆様の需要に偶然合ったというのが理由かは定かでは有りませんが、 そして、 とりあえず、 俺 お読みしてくださる皆様に、 唖然です。 今すぐ皆さんに土下座して感謝したい。 最大級の感謝を。

なせ 別に反乱起こした訳じゃないですよww

第13話:アルトは、 王国騎士団と戦うことになった。

:. まー、 今までは時間割を決めるなんてなかったもんな」

゙ おかげで朝飯抜きだよ、全く...」

机に突っ伏す俺。

エイナが、 俺の先ほどの慌てっぷりを思い出し、 そう言った。

今は、始業の1分前。

:. 昨日(てとなった。 時間割を決めずにそのまま寝てしまった俺は、 朝から大慌

貰って間もないそれをどれがどれか判別する技術は、俺にはない。 そのせいで、俺は朝飯を食いぞびれた。 しまったと言うのも問題なんだが。 まだどれがどの教材か知っているなら問題は無いだろう。 ... 俺がちょっと長く寝て だが、

...この世界には目覚まし時計がない。 けようか。 ... 普通の時計に機能でもつ

おーっす、皆おはよう。今日も頑張るぞー」

ガラガラと、 なんだ、 普通に入れたのか。 今日は普通に扉を開け、 ジェイ先生は入ってきた。

かー?」 「…皆— ? 今 なんだ、 普通に入れたのか」 とか思わなかった

どうでもいいけどなー。 よし、 1時間目始めるぞー」

皆がそう思っていたらしい。 てきたんだもんな。 当たり前か、 昨日あんな入り方をし

1時間目は..... 実技」? 実技って、 あの?

実技だなー。 実技場に向かうぞー

実 技。 え、 初つ端から何すんだ?

エイナに聞いても、 嫌な予感がするな。 「俺も分からん」 ځ まぁそうか。 ...なん

実技場。 日本の学校の体育館4つほどがすっぽり入るくらいの、

簡単に言えば馬鹿でかい体育館。

そうだ。 この「実技」の授業のほかに、武道場の予備としても機能している

ただ、

よくあるバスケッ

床や壁は日本の体育館とほぼ同じ。

俺たちは実技場の真ん中に集められる。 - ルとかのラインが無い位だ。

訓練のことだなー」 1時間目は実技だー。 実技って言うのはー、 簡単に言うと戦闘

朝飯抜きの俺にとっちゃ、 やっぱり、悪い予感が的中した。 これより辛い物はないな...。 1時間目から、 しかも今日は

れぞれ同時に訓練を行うからだという。 この実技場が馬鹿でかいわけは、 4 人に1人ずつ相手がつき、そ

せんせー。 このブレザーのままそういうことをするんですか-

男子の のか? 1人が、 そんな声をあげる。 あ、 そういえば。 大丈夫な

汚、対傷、復元の魔術が掛かっているからなー、 たら落ちるしー」 「あぁ、 大丈夫だぞー。 皆が着ているブレザーはなー、 汚れなんか、 防水、 振っ 防

気にしなくていいぞー」 「あと、今日やるのは魔法抜きの格闘訓練だー。 そこんところは

だな。 な。 : ん? ジェイ先生が冷静にそう答える。 にせ 汚れが振ったら落ちるとか、 ごせ そういう問題か? なるほど、 元の世界より強力だし。 これもハイテクなん

女子のスカート? いてるんじゃないか? ... 知らんよ、 そんなもん。 中に短パンでも穿

...え、えと...女子もやるんですか?」

若干恥ずかしそうに手を上げて尋ねるのは、 の二つ名の意味が分からないが。 の二つ名を持つ銀髪少女、ミリア・メテリアだ。 1 -G の 11番、 いまだに、 《獄焔 そ

勿論だ。 安心しろー : あー、 ? ちゃ んと相手も女性だから」 メテリアがそんな質問をするのも当然

や、その性格からして大丈夫だろ、お前は。 安心できるか!」 ...突っ込むのは俺の隣にいたエイナ。 : 61

Ļ 5歳相手にやらせるとかやっぱり鬼だな。 しかし、女性と言ってもめっちゃ強い奴もいるわけで。 そんなことを思っていると実技場の金属製の扉がゆっくりと開 ぞろぞろと、場内に入ってきた。 エクシル魔法学園 それは

おー、丁度来たみたいだなー。 失礼の無いようにしろよー。 、ガフリア王国騎士団の兵士さんだー」 ...それじゃ、 みんなの相手をしてもらうのは お願いしますねー」

入ってきたのは、 20代から30代くらいの男女、 4 0人ほどい

ちょっと痩せている人から、ムッキムキの人までいる。

人に1人ずつ相手がつく、って言ってたから、男女比は1 言い忘れてたが1.Gの男女比も1:1だ。 か。

可だ! 兵部隊だ。 「今日は格闘訓練だ。 「おーっし! 条件はこちらも同じだから、 俺は歩兵長のラウング。 今日お前らの相手をさせてもらう王国騎士団第7歩 魔法は一切なし。 全力でぶつかって来い よろしくな!」 【チカラ】の使用も不

: 暑 い。

兵士長のラウングと名乗ったのは、先ほどの、 身長は190cmくらいだろうか。 筋肉ムキムキの男だ。

黄色に白の線が入ったピチピチのTシャツと黒いパンツをはい てい

雰囲気的な意味で。 口調がやたら暑苦し ...この人とは戦闘したくないな。 主に

騎士団の紋章の刺繍が入ったワッペンが付けられている。 アレが騎士団員を表すマークって訳だ。 兵士達はみな私服のようだ(これも大丈夫か?)が、 肩や胸に王国

か? 戦闘訓練が騎士団とか..。 何この鬼軍曹的授業。 俺らを殺す気

「さて、 めさせてもらう!」 今から訓練を始めるが・ • その相手はくじ引きで決

そういうと、 子用と女子用か。 何処からか籤が入っているのであろう箱が2つ。 男

とりあえず、 籤は兵士達が引き、其処に書かれた生徒が訓練相手となる。 ま あのラウングとか言うおっさんとは一緒にやりたくね 20分の1だ。 当たるわけが...。

が訓練相手だ! じゃ 俺から引かせてもらうぞ! 出てこい!」 アルト= シューバ! 俺

... フラグ回収...。 だからそういうことはフラグにするなと何回言えり「早く出てこい けどな? はいはい。 本当に当たるとは思いもよらなかったわけよ。 させ、 行けばいいんだろ、 もう当たるだろうなーって予想してた 行けば..。

つ た 俺。 というわけで、 フラグ通りにラウング歩兵長と訓練することにな

皆はそれぞれ離れて、 元の世界で言う、 組み手? を行うらしい。

ちには手加減してもらうからなー」 よーし、 それじゃあ時間は今から10分間だぞー。 兵士さんた

「倒せるように、努力「は」しろよー」

.. それ、 るような物ですよね、 明らかに「確実に倒されるだろうけど頑張れ」 ジェイ先生。 って言って

れるようじゃ、 いや、当たり前か。 面目立たないもんな。 歩兵といっても騎士団だし。 15歳に倒さ

それじゃあ始めるぞー。 よしい、 スタートー

る 先生がホイッスルを鳴らし、 それと同時にラウングはこちらへと走

「ははは! お前のようなヒョロい奴が、 俺を倒せるのか!? 行

: え、 何も指導とかなしなの? ちょっと、 ガチで戦闘じゃねぇか

筋肉の塊なだけじゃ...。 ..ってか、 別にヒョロくは無いと自負している。 むしろそっちが

... うおっ!

グ。 グ。(こういうときには止まるのが礼儀じゃ俺が考え事をしている最中にもかかわらず、 ないのか? 突っ込んでくるラウン

ラウングは右腕を引き、走りこんでのパンチを繰り出した。 : 速

いっ! 後ろにステップして、避ける。

.. これで本気じゃないのかy

あれ、 最初は速く見えたけど...、 其処まで速くない

ぞ! ハハハ! このチキンが!」 どうした!? ビビッて避けてるだけじゃ話にならん

:.. ちょ、 でさ。 良いのかよ、そんなこと言って。 主に指導方針的な意味

...チキン? ...ちょっとむかついたな。

て。 右腕でのパンチ。 そう考えている間にも、 ... 攻撃方法それだけじゃねぇよな? ラウングはさらに間合いを詰め、 もしかし また同じ

でも倒されて元々だから、 しかし、 俺からすると隙が多いような...手加減だからか? 行ってみようか。 いせ、

俺は、 に突いた。 右腕の肘を突き出す。 体を沈めて相手のパンチをかわすと、 肘打ちだ。 そして、衝突のタイミングにあわせ、 鳩尾に照準をセッ 一気

ラウングは、待ってましたとばかりにそれを

「ゴッ!?」 ... あれ?

ことも合わさったのか奇声と同時に膝をついてしまった。 ラウングは、 肘打ちのをモロに喰らい、 場所がちょうど鳩尾だった

えて受けたのか。 : あれ? こんな弱いはずないよな。 騎士道精神(?)に感謝だな。 :. あぁ、 元気出すためにあ

倒せたと思うなよ!」 やるじゃ ねぇ かアルト= シューバ...。 だが、 このぐらいで俺を

.. 飛び蹴りだ。 ... そう思っているうちにも、 結構苦しそうだな、 いた俺に向かって突進。 ... 隙多い技を良く使うよな。 おっさん。 そのまま跳躍、右足を突き出した。 ラウングは立ち上がり、後ろに離れて どうしたんだ? しかし当たっ 調子悪いのか? たら

大惨事。 着地したラウングは、 り出した。 右にステップして避ける。 そんな俺に向かって旋回し、 ラリアットを繰

... うおっ ... 思わず声が出る。 咄嗟にしゃがんで避けた。

てもう一方の腕、 隙ありだーっ 右腕でのアッパー気味のパンチが。 Ļ ラウングはそんな俺に向かっ

避けると、 .. やっぱ遅いような...。 俺は左の拳を握り締める。 右に最小限動き、 ラウングのパンチを

`…ぅうおらァ!」

左ストレー .. しゃがんだ体勢から、 Ļ 半ばラウングに突進するように立ち上がり、

· ごあっ!?.

後ろに倒れこんだ。 あれれっ? ... ラウングは、 またもそれを鳩尾に喰らい、 今度は

左だし、 おっさんが起きてこない。 流石に吹っ飛ばなかっ たか。 とか思っていると、 ん ?

おーい、歩兵長?」

...え、まさか、気絶したとか、ないよな?

歩兵長がやられちゃ驚くだろうけど... 見ると、全員が俺とおっさんを見ていた。 そりや、 15歳相手に

: え?

その後、ラウング歩兵長は10分後に目を覚ました。 「アレは...ちょっと油断してただけだ!」と言っていたが、

その真偽は不明である。

第13話:アルトは、王国騎士団と戦うことになった。 (後書き)

多くのご指導ご指摘ありがとうございます!

ます! 受けたご指摘は今後に生かそうと思いますので、よろしくお願いし

第14話:アルトは、 《獄焔》の意味を知った。 (前書き)

お許しを。 注意。 その理由も、自分がうつらうつらと書いてたのが原因なのです。 今回は、何時にも増してggggです。

第14話:アルトは、《獄焔》の意味を知った。

`...おい、アイツだぜ」 「おぉ、本当だ」

歩兵長をぶっ飛ばしたんだって」 ヒョロそうなのにねー」

:

だろ?」 「おいおい、 気にすんなよアルト。 其処まで悪い印象じゃないん

:.. 俺はな、 こう周りで俺のことを話されること自体が嫌いなんだ

ガチムチのおっさんをぶっ飛ばした話は早くも噂となっているらし今日は学園が始まり4日目。どうやら、俺が左ストレートで 学園中の。

現に、 密だ。 俺を見てそんな会話が聞こえているのだから嫌になる。 (俺 の 今は休み時間な訳なのだが、廊下からヒソヒソと、 【チカラ】が【クリエイター】というのは、クラスだけの と言っても、このクラスにはジェイ先生が教えたのだ) 明らかに 秘

はどうしてもこういうのが嫌なんだ..っ..。 エイナが、 心配をしてくれる。 うん、 ありがとう。 だけど、 俺

`...た、大変だね...」

頭を抱え、 ...振り向くと、 軽く鬱状態になっていると背後から声が。 長い銀髪を揺らす少女、メテリアであった。

`...あぁ、大丈夫大丈夫。 大丈夫だから...」

って引いている。 ククク・ ・と死神のように笑う俺。 ... いや、正直すまんかった。 エイナとメテリアは、 そろ

んだ、 え? だって? 今まで接点なかったのに、何気さく (?) に話しかけられて

遡らなければいけない。 ... 俺に彼女が声をかけてくれる理由は、 少し前..そう、 あの時まで

帰ろうかと1.Gまでの道を歩いていると、 ラウングのおっさんをぶっ飛ばしたその授業の後。 背後から声がした。

...ね、ねぇ、アルトくん」

「.....ん、何?」

恥ずかしがりやっぽい口調でそう俺に声をかけてきたのは、 アである。 そういえば、話したことが無い。 メテリ

その声に振り向いて立ち止まろうとするが、 きながらで、 良いから」という。 ぁ そうですか。 メテリアは「 步

アルトく んは、 どうしてそんなに強いの?」

? ・んーと、 ちょっと親に格闘術を教えてもらったからかな..

... なんで疑問系なんだ、 んの? 俺。 あれ、 メテリアも何で納得して

ングが弱かっただけ…いや、言わないでおこう。「ヘー…つ、強いんだね、アルトくんは」 いや... あれはラウ

謙遜とかではなく、正直に。 トレートの時点で。 「そんなことないよ。 5年ぐらい練習してこのぐらいだから」... だってあれ結構手抜いたし。 左ス

ても上手かったんだね」 「つ、強いよ。 5年でそんなレベルになるって、教えた人がとっ

60代位だから、妥当な線?」 俺の親だけどな。 1 4になったら倒せたし、まぁあっちは歳が

かったら、 す、すごいね。 私のお菓子を食べて欲しいなー...、そういえば、料理が好きなんだよね。 なんて...」 ょ

そういえば、メテリアの趣味はお菓子作りだったはず。 な調理の方向にシフトしたと。 ...ん、あぁ...アレか。 だからそんな提案を..。 ネタがなくなったか。 だから両方の得意 なるほ

良いよ。 それじゃあ... 俺も時々レシピとかを貸してあげるから」

゙あ、ありがとう...」

回想終了。まぁ、ざっとこんな感じだ。

イタ

タ、石とか岩を投げるな!

なった。 ぁੑ たら他のクッキー食えなくなるぐらい美味い。 同じ調理好きということがあって、それからは普通に話せるように そうそう。 エイナとメテリアは、俺の友達ということで友達に。 メテリアの作るクッキーはやばい。 アレを食っ

かえよー」 「よーっし、 3時間目始めるぞ—。 実技だー。 グラウンドに向

ガララッと扉が開き、 : 実技か::。 また、 あれみたいなことが...。 何時もの口調でジェイ先生が入ってきた。

今日は魔法訓練だー。 杖とかいる奴は持っていけよー」

今気付いた。 駄目な子だろうか。 先生に言われてからしか動かない1.2

さて、 ンド。 やってきたのは元の世界より数倍は広いだろう広大なグラウ

トラッ クのラインも引かれているが、 これ、 明らかに400m以上

あるな。 どんなレースをするんだろうか。

に関する【チカラ】なら、 今日は模擬戦だー。 私が召喚する魔獣を倒す訓練だー。 使ってもいいぞー」 魔法

せるのは鬼ですぜ。 そんなことは口に出せず、 .. この前も思ったんだけどもさ、 ジェイ先生。 次々とジェイ先生の説明は続く。 初っ端から模擬戦やら訓練やら

じゃあ早速行くぞー。 1 番、 メテリアー

呼ばれたメテリアは「 大丈夫なのか? メテリア。 は は しし <u>.</u>! と返事をして前方へ向かう。

しかし、 これで俺はやっと《獄焔》 の意味を知ることとなる。

ジェイ先生は メテリアの前方に光が現れる。 【サモナー】らしく、 「行くぞー」 とのんびり言うと、

は それは段々何かを形作って行き、その光が弾けて消えた先にいたの 3匹の狼のような魔獣である。

ジェイ先生が「行けー 狼型魔獣のウルフィ 勿論運動能力は高い。 右と散開して。 30mほどの距離をすぐさま詰めていく。 トは、 と指示すると、 素早さが飛びぬけている。 爪が狼よりも特化した形の魔獣だ。 ウルフィー トはその素早さ 地味に左、 中央、

対してメテリアは目を閉じている。 精神統 ー...かな。

あんな感じのメテリアに大丈夫なのか? 俺がそう思った途端だ。

「……《焔波》!!」

量の炎が溢れ出す。 メテリアが目を開き、 そう言って両手を前にかざすと、 其処から大

その炎は左から迫っていたウルフィ ートー体を判断する暇さえ与え

ず、燃やし尽くした。

... その光景に、 一同唖然。 ジェイ先生だけは、 「良いね とか

言って頷いていたが。

《焔沙》 は 炎の波で相手を燃やし尽くす炎属性の中魔法である。

因みに、1年生なら結構使えるレベル。

50 だから、 普段ならこの程度で驚いたりしていない。 そう、 普通な

でも同じ光景が起こっているから」である。 俺たちが驚いている理由。 それは、 左だけではなく、 「右と中央

普通、 魔法は同時に2個使えない。 なぜだか知らないが、 この世

界ではそうなのだ。

だが、 唱から発動までのラグがほぼ無いといって良い。 メテリアは違う。 2個どころか、 3個も同時に、 普通ならば、 かも詠

秒はあるはずだが。

同時に3体のウルフィ のようにこちらに帰ってきた。 トを倒-したメテリアは、 何事も無かっ たか

「どうだー? メテリアの【チカラ】は【魔術特化】って言ってなスペシャライズ・マジック

がついたらし みたいな特典がつくんだー。 「簡単に言うとー、 「メテリアは炎属性の魔法をよく使うから《獄焔》っていう二つ名 いなー メテリアが使う魔法にはさっきの3つ同時発動 特典はまだまだあるらしいけどなー」

「皆もなー。 メテリアに及ばずとも近づけるように努力するんだ

これは凄い。

.....ん、しかし、これは...-

さて、ついに俺の番だ。

ジェイ先生は、 いるらしい。 その生徒のレベルに合わせて召喚する魔獣を決めて

けて消える。 俺は何が来るのかなと内心期待していると、 その中にいたのは...。 光が形作って行き、 弾

ギャアアアアアアアアアアアアアア

頭が着いている。 3mほどの体長。 犬の頭だ。 漆黒の体。 首は3つに別れ、 それぞれに

ベアルと同じだ。 .. その魔獣は、咆哮を上げてこちらをギラリと睨む。 あの時の、

えっ、 やりますよ、 え!? やれば良いんでしょうが! ちょ、 ジェイ先生これはどういう「行けー」... あぁ

幸いにもこれは訓練だ。 先ほど思いついた「アレ」をやらせてもらおう。 このケルベロスを倒しても悪い事は無い

俺は目を閉じ、 0 倍。 これぐらいか。 【チカラ】 で魔力を強化する。 2 倍、 3 倍、 4 倍

.....よし、行くぜ!

いた。 俺が目を開けると、 だが、 俺は焦らない。 ケルベロスは俺との距離を10 mにまで詰めて

「.....展開」

だ。 表す。 ブゥン、 短くそう言うと、 その数、 ブゥンと、 直径は俺と同じくらい。 実に「 俺の目の前に複雑な模様が描かれた魔法陣が姿を 俺の前方に、 1 · 0 個」。 気に魔法陣が展開されて行くの だが、これでは終わらない。

全てが、ケルベロスの方向を向いて。

ない まぁそれはともかく、 ケルベロスはというと、 のか? 全ての魔法陣を展開し終えると、 ドンドンこちらに迫ってきている。 俺は叫ぶ。 怖く

「...発射!!.」

様々な形のものが発射され、 一斉に魔法陣が輝き始める。 ケルベロスを襲った。 そして俺が右腕を振ると、 そこから

また別の物からは《雷波》が。またまたある魔法陣からは《炎槍》が。別の魔法の

またまた別のものからは《土棘》別の魔法陣からは《氷隕石》が。

ズドドドドドドドドドドッ!!!

っていた。 に受け、その攻撃が終わって魔法陣が消える頃には、 ただ俺に迫ることしか出来ないケルベロスはその攻撃をすべてもろ 跡形も無くな

場所へと戻る。 そして俺は、 メテリアと同じように何事も無かったかのように元の

上げたのかー」 「いやーお見事。 【クリエイター】 で魔法同時展開の上限を引き

ジェイ先生は褒めてくれているが...。 なんか、 おかしい。 :. あれ? な なんだ?

なってとこなんだがよ...」 ・アルト。 させ 凄かったぜ。 やっぱ【クリエイター】 だ

気付いていない俺のために、 エイナが助け舟を出してくれる。

..... ちと、やりすぎじゃね?」

大きく、広範囲に穴が開いていた。 エイナが指差す先、 ケルベロスが俺の魔法を全弾喰らった場所には、

..... あっ。

次は4時間目である。 俺は、その大きな穴が埋まるまで

【チカラ】で砂を入れ続けていた。

遅刻はしなかったが...今度からは、やり過ぎないようにし

ようと固く心に誓った、出来事だった。

第14話:アルトは、 《獄焔》の意味を知った。 (後書き)

そして、今回はアルトのチートっぷりがよく分かる話だったかと思 すみませんでした。 主に殴る殴る感的な意味で。

います。

...さて、次からはクラス対抗戦編かな?

第15話:アルトは、クラス対抗戦へ出場することとなった。 (前書き)

ネタバレ? テンプレどおりだから気にしない。

たら、 あ、そうそう。 友達のプリントとか挟むファイルを偶々チラとみ

「テイルズ・オブ・エクシリア」

エクシリア…だと!? …と、マジでビビリました。

俺そんなつもりで街の名前決めたんじゃないのに..。

第15話:アルトは、 クラス対抗戦へ出場することとなった。

· さてー、今日はクラス対抗戦についてだー」

人学から10数日が経った。 俺も、 結構学園に慣れてきた

今はLHRの時間だ。ところだ。 時間は、 7時間目。

う話し出した。 この世界にもLHRあるんだな...と思っていると、ジェイ先生はそ 眠い。

クラス対抗戦があるんだー1年恒例だなー」 お前ら知ってるかもしれないがー。 この学園には1年生だけの

簡単に説明すると、そんな感じだなー」 1クラス5人でチーム組んでー、トーナメント方式で優勝を争う

... 簡単に説明しすぎじゃね?

抗戦、 抗戦、『XCM』のルールは、こんな物だ。その後続けられたジェイ先生の説明によると、 1年だけのクラス対

抗戦に挑む。 先ほどジェイ先生が言ったように、 1クラス5人でチームを組み対

それ以外のクラスはくじ引きで相手が決まる。 トーナメントはAクラスがシードで2回戦から登場することになり、

することとなる。 5人は1 ~ 5番手に分けられ、 相手の同じ番号と1対1で直接対決

すことだけを一番に考えろー」 魔法、 【チカラ】の使用なんでもOK。 だと。 ただ、 相手を倒

ただ、 止用魔術が掛かっているらしい。 あくまで対抗戦なので殺すような攻撃はNG。 致死攻擊防

とまぁ、説明はこんなもんだ。

因みに、 戦」が一般的である。 X C M という通称はあまり使用されず、 じゃあなぜ作った。 クラス対抗

スが優勝しているなー 「こんな感じだなー。 まぁ当たり前のようだがー、 毎年Aクラ

やっぱりか。

だがなー? 私は一、 このクラスで優勝できると思うぞー

お坊ちゃ ま風 二つ名を持つ奴が3人もいるんだ。 : 確かに。 の少年、ヨハン。 エイナやメテリア、 そして《爆速》の二つ名を持った 勉学は知らないが、 戦闘では

意外と上位に食い込めるかもしれない。

だが、 幾ら3人だからといって、勝つのは難しいか。 りこの3人が選ばれるかも分からないし...。 トップクラスの実力だろう。 Aクラスの精鋭5人は、 格闘か魔法、 あの負けず嫌い 【チカラ】に関しては も入ってるだろうし。 :: いや、 というよ

というわけでー、 私 が 1 - Gのメンバー 5人を選んで作ってきた

... こういうのは、 : えー . つと? 皆で話し合って作るもんじゃ ないのか?

ザリアント= [メンバー マイ ヨハン アルト= 4 エイナ・ユーグリッド シューバ 2 ミリア・ 5 メテリア アリス・ 口 3

:. うん。 戦うのは良いんだけどさ...。 見事に全員入ってますね。 ちくしょう。 別に参加して

何かめんどくさいことになりそうだ。 :. うん[、] なんかだけど。

「お、俺? 俺で良いのか、先生?」

エイナは驚いたように、

ジェイ先生に尋ねた。

自覚無いのか?

巨人をスパッとやってたじゃないかー」--ムのよりに言ってんだーユーグリッドー? お前、 この前の実技で岩

「あのくらいの剣士が居ればー、 戦力になることは間違いないだろ

... そうだった。 ての戦闘だった。 この前の実技でのこと。 内容は、 武器を使っ

ていく、というものだったのだが...。 杖を持つ者は魔法で、拳でなら接近戦で先生の生み出す魔獣を倒し

かに体格が違う。 エイナの相手になったのは、 は、それほど甘くなかった。 大丈夫かと思ったのだが、 体長5mほどのゴーレム。 エイナの《金剛剣士 Tーレム。 もう明ら

エイナは向かってくる敵に、 刀両断なんてすることが出来ず、 剣を振るだけ。 最高でも傷がつくだけ 勿論普通の刀身では

ズドオオォォォン! ...えっ?

半身は地に落ち、 エイナが横に薙いだ剣は、 レムはその場で硬直、僅かに角度のついた切り口で滑ったのか上 そのまま消えた。 ゴーレムを楽々上と下にお別れさせ、

パッといったわけだ。 先ほどのは伸長。 刀身を延ばし、【チカラ】で最高硬度に-が使うにはあまり効果が無いだろう魔法も覚えているらしく。 ...後で聞いた話によると、エイナは剣士として一流になるべく、 【チカラ】で最高硬度にし、 ス 人

俺は、 のように強いから』というのがあるんじゃないかと思った。 エイナに《金剛剣士》 が付いた理由のもう1つに 7

: 俺 ? でぶっ飛ばしてたな。 全長10mぐらいのワーム(顔が龍の大蛇魔獣) 【チカラ】で威力を増強させて。 を蹴り

抗戦に出ないほうがおかしいよな!」 んでー、 メテリアは皆知ってる通り、 あの魔法の威力でクラス対

は はぁ

メテリアは困惑気味だが、 そのセリフは脅迫に聞こえますよ? 確かに先生に一利ある。 でも先生。

りだとアレだからー、 ヨハンは二つ名持ってるのもそうだがー。 出てもらうぞー」 :: チー ムに女ばっか

僕、 そんな理由で出るんですか..?」

まカッ ぉੑ 喋った。 の少年だ。 ヨハンは黒髪で...なんていうんだろう、 お坊ちゃ

メテリアに聞いたんだが、 女子の間では可愛いと人気らしい。 ま

どうでもいい話だな。

半分理不尽な理由で出場させられるヨハンに、 サムズアップした。 頑張ろうぜ。 人知れず、 心の中で

系の【チカラ】が凄かったから、入れさせてもらったー、んでー、ローマイは別に二つ名とが持ってたしにとし んでー、 なんだっけー、その【チカラ】...」 ローマイは別に二つ名とか持ってないけどー、 自然操作

「......【密林地獄】.....です」 ヘル・シャンクル

おおお、 怖すぎる名前だ。 声は可愛いのに。

ネをかけている。 長いストレートの黒髪を持った背が小さい少女だ。 名前を呼ばれた途端に体をビクッと強張らせたアリス・ローマイは、 縁が緑色のメガ

前髪は目にかかるほどで、クラスではあんまり目立たない風だ。

ろしい【チカラ】なのだ。 しかし、 彼女の持つ【チカラ】、 【密林地獄】 は名前と比例した恐

彼女の試合が来たら、 教えることにしようかな。

゙…でー、シューバ」

何でも良いから敵潰して来いよー」 ... お前は問答無用でキャプテンだなー。 それがトップでも誰でもだー」 【クリエイター】 で、

だけど其処までぶっきらぼうにしなくて良い ええええ てモチベーションが...。 いせ、 自覚はしてるけどね、 この【チカラ】 んじゃ...。 俺にだっ

いいかー?」

はい

俺は、 断る事をせずにすぐ返事をしたのだった。

「というわけでー。 今回は終わりだー。 他のみんなは応援を一

生懸命するんだぞー」

... テンプレ通りのメンバー発表が終わった後、 メンバーの俺達5人

は 顔を合わせた。

あと2週間か? それまでに順番やら決めなくちゃいけないな。

それに、実力アップのために特訓もな」

エイナが声を上げた。 そうだな、 親睦も深めないといけないし。

「…が、頑張りましょう」

メテリアが恥ずかしそうに声を上げた。 ... 大丈夫か?

「うん、 上位に入ることが出来るように頑張ろう」

ヨハンがメテリアの声に反応するように言う。 の《爆速》 ってなんだっけか。 ... そういえば、 \Box

がんばろ.....」

不 安。 ... そんな小さい声で言うのはローマン。 か細い声だけど、 何か

優勝だな、 目標は。 頑張ろうぜ、

頷 い た。 俺がそういうと、 ぉੑ 皆が一瞬「え、優勝なの?」という顔をしてから おぉ...」 みたいな感じで。

.. え、優勝ちゃうの?

だった。 それはともかく、 クラス対抗戦でのチームが決まり、動き出す俺達

此処からクラス対抗戦まで、その道のりは苦難の連続だった。 ろんな意味で。 ١١

第15話:アルトは、クラス対抗戦へ出場することとなった。 (後書き)

す。 近々、 別キャラでのサイドストーリーを作中にはさみたいと思いま

ナシズ= シューバ、エイナ・ユーグリッド、 そのキャラですが、 の3人のうち誰かにしたいと思うのですが、 候補として ...決まらない。 ダント・サスティー フ

誰が良いか感想にでも書いてください。 多いキャラに決めたいと

思います。

第16話:アルトは、箱から運命のクジを引いた。 (前書き)

今日は対戦相手決めです。 ちょっと一休みみたいなもんですかね。

...うーん、始まるまでの内容がちょっと薄いかな・・・? 次からは...多分、大会本線本選へと入れるかと思います。

6話:アルトは、 箱から運命のクジを引いた。

クラス対抗戦まで、後1週間。

俺達1 での対人訓練など、色々と準備してきた。 - Gの出場メンバーは、 この1週間の間に順番決めやら各々

さて、今日は何があるかというと、クラス対抗戦の を決める、そして運命をも決めるくじ引きである。

思います」 それでは、 X C M の トー ナメントくじ引きを、 今から行いたいと

5時間目。 体育館ステージで、 1年の学年集会である。

各クラスのキャプテンの方は、 ステージに登壇してください」

壇上へと向かう。 俺は1列に並ぶGクラスの中で1番後ろ。 其処から立ち上がり、

: 周り、 **శ్ర** 少し【チカラ】で聴力を強化し、 そりゃそうか、最下位がキャプテンなのだから。 他クラスの生徒からは馬鹿にしたような視線が俺に送られ 周りのヒソヒソ声を聞いてみよう。

のどうでも良いってか」 ワーストがキャプテンかよ。 流石Gクラスだな、 こんな

勉強が出来ないから、 そーだよな、 勉強しないと落第食らうかもしれないしな 大会に割いてる時間ないんじゃ

るぜ」 Gクラスに当たったクラスはラッキーだな。 余裕で勝ちあがれ

Gクラスの数人がガンを飛ばしている。思ったとおりの反応だ。 少しその声が聞こえるのだろうか、

いやいや、 何か黒 そんな事しなくて良いから。 いオーラが立ち上がってるし。 ちょっと周りビビッてる 怖つ。

テンたちと並んでいた。 そんな事を思っている間に、俺は壇上に上がり、 他のクラスキャプ

のクラスのキャプテンも強そうだな。 Aクラスのキャプテンはやっぱり負けず嫌いか。 他

生徒だ。 Bクラスのキャプテンは、長い金髪をクルクルのカールにした女子 所謂、 お嬢様って感じか。

指には指輪がいくつもはまっているし、 んな生徒を野放しにしておいて良いのか。 首にはネックレス。

メン。 Cクラスのキャプテンは、 白髪の背の高い男子だ。 俗に言うイケ

ストだ。あれだ、 絶対ナルシストだ。 髪をさっとかき上げるポーズからして、きっとナルシ

が 一瞬、 ıΣ 黒縁のメガネをかけていかにも根暗なのだが、 ロクラスのキャプテンは、 所々跳ねている。 藁人形を持っているのを。 根暗っぽい男子。 呪 い ? 濃紫の髪は肩まであ 俺は見た。 ソイツ

後ろには真っ赤な小さいリボンが、 いている。 Eクラスのキャプテンは、 金髪の女子だ。 多分チャー 髪は真っ直ぐで短く、 ムポイントとして付

見た目は普通に可愛い女子だが。 るに違いない。 やはりキャプテンだ。 何かあ

男子生徒。 ま小さくした感じである。 スト? (スーパーフ) ミコンの有名なゲー Fクラスのキャプテンは、 ブレザーの上からでも、 ぼさぼさの短い黒髪で、 格闘家だな。 筋骨隆々なのが分かる。 ムだ)のリュ あれは。 額に鉢巻をした をそのま

そしてGクラスのキャプテンは、 今更説明するのもなんだが。 赤茶の髪の男子生徒。 俺だ。

なぜ説明したんだ。 俺は。

籤を引いてください」 それでは、 Bクラスキャプテンのエリヴァン= シャルロットさん、

わかりましたわ。 それでは...」

その女子はいかにもお嬢様という口調で籤箱の前に立つ。 俺達7人の前には籤箱が置かれている。 シャルロッ トと呼ばれた

そして、手を箱の中に突っ込むと数秒手を動かし。

... これですわ!」

ろう、 箱から勢いよく引かれたその手の中には、 紙 4つ折りにしてあるのだ

見せる。 司会者がそれを受け取り、 見せられた紙には、 中身をステージ下の奴らに、 大きく「 1 の文字が。 次に俺達に

Bクラスは1番です! それでは続いて、 Cクラスのキャプテン

つまり、 その隣から右に1~6の数字が振ってある。 そうそう、 1 対 2、 このトーナメント表はAクラスを1番左側のシー 3 対 4、 5 対 6 というのが1回戦の組み合わ ドにし、 t

な訳だ。 他2戦の勝者同士が戦う。 2回戦ではAクラスと1対2の勝者 そして1回戦その

に籤を引いてください」 フォロウさんとGクラスキャプテン、アルト= シューバさんは同時 「残り2人となりました! それではFクラスキャプテンのケン

いだな。 同時なのか。 まぁ、 どうでも良いが。 ...それより、リ あ、 そういえば確かに穴が大きめに作ってあるみた ウだと思ったのに名前はケンなのか。

た。 俺とソイツは籤の前に立ち、先にソイツ...フォロウが箱に手を入れ 同時に、 なので俺も手を入れる。

そして、 に手を上げた。 2つしか紙が無い事を確認してから、 俺とフォロウは同時

司会者に、 同時に紙を手渡す。 さて、 何処に行くか..

より、 決まりました! 回選 の組み合わせが決定しました!」 Fクラスは2! Gクラスは5です! これに

ス! 「 第 1 試合はBクラス対Fクラス! 第3試合はGクラス対Dクラスとなりました! 第2試合はCクラス対Eクラ

よっ しゃ あ 「キタ などと、 ロクラスのステー

の面々が小さな声を上げる。

対倒す..。 ... やっぱり、 何回もそう聞かされるとむかつくな。 見てろよ、 絶

「それでは1回戦の相手同士で、握手をしてください!」

あー、 高校野球とかでよくあるよな。 あれか。

: あれ? あの根暗は?

... こっちだよ」

うおぉ!? ……ビビッた。 居ないと思ったら急に背後から来る

んだぞ、 怖いわ。

「よろしく、 アルト= シューバ君。 ...正々堂々、良い戦いをしよ

うね...」

させ、 ビジュアルもさる事ながら、 硬く握手した。 「絶対倒す」と念を込めて。 口調も怖い。 まぁそれはどうでもい

できなかった。 その時、 ソイツの口が僅かに歪んだのを、 俺が捉えることは

「相手はDクラスかー」

ジェイ先生が、声を上げる。 只今、 帰りのSHR中だ。

だなー」 「Dクラスはー、 あのキャプテン...セルニータ=モザが二つ名持ち

やはり、 力はAクラスに劣るかもしれないが、 二つ名持ちは1クラスに1人は居たりする物なのか。 戦闘能力はAクラス並みとか。

んでー、モザの二つ名はー......」

《奇術師》だー。 5人とも頑張れよー」

当に。 奇術師..? あのビジュアルで? 名と顔は一致しないな、 本

まぁ、 誰が来ても潰すけどな、 【 クリエイター 】 で。

ಠ್ಠ 続きは次回だ。 俺達は1回戦、 その軽い気持ちを改めさせられる事とな

第17話:アルトは、 XCMに出場した。 (1) (前書き)

C l a s s В vs Class F

さて、 やっとこさXCM本選に入ることが出来ました。

アルトたちの戦いは次か、その次位ですかね。

7話:アルトは、 XCMに出場した。

だが、そんなことをするのは僅かで、 アの街に出たりしている。 クラス対抗戦当日は学園の授業は無し、 さて、 今日はエクシル魔法学園、 大多数はクラス対抗戦を観戦 なので、 クラス対抗戦の日だ。 上級生はエクシリ

会場は、 グラウンドの傍にある実践戦闘用闘技場、 通称「コロッセ

するようだ。

オ」。その名のとおり、円形の闘技場だ。

は十分に広い。 本物よりは一回り小さいが、 ちゃんと観戦席もあるし、 戦闘するに

開幕式直前には、 か今かと待っている。 多くの生徒や教師が観戦席に座り、 開幕の時を今

見に来るのかは不明だが。 あ、この対抗戦は部外者も見に来ることがあるといわれる。 なぜ

あ :良いよね、 こうやって目立たなくて」

いや、 目立ちまくってるぞアルト。 大丈夫だ」

しいと思うけれど」 君みたいな「有名人」がいるんだ。 視線を動かないほうがおか

だ、 大丈夫だよ、 やっぱり目立ってるけども...」

「.....そんなに目立ちたくない.....?

に反応して来た。 一番先にエイナ、 そしてヨハン。 メテリア、 アリス。 斉に俺

.....クラス対抗戦の開幕式は、 参加者の入場が無い。

どちらも実力が分からないだけに、 その代わりに、 ャプテンのBクラス対、 「開幕戦」があるのだ。 ュウ風格闘男子がキャプテンのFクラス。 面白そうだ。 金髪のお嬢様系女子がキ

:. あれ、 でだったか。 話が逸れたな。 えっと? 参加者の入場が無いところま

出来る。 入場が無いので、 出場者でも俺のように観客席で試合を見ることが

ましてや俺達は第3試合。 ってから行けば間に合うのだ。 遅くても第2試合の2、 3試合が終わ

だ。 場内に殆ど視線を行かせながら、チラチラと俺のほうを見てくるの .. つまり、 俺達は観客席にいるわけで...俺の傍にいる生徒達は闘技

をぶっ飛ばしたことによるのだろう。 見てくる理由は、 単に俺が王国騎士団歩兵長のおっさん、 ラウング

そのせいか、 っているのだ。 いやそのせいだろう。 俺はちょっとした有名人とな

はっきり言ってこうチラチラ見られるのはあまり好きではない。

悪く言えば小刻みにグサグサ来る視線は一 で把握し、 俺は普通に闘技場内を見ている。 特に何もしてないよ? 見ている連中だけに威圧感を与えてやっただけ。 【チカラ】 だが、 斉に散った。 で見ている奴をこの体制 さっきからチラチラと、 【チカ

ラ】乱用とかは気にしない。

威圧感のレベルは...そうだな、こっちを見てると数秒でダウンする ような奴かな。

. アルト、 今1人倒れたんだがお前のせいか?」

そんなわけ無いだろ。 おっ、 始まるぞ...」

サラッと嘘をつく。何か、 嘘がうまくなった気がする。

「それでは、 第142回、 エクシル・クラスマッチの開催を宣言い

「司会は私、モデラ・たします!」 がお努めいたします!」

伝統行事だってことがわかるな。 : 流石大陸一の学園。 第142回とか、 年季が違う。 かなりの

トー と自己紹介した司会の言葉の後、 沸き起こった。 観客席から大きな歓声と拍手

っ ファ ルモー ガイン学園長より、 開催のお言葉をいただきます

あの男だ。 大きな拍手が沸き起こる。 そう、 入学当日、 トップと共に話した

です」 皆さん、 御機嫌よう。 学園長の、 ファルモート・ガイン

学園長が円の中心に立つ。 そして、 威厳があるその声で話し始め

フをはじめ...多くの優秀な生徒が入学してきました」 今年は、最高位で《聖騎士》の二つ名を持つダント サスティー

に勝るとも劣らぬ生徒が在籍しております」 「Aクラスだけではなく、他のクラスの生徒の中にもAクラス生徒

: ! ?

...今、一瞬学園長が首を動かした。 た「だけ」だと思われるだろう。 大多数には、 ただ首を動かし

だが、 のだ。 俺には「学園長がこちらを見た」ように見えた。 なんだ、このプレッシャーは。 目が合った

これにて、ご挨拶を終わらせていただきます」 「非常に見ごたえのある試合となることを、 期待しております。

だろう。 大きな拍手と共に、 マイクがあるわけではないのに、あんなに大きな声になるのはなぜ どうせ、この観客席の何処かから見るつもりだろう。 「拡大」 学園長が中心から歩き、 の魔法でも使ってんのかな。 闘技場内から消える。

それでは、 各クラス1番手の方は入場してください!」 早速第1試合と参りましょう! Bクラス対Fクラス

.. さて、始まるぞ。

殺さなければ、 対抗戦のルー ルは、 格闘、 この前も説明したとおり1対1の団体戦である。 魔法、 【チカラ】、 何でもOKだ。

き込むものとなった。だから予想通り、 それは良い意味でも悪い意味でも観客席を巻

まぁ、 やら「 良い意味では、もちろん熱い戦いで観客は熱狂。 悪い事ではないから、 イエエエェェア アアァァァァ これは良い意味と言えるだろう。 やら、 熱い。 ウオオー

悪い意味は..

しつこいですわ! 《**暴**風》 <u></u> 紅玉の火炎》

..... ヌッ また魔法と宝石をあわせたのかッ クソッ

の指輪を突き出して詠唱。 .. Bクラスキャプテン、エリヴァン=シャルロッテが右手、

だ。 だから彼女は魔法と宝石からの魔法を組み合わせ、別々でだ。 これは、普通の魔法とは別として扱われるらしい。 彼女の【チカラ】は、【身に着けた宝石を魔法として使えるチカラ】

ıΣ 強力な1つの魔法として扱ったりしている。 別々で攻撃した

たのか。 なるほど、 納得。 大量のアクセサリー を身に着けていたのはこのためだっ

先程のは、 Fクラスキャプテン、 ルビー から出た火炎が暴風に巻き込まれ、 ケン= フォ ロウを襲う。 暴熱風として

と同時に、 観客席の俺達をも襲っているのだ。 これが悪い意味。

「熱っ、熱いっ!」 「焼け死ぬー!

そう言っても、ここまで来る物は体に深刻なダメージを与えるほど 周りから、そんな声が聞こえる。 では無さそうだ。 ...地獄絵図かよ..

氷膜》と《台意》のでよっ、コー・アイスベール ヒール りょう くい 俺の隣にいるメンバー4人はモロに喰らったみたいで、(・・・ 俺の隣にいるメンバー4人はモロに喰らったみようがひ 俺は【チカラ】で【熱さに物凄く強い体】を望み、 それにしても巻き込みようがひどいな。 涼しげな顔でそ 俺は《

ウゴァッ!...」

ドサッ ッタリとした。 : پ フォ ロウが闘技場の壁に衝突、 気絶したようだ。 呻きながらそのままグ

対3で、 巨大な水の槌でケン=フォロウを吹き飛ばした!」 「戦闘不能により、 「決まったー! Bクラス勝利! エリヴァン = シャルロッテが勝利! 《巨人の槌》と《蒼玉の津波》 2回戦へと駒を進めましたー を組み合わせ、 よって2

クラスが勝ったか。 ウォオオオオォォォ と歓声が上がる。 やはり、 予想通りB

手を振りながら出口へと歩くシャルロッテ達Bクラスは、 2回戦、

だったが、闘技場から姿を消した。 来るチカラ】だったな。 フォロウ (アイツは、 もとい準決勝でAクラスと当たる。 【氣を生成、 多分だが。)達Fクラスも善戦したみたい 色々な形で現出させることが出 楽しみだな。

アルト、 そろそろ行くか? まだ余裕はあるけどよ」

たいからな」 ... あぁ、 ... もう行こうか。 ここで体調が悪くなるのはもう避け

髪女子がキャプテンを務めるEクラスだ。 次は白髪ナルシスト風男子がキャプテンのCクラス対普通っぽい金 皆が頷く。 魔法の余波が来ないように遠くから観戦していよう..。 どうやら同じ気持ちだったようだ。 楽しみだな。

は勝てるよ...」 : よし:: 《浄化》 系魔法は使われていないようだね.....皆、

のを見てそう言った。 正確にはモザにしか見えない黒い靄が未だアルトの手を覆っているモザは、出場者の控え場所へと歩みを進めるアルトを見て...いや、

アルトたちに見つからないように隠れて見ているDクラスたちは中 々に不気味である。 1番前にモザ、その後ろにその他のDクラスメンバー が隠れてい ಶ್ಠ

「歩兵長を殴り飛ばしたとはいえ...所詮最下位だね...。 注意する

必要も無かったかも...」

「じゃ...僕達も行こうか...」

場所は2つ有るのだ。 Dクラス5人は、アルト達とは反対側の控え場所へと向かう。 控 え

... 顔に、不気味な笑みを浮かべながら。

第17話:アルトは、XCMに出場した。 (1) (後書き)

けども。 うわぁ、 何というテンプレ。コンセプトだから良いには良いんだ

そして最後にはモザが不気味に笑ってます。 怖い。

感想・アドバイスお待ちしております!

第18話:アルトは、 XCMに出場した。 (2) (前書き)

Claass D V vs Class G E

はっきり言って、寝ぼけて書きましたorz モザ君には犠牲(笑)になっていただきましょう。 今日はアルトくんがとことんチートになります。

第18話:アルトは、 XCMに出場した。

この戦いも両者一歩も引かない物で、 士の試合となった。 XCM1回戦第2試合。 Cクラス対Eクラス。 ついに5番手、キャプテン同

金髪女子、マリン・ブルーミア。 対するはEクラスキャプテン、小さなリボンがチャー Cクラスキャプテン、白髪で背が高い男子、 コルモ・ ムポイントの ヒューリス。

た。 とゴングが鳴り、 先に動いたのはヒュー リスの方だっ

^ ^ まぁ…俺の【翼を操るチカラ】で、サクッと勝っちゃおうかなぁ いや、 あの女子可愛いけども...やるからには倒さなきゃなぁ。 やっぱ女子だから、 羽はちょっと掠るぐらいで...。

手の女子...ブルーミアとか言ったか、 そんなことを考えていた俺、 俺はゴングが小気味よく鳴るなり、 コルモ・ヒューリス。 銀色の翼をバサッ に襲い掛かる。 と生やし、 相

俺が翼を広げるなり、 歓声が沸き起こる。 Cクラスの女子だろう、 ほぼ悲鳴とも取れる

が育てたー!」 キャ ヒュー リスト ワッショー イ!」 翼が綺麗よー 貴方は私

:. ^ ^ ` 気分が良いから。 なんか違う物が混ざってた気がするけど、 まぁ しし いか。

何時もの癖で、 てもあの女子、 襲い掛かりながら髪をサッとかきあげる。 全く動かねえなぁ...。 :: にし

: ! ?

な たみたいに。 何だ? ブルーミアが突然消えやがった。 フッと、 風に溶け

急いで辺りを見渡すと、 いた。 俺の右後ろツ!

見渡すと今度は俺の真後ろ。 ババッ! ...しかし、ブルーミアはまたもフッと消え、 ぐらい...必ず当たる! 俺は3枚ほど羽を射出。 速度はベアルが全力疾走する キョロキョロと辺りを

飛ばす。 クソがっ 俺はもう一度羽を、今度は多く...30枚ほどを一斉に

次こそ、 範囲を広めに飛ばしたので一枚ぐらいは当たるだろう。

え、 :... な、 今度は俺の左前! なぜだ。 なぜ当たらない! なんなんだよ! ブルーミアは三度フッと消

かる。 くそ、 今度こそ、 だが、 今は勝たなきゃ 今度こそ......俺の顔が歪んでいるのが自分でも分 いけない!

: すると、 俺の左前にいたブルーミアはその場で体がボロボロと結

構なスピードで崩れていき、 最後には塵となる。

部に強い衝撃が走った。 なんだと考えて、 その塵に触ろうと屈んだまさにその時、 ガッ!!っと、 殴り飛ばされるような衝 俺の後頭

まし、メンバーから説明を受けた時。 俺がそれをブルーミアの蹴りだと認識 したのは、 控え場所で目を覚

その時の、 なく意識を飛ばしてしまったのだった。 蹴られた時の俺はというと、 いきなりの出来事にあっけ

.. あぁ、女子の歓声が.. 聞こえる...。

なるほど、 あの女子は幻覚使いか。 幻覚系の 【チカラ】

幻覚の【チカラ】!? …何で分かるんだ?」

けだ」 ルーミアとか言う女子が周りのどこかに居ると白髪が認識してたわ あの白髪は周りをキョロキョロ見渡してたろ? アレは、 あのブ

- ミアが《幻視》の魔法を使ってる」 「ブルーミアは目の前に居たというのにさ。 ということは、 ブル

系の 髪はあちこち見ていた。 だけど、 【チカラ】というわけだ」 《 幻 視》 の魔法は常時目を見ていないといけ つまり、 そういう制約を取っ 払った幻覚 ない。 白

なるほどな... あの女子には気をつけなくちゃな」

た。 席の一角では 控え場所、 闘技場の真ん中ではあの白髪がだらしなく倒れており、 戦闘がよく見える場所でエイナの疑問に俺は答えてやっ

スコー 「キャ イ! ヒュー リスー (ボソッと) ざまぁみろ...」 倒れた姿も綺麗よー (爆笑中) ド

部男子生徒の歓喜の声が聞こえているから、 といっ 無さそうだな。 た黄色い歓声とも悲鳴とも取れるそんな声が聞こえる。 男子の中では評判良く

う側..多分Dクラスの、 コルモ・ヒューリスは最後までだらしなく倒れていて、 へと消えた。 根暗達が居るであろう控え場所がある出口 担架で向こ

めました!」 チカラ】でコルモ・ヒューリスを撹乱! 「さぁて! キャプテン同士の戦いはマリン・ブルー そのまま一気に勝負を決 ミアがその

Gクラスの勝者と決勝行きを賭けて戦います!」 「これによりEクラスが2回戦進出! 今から行われるDクラス対

「それでは、 ロクラス対Gクラス! 1番手の方は入場してくださ

俺達の出番だ。 1番手は、 若干緊張気味のメテリア。

「頑張っ から。 て来いよ、 つもの実力が出せるようにな」 メテリア。 あぁ、 そんなに緊張しなくてい

は、はい! それじゃあ行ってきますっ!

俺の声に少しだけ緊張がほぐれたかその分だけいつものメテリアら しくなって。

出入り口、闘技場の向かい側から歩いてくる敵を見つめて、 も入っていく。 こちら

それでは1番手対決.....始めッ!」

カーンッ を展開した !と甲高くゴングが鳴り、 メテリアは1度に3つの魔法陣

4番手対決までが終わってみれば、 なかなかにいい試合だっ

た。

》からの《追尾》、1番手メテリアは、 思った) 《隕石落し》は、さすがの俺も中々高火力×3の鬼畜魔法で敵を圧倒。 さすがの俺も中々に鬼畜だと (**煙**スモーク

2番手ョハン。 相手は格闘系だったらしく、 良い勝負を展開する

も、後一歩で敗れた。

相手を戦闘不能にまでした。 3番手のアリスは、 恐るべき【密林地獄】無双。 たった数秒で、

やはりヨハンとアリスは、 また今度説明することになりそうだな。

そして、4番手エイナは..

あぁ、 クソッ」

から」 戦いだったじゃ んか。 そう気にするなって、 俺が取り戻す

... 絶対勝てよ。 ... いたたた...」

戦略には戦略だがズルにしか見えない。 界はあるようで、 剣士のエイナとはあまり相性が良くない魔法使いが相手。 エイナはそんな状況でも果敢に剣を振り続ける、 エイナが剣士と見るや、遠距離魔法をバンバン打ち込んでくる。 最後には力尽きたのだった。 殴り飛ばそうかと思った。 しかしそれにも限

というわけで、4番目を落として、2対2。 p;主人公補正だ。 絶対回ってくるのか。 流石テンプレ& a m

キャプテン、 「それでは! 「なんとこの試合も最終対決、キャプテン同士の戦闘となりました アルト=シューバは、 ロクラスキャプテン、 入場してください!」 セルニータ = モザとGクラス

そして、 俺の出番が来た。

思ったんだけど...」 「フフ、最下位がキャプテンだから... てっきり勝負を捨てたんだと

「そうじゃなかったみたいだ...まさか僕が出ることになるとはね...」

俺と同時に出てきたモザは、 不気味な笑みをそのままに俺に話しか

ける。

んだ…」 フフフ、 君は絶対勝てないよ.. もう、 その段階まで来ちゃった

... 根暗だなぁ...。

「それでは、5番手。 始めッ!」

ゴングが鳴り響き、モザは、手を上げた。

フ...《浄化》 の魔法は未だ使われていないね..勝った。

大人は抵抗できない。 時間が経てば経つほどその効果は大きくなり、 仕込んで直ぐには簡単に抵抗され、 自分以外に見えない「種」を仕込むことが出来るチカラ】。 の部位と同じ自分の部位の動きをリンクさせる」こと。 「種」は、黒い靄のようなもので、その効力は「仕込んだ相手の体 セルニー タ= モザの 【チカラ】は、 靄は振り切られてしまう。 【触れた相手の体の部位に 1日も経てば、 並の だが

を得る。 なお、 デメリットはまだあり、リンクさせた相手の部位は超人的なパワー け怪力の 1週間前、 この「種」 人間が抵抗しようと、なす術が無い位だ。 だが、 対戦相手決めのときアルトに仕込んだ「種」は、 これはモザにとって好都合だったりする。 は《浄化》 の魔法を使えばあっさりと消える。 どれだ

う。 だが、 ここまで大きくなれば浄化するのにも相当時間がかかるだろ

勝った..。

剥がすことは出来ないだろうね...」 「その種はもう、握手した右手を支配しているんだ..。 「アルト君、君に握手した時、僕は「種」を君に仕込んだんだ...」 もう引き

のに...流石ワースト...」 「それじゃ、 「アレからすぐ《浄化》 僕の勝ちだね...自分の右手に負けなよ」 の魔法を使えばこんなことにならなかった

向けた。 モザは、アルトの右手とリンクさせた自分の右拳を自分の顔に

ってはそのパワーで重たい一撃を喰らうことになる。 モザの考える戦略。 そのまま拳を放てば。 自分は軽いダメージで済むが、 これこそ、 相手にと

はモザの目の前にまで迫っていた』。 モザが拳を放とうとしたそのときにはもう、 『アルト

..... え?

衝突した。 そして、 モザの体は鳩尾に拳を入れられながら吹っ飛び、 壁に

剥がすことは出来ないだろうね...」 その種はもう、握手した右手を支配しているんだ...。 アルト君、君に握手した時、僕は「種」 を君に仕込んだんだ...」 もう引き

... なるほど、 ことか。 さっきから右手が自由に動かないと思ったらこういう

あの根暗、 っちゃったし、 自分が勝ったと思って慢心してるみたいだな。 あいつが今から何をするか、 予測はつくし。

のに...流石ワースト...」 アレからすぐ《浄化》 の魔法を使えばこんなことにならなかった

わけか。 って事は、 あいつはこれをするためにわざわざキャプテンになった

ぁ 色々考えて、 くいかもしれないからな。 たので、俺は【チカラ】でその種を消滅させ、 「それじゃ、僕の勝ちだね...自分の右手に負けなよ」とか言ってい ちゃんと「支配された真似」はしたぜ? とりあえずアイツは馬鹿ということで結論がついた。 その方が気付かれに 脚力を要求。

え、 表には出してないから。 それだと【クリエイター】だってばれないかって? あくまで「裏」で種を処理したんだから。

アイツはまだ気付いていないらしい。 んじゃ、 行くか。

脚力で10mほど離れた距離を一気に詰める。 そう思って俺は右手を下げ、 それが相手に認識されないうちにその

「ゥオラアッ!」

正拳突き。 刺さり、 根暗は吹っ飛ばされて壁に激突した。 俺が最も得意とするそれは、 易々と根暗の鳩尾に突き

まるで人形みたいにぶっ飛んでいったモザ。 まだ意識があるか。 結構入ったと思ったんだけども。 もう気絶したか?...

俺はモザが立ち上がろうとする場所まで跳ぶ。 入れただけで、 20mほどジャンプした。 ちょっと脚に力を

できないはずなのに.....」 グ..... なぜ、 《浄化》も使ってない、 なぜ君は自由に動けるんだい... 期間は1週間..。 普通なら、 全く抵抗

あぁ、 みろ的な意味で。 迷ってる迷ってる。 こう迷ってる顔、 好きだな。 ざまぁ

そうだな、まぁ...俺だからじゃないか?」

絶させた。 最高に理不尽な言葉を吐きつつ、 俺は首筋に手刀を当て、 モザを気

らね。 くさいセリフだなぁ? あぁ分かってる。 だってテンプレだか

俺は、 バーが待つ控え場所まで戻る。 歓喜と驚嘆と落胆が同居する歓声を聞きながら、 ・Gメン

こうして1.Gは、1回戦でDクラスを破り、2回戦へと進

出した。

ス。

2回戦相手は幻覚使いのマリン・ブルーミア率いる、Eクラ

167

第19話:アルトは、XCMに出場した。 (3) (前書き)

Class Α V S C 1 a s s В

ヨライ「気分」 アルト「何か今日はやけに早くないか? 投稿するの」

9話:アルトは、 XCMに出場した。

勝ち残ったのは、 シードのAクラス。 さて、 XCMも2回戦...もとい、 Bクラス、 Eクラス、 俺達Gクラス。 準決勝になっ た。

圧倒。 として使えるチカラ】でFクラスのキャプテン、ケン= フォロウを Bクラスキャ プテンのエリヴァン= シャルロッテは、 【宝石を魔法

タ=モザの姑息な戦法を【チカラ】で破り、そしてGクラスキャプテンの俺は、Dクラス Eクラスのキャプテン、 でCクラスキャプテンのコルモ= マリン= ブルーミアは幻覚系の ヒューリスを一発で仕留めた。 Dクラスキャプテンのセルニー 殴り飛ばして勝利。 【チカラ】

より強い。 Aクラスはシードだから各々実力は分からないが、 させ、 絶対強い。 きっとBクラス

戦いを見せ付けるのでしょうか!」 「ここからはシードのAクラスが登場します! さてさて! XCMも1回戦が終わり、 準決勝へと移ります! 体 どういった

でも、 聞いてもウザったいな。 キャプテンだから・ 司会であるモデラ・トー Aクラスの実力が未知数なのは事実だ。 相当手強いな。 の興奮した実況。 もう慣れたけど、 あの負けず嫌い 何 時

う む : ..多分当たるのは負けず嫌いだろうし.

<u>|</u>

奴の【チカラ】はまだ分からないが...とても高位のものだろうな。 【召喚系】なら【ドラゴンを召喚するチカラ】ぐらいか。

お い ルト

付 け ・ 《聖騎士》 ん ? の二つ名だ。 なんだ、 さっきから耳元で・ 相当高い戦闘能力に違いないな。 気を

おー アルトォ!」

その声が聞こえてきた時には、 即ち、 俺の頬には鈍い衝撃が加わっていた。

えられない硬さだった。 エイナの【チカラ】 ...物資の硬質化を使ったのだろう、 人間とは考

いってえ 何すんだエイナ!」

何じゃねえだろうが! さっきから話しかけてるってのによぉ

平謝り。 あ、 あの声はエイナだったか。 暴力には勝てないな。 すまんすまん لح

で、 なんだ?」

うして早く呼んでくれなかったんだよ!」 っておいおい、 もう1番手が始まっ てるじゃ ねえか! تع

だからさっきから呼んでたんだろうが! もう始まるぞー て!

してくださる?」 ・うるさい ですわ。 Gクラスのその2人。

お嬢様系女子、エリヴァン=シャルロッテである。 Bクラスのキャプテン、金髪のクルクルカールがト 俺とエイナがいがみ合う其処に、 凛とした声が割り入った。

え ? ここが控え場所だからである。 なんでエリヴァンがここにいるのかって? 答えは簡

ように、 そう、 AクラスとEクラスの控え場所は同じだ。 クラスの控え場所とGクラスの控え場所は同じ所。 同じ

者と次の対戦者の控えが、 これは、 闘技場の出入り口が2つしかないからであり、 必然的に同じになるのだった。 現在の対戦

「すまんな」
「す、すまねぇ。 ちょっと熱くなった」

た。 やはり、 ルトは気付かなかったが同じ事を悟ったエイナ) 対戦前だから緊張しているだろう・ は (同時に)謝っ 悟った俺(と、 ァ

ライラするが言い返せそうに無い言葉を浴びせ、 エリヴァ ンは、「ふん これだからGクラスは 闘技場の方向を見

それに釣られ、 茶髪の筋肉質な男子が戦っていた。 今はAクラスの1番手、 俺達もその方向を見る。 青髪の爽やか系男子と、 Bクラス1番手、

「ウオラアアッ!」

だけど、まだ甘い。 茶髪の力強く、 それでいて隙の無い回し蹴りが僕の頭部を狙う。

それを屈んで避けると、 もう片方の足でのローキックを狙う。 予想通り。 茶髪は強引に回し蹴りを中止 奇襲。

直ぐに立ち上がる。 だけど、予想済み。 屈んだところから左に大きく転がって避け、

どうしたぁ! 避けてばかりかゴルァ!」

・・・生憎、避けないといけないんでね」

ないのに。 相手は脳筋のようだ。 Bクラスだと思いたくないね。 避けることも戦術の一つだというのに。 全く、 敵と拳を交し合う事だけが戦闘じゃ後1つだ。

うに。 その声と同時に彼の右腕は黒ずんでいく。 闇に侵食されるかのよ

そして、 何か来るのか? 完全な漆黒となった彼の右腕。 彼は振りかぶって

| 《空気の弾丸》!|

右腕で、 からだ・・ の方向を向い ・でも、 何も無い虚空にストレートを繰り出した。 ・なるほど。 小さく何か聞こえる。 てはいるけど10mほど離れた僕には当然当たらない。 • ・コォォォという音、 それは一応僕

所は、 僕は其処から右に駆け出す。 硬い地面のはずなのに「何かで大きく砕かれていた」。 ドォン!という音。 前に僕がい

ち主だ! 「ガハハハアッ! 体に穴開けたくないなら、 当然、空気だって殴り飛ばせる!」 俺は【右手なら何でも殴り飛ばすチカラ】 無様に避け続けなぁっ

脳筋 僕は逃げる。 の証拠だね。 ・確かに強力だ。 1番最初に「点」を置いた場所! 正確には、ある一点に向けて走る。 そして、 だが、 僕の【チカラ】も見抜かれにくい! それを把握した以上当たらない。 そして、

其処の地面に手を置く。 いるが・ ・よし、 準備完了。 茶髪は 諦めたかぁ などと言って

というわけで・・・

なんだぁ!? まだ何かやる気かゴルァ!」

「 発動 」

: : ア 青髪が何か言った後、 茶髪は振りかぶった体勢のまま動かない。 ツの声は良く聞こえたからな。 茶髪はまた空気を打ち出そうとしていた。 何するのか予想はつく。 いや、

少しずつ動いてはいるが・・・遅すぎる。

その間に青髪は蚊が止まるほど動きが鈍くなった茶髪に近づき 問答無用のフルボッコを始めた。

は 20秒間にも続いた。 ・うわぁ、 ひどい。 殴る蹴る打つ突く叩く・ それ

動かないのだ。 不思議なのが、 あの茶髪はどれだけ攻撃を加えられようと、 アイツだけ、 動きが鈍くなったように・ あまり

青髪がまた何か言うと、 茶髪は開放されたように倒れこむ。

・・・気絶しているようだ。

な 何ということだ! カノンがボコボコにされて負けるなんて・

• • ! ?]

いといった表情で闘技場内を見る。 Bクラスのメンバーだろう、 黒髪で杖を持った男子が、 信じられな

くそ 次は フウカ! 貴女の番ですわ!」

「はっ、はい! 入って参ります!」

何時もとは違い、 立ち上がったのは、 小さく震えた声でエリヴァンが次の命令を下す。 剣を持ち、黒髪でおかっぱ (に似たヘアスタ

イル)の女子。

日本人らしい名前。 剣もよく見れば刀身が細く、 日本刀のようだ。

声を出し、 フウカと呼ばれた女子は、 闘技場内へと入っていった。 自らを鼓舞するかのように「おー لے

結果。 そのフウカ・エーリルという女子は負けた。

相手は、 3mを越すだろう刀身を持つ、大剣。 長い白髪の女子・ ・ウェスレイ・リスニル。 背には、

手の女子はひどかった。 エーリルは侍よろしく素早い動きと精密な刀捌きだったのだが、 相

差は歴然。 なんせ、その大剣を片手で持ち、片手で振り回すのだ。 チの

その大剣は地面を砕くと共に地面を進む衝撃波も備え、 エーリルにそれが当たったのだ。 最終的には

これはひどい。 力の差がありすぎるのだ。

ボロボロになって帰って来たエーリルを見て、 いるのが分かる。 エリヴァンが震えて

・・・私が行きますわ」

が行きます!」というも、 すっと立ち上がったエリヴァン。 エリヴァンの足は止まらず。 先ほどの杖を持った男子が「私

なさい」 私は、 何としてでも勝ちますわ。 だから、 其処で黙って見てい

いや、 男子は引き下がった。 掛けられず。 その背中を見送った。 俺達はそんなエリヴァ ンに何の声も掛けず、

・・ 強い。

すわね。 確かに強いですわ。 Aクラスの名は伊達じゃないって事で

でも、 でも私は勝つ。 何としてでも勝ちますわ

に何も身につけて あちらから出て来たのは、 いない。 私より背が低い男子生徒。 黒髪で、 特

ってみないと分かりませんわ。 何も付けていないということは、 静かに、 格闘 気合を入れる私。 悩むも、 それは戦

「それでは、3番手・・・始めッ!」

ゴングが鳴り響き、 私は一気に攻勢を掛ける事にしましたわ。

如 私がそう叫び、左の人差し指にあるダイヤの指輪を突き出すと、 闘技場内に大きな竜巻が巻き起こりますわ。 突

2つの魔法で、その竜巻に触れようものならたちまち切り裂かれる

ども。 ・・いわば鎌鼬の竜巻版ですわ。 本体に触れなければ大丈夫だけ

今ので、ダイヤが半分ほど減りましたけども...大丈夫。

それはゆっくりと彼に近づき、 彼は動こうとしない。

・・・でも、それは怯えてるのではなくて。

面倒だなぁ・・・消えろよ」

竜巻に当たって 彼はすっと右の人差し指を竜巻に向けましたわ。 そして、 それが

パシュ わ という小さな音と共に、 その竜巻は「消え去りました

え? ね。 その時私は、 あまりの驚きに身動きが取れませんでした

そして彼はというと、

ということで。 つく 良い魔法持ってるじゃん...。 バイナラ まーでも、 残念でした

先ほどのことで放心状態だった私は初動が遅れましたわ。 それが当たると・ 彼はそういうと、 ていましたわ。) をこちらに向けて、 その人差し指(よく見ると、 何か、黄色い球体を発射。 細かな切り傷が出来

声も出せない、切り裂かれるような痛み。

私は何も言えず、 しさと、 Bクラスの皆に対する謝罪でしたわ。 その場に崩れ落ちて ・最後に思ったのは、 悔

ルロッテを一撃で倒したー かと思うと! 撃! テミニル・ラー エリヴァン=シャルロッテの竜巻がいきなり消えた トの黄色い球体がエリヴァン=シャ

「これにより、 3対0でAクラス快勝-決勝進出を決めました

「 強え え

なんだあれは.....見たことがないぞ、 あんな物」

゙......な、なんですかあの人達」

エイナ、ヨハン、メテリア、アリスと続く。

4人は、 いている。 あまりの圧倒振りに驚いているようだ。 俺も驚

行ける。そして、俺は負けず嫌いと。

だが、

人目のからくりはある程度分かったし・・

・2人目も多分

運ばれていくエリヴァン。

あのラートとか言う奴、チー

ト臭いな。

俺は、 燃えていた。 確かにAクラスは強い。 だが、 そんなAク

ラスに、勝ちたい。

幸い、俺には対抗できるぐらいの「 力 はある。 。 そして、

よっ 皆、 次は俺達だ。 勝つぞ。 絶対

4人は、 この5人なら行ける。 戦々恐々としながらも頷いた。 よし、意思さえあれば...

次の対戦は、Eクラス対Gクラス。

「サクッと勝って、早くAクラスの奴らを潰しにいこうぜ!」

足に行く子供のように 他4人が軽く戦意喪失する中、アルトは1人、まるで明日遠 Aクラスが圧倒的な力で勝利した。 ワクワクしていたのだった。

第19話:アルトは、 XCMに出場した。 (3)(後書き)

アルト君み な ぎっ てきてま す

ハイになってました。 ごめんなさい、何か面白くしようとしたらいつの間にかアルト君が イメージ崩れたかもヽ (^o^) /オワタ

アルト君LOVEな方と読者様には焼き土下座してお詫びします。

第20話:アルトは、XCMに出場した。 (4) (前書き)

「Class E vs Class G」

修正しました。 物語に影響ありませんので、ご心配なく。

第20話:アルトは、 XCMに出場した。 4

アルト視点

XCM準決勝、 第2試合。 Eクラス対Gクラス。

決勝進出を決めた。 第1試合では、 AクラスがBクラスを3対0とストレートで下し、

その圧倒的な力に、 していた。 他のメンバーが恐れ戦く中..... 俺はとても興奮

ければ。 早くあいつらと戦いたい....。 そのためには、 Eクラスを下さな

皆には、まだ戦う気は残っている。

団体戦ゆえ、俺1人がやる気になっていても皆に戦意がないならそ の戦いに勝ちは無いのだ。

「さて.....1番手は.....アリス。 行ってくれるか?」

コクンと頷いた。 ストレートの長い黒髪が目立つ少女、 よし、決定。 アリスは、 若干俯きながらも

アリスは立ち上がり、皆に向かって一言。

......勝ってくるから.....

そしてアリスは、 確かな意思が宿っているのは、 何時ものアリスの口調だ。 闘技場の中へと踏み込んだ。 見暗いような。 誰の目にも明らかだ。 だけど、 その言葉に

それでは始めましょう! 1番手. 始めツ!」

げた。 ゴングが鳴り、 アリスは何時ものように両腕を突き出し、 両手を広

「.....【発動】」

バンッ!と大小様々な木や草が溢れ出し、 ボソッと言うと、 アリスの近くから円状に、 其処に密林を作り始めた 地面を押し退けて、 ド

チカラ】。 】。 通称【密林地獄】 ハース・ローマイの【チカラ】 は 【密林を作り、 支配する

リスを中心にジャングルが出来上がる。 其れはまさに名の通り、 アリスが【チカラ】を発動すると、まずア

ルを超短時間で作り出すのだ。 元の世界であったような、 そしてこの世界にもあるだろうジャング

木には火を...《火球》!!.

手もそのジャングルの中に飲み込まれる。 その相手、 アリスのジャングルは、 バスケットボー 杖を持った魔法使いだろう男子生徒が、 ルほどの大きさを持つ、 闘技場を埋め尽くすには十分だった。 煌々と燃える火の 杖を両手に持ち 相

球が作り出される。

杖を前面に振ると、 其れが手身近な巨木に向かって飛翔した。

考えは正解だろう。 すことが先決だ のでなく、どうせ本人には当たらない。 【「密林」 を「支配する」】事だ。 だが、アリスの能力は【「木」を「操る」】 その男子は、 そう思ったらしい。 この目障りなジャ ングルを燃や

その後、同じく《雷矢》、土に効きそった。 当然、火球は壁に阻まれ、消滅。 地面は土である。 前者は土壁に、 後者は動く蔦が寄り集まった壁にそれぞれ阻まれた。 その土が突然盛り上がり、 土に効きそうな《水球》を連発するも、 巨大な壁を作り出し

男子が「くそっ 声が聞こえる。 !」と思わず口に出すと同時、 天から、 地から、 右から、 左から...全方向から。 何処からかア ´リスの

· 今度は... こっちから... 」

できた。 前から高速で、 男子生徒は声に警戒し、 さながら槍の様に先端が鋭くなった蔦が3本、 杖を構えた。 そしてその数秒後、 男子の 飛ん

きは鈍くなる。 ステップし、時には杖で蔦を叩き落したりもするが、 男子生徒は中々身体能力が良い様で、 段々とその動 体を捻り、

急激な運動に加え、 ているのだ。 負で、 時々体を掠る蔦の傷が、 彼の制服は段々と赤く染まる。 ドンドンと体力を削っ

クソが. ツ なめるなよ! 、大熊四重奏】

カラ】は「召喚系」 ついに切れた男子生徒は自らの 【チカラ】 を発動する。 彼 の 【チ

いた。 雄叫びを上げ、 グオオオオオオオオ 彼に襲い掛かろうとした蔦をその鋭利な爪で切り裂 .!! と彼の周りに現れた4体の黒大熊が

れるのだ。 この【チカラ】は、 アリスは腕に現れる切り裂かれるような痛みを堪えていた。 操作している物と四肢とでダメージが共有さ

先ほどの蔦は油断した。 これが、 つまり、 【密林地獄】のデメリットである。その痛みがアリスの腕にのしかかっ 其れは切り裂かれて先端が干切れている。 ているということ。

だが、 年のためにも。 チー ムの ためにも負けられない。 特に、 赤茶の髪をし た少

迫る。 ちは忠実に動き、 「行けっ 男子生徒がベアルたちにそう命令する。 目の前の蔦や木を切り裂きながら突進、 ベアルた アリスに

離は縮まる。 対してアリスは力を溜めている様で、 ドンドンとベアルたちとの距

かぶり かが貫いた』。 そして最初のベアルが、 がアリスに到達する前に、 アリスに半ば倒れこむようにその爪を振り 『ベアルの腹を、 何

子となって消えた。 腹をぶち抜かれたべ な「木の杭」 が。 アルは叫び声を上げることすら叶わず、 その後ろには地面に突き刺さるこれまた巨大 光の粒

ル達のおかげで視界が開けている。 男子生徒はその光景を見

て、思わず息を呑んだ。

その男子が、生き残るベアル達に命令を下すその前に、 とベアルを打ち抜き、光の粒子へと変貌させていった。 方から現れる木の杭はアリスが腕を引き、再び突き出すたびに次々 アリスの前

そして。 わせた。 最後の1体を消滅させたアリスは、 こればかりは、 鋭い杭ではなく、 破壊力の槌であるが。 男子生徒に照準を合

「ぐっ く震えながら立ち尽くす。 男子生徒は後退りすることも出来ず、 その場で小さ

での杭と同じように飛び出した。 アリスは、容赦なく右腕を引き、 そして突き出す。 槌は先ほどま

な笑みを思い出し、 そして男子生徒は、 先ほどのベアルを次々と打ち抜くアリスの獰猛 其れに強烈な恐怖を抱きながら、 意識を失った。

よし、まずは1勝だな」

れた。 エイナが言う。 アリスなら勝つだろうって感じてたが、 やってく

帰ってきたアリスに、 アリスは俯き、 たようだった。 無表情かと思って顔を覗き込むと、 労いの声を4人で掛けた。 顔は少し笑って 其れに対しても

......次は.....ョハンか」

「.....リーチ、かけてくるよ」「うん、僕だ。 さてと.....行って来るかな」

男ながら、 しは本気で。 かっこいいなと思った。 主には厨二的な意味で。 少

には何も出来ない。 お坊ちゃま風のヨハンだが、 黙って見守ることにした。 実力は本物だ。 どうせ他人の試合中

ヨハンの二つ名は《爆速》。

な効果を発揮する【チカラ】だ。 その由来はヨハンの【チカラ】であり、 1対1のこの大会では多大

相手は、 家のようだ。 拳にガントレットをつけた女子。 アレに当たると、 痛そうだが。 どうやら拳で戦う格闘

しかし、ヨハンは其れに掠ることすらもない。

女子が叫ぶ間にもヨハンは、 しながら叫ぶが、 ちょこまか動きやがって!」 其れに応じるヨハンではない。 拳や足で少しずつ相手の体力を削って Ļ 相手の女子は拳を振り回

行くのだった

細かく言うと、 ヨハンの【チカラ】とは、 、俺の【チカラ】で出来る脚力増加とほぼ同じぐ【脚力を超人レベルにまで上げるチカラ】。 簡単に言うと「瞬間移動」である。

らいだ。 その上げた脚力は、 いや、 俺よりも上かもしれない。

なると... 俺の脚力はモザ戦で明らかだろう、 其れは相手から見ると、 アレより上の速度で人が迫ると 瞬間移動というより他ならない

[.] 遅いよ、君...」

か届いていない。 そうヨハンは言うが、 その速さのために相手には途切れ途切れにし

二分に混乱させていた。 今、ヨハンは相手の周りをぐるぐると回っており、 アレは目が回るな。 相手の女子を十

見えているようだった。 そして、 早すぎるヨハンの機動はあたかも分身しているかのように

「ちくしょうっ!」

カラ】を使わなければぶっ倒れそう。 少々目を回しつつも、 倒れないのは流石格闘家だ。 俺なら、 【チ

なく、虚空を殴るだけ。 るヨハンの1人に叩き込もうとした。 女子は苦し紛れに、渾身の右ストレートを分身しているように見え だが、 其れは当たることは

は振り向きざまに裏拳を叩き込もうとするが、 彼女に到達した。 分身は消え、彼女の後ろにヨハンが現れる。 ヨハンの脚が先に、 其れに気づいた彼女

を飛ばしたようだった。 きざまということもあっ 女子でも容赦なく、 腹につま先蹴りを打ち込んだヨハン。 て彼女は後ろに吹っ飛び、 あっけなく意識 振り向

勝負ありだぁぁぁ これで2対0 Gクラス、 ザリアント= 決勝に王手を掛けましたぁぁ 크 八 ンの蹴りがヒッ ああ

かな。 の実況も、 なんだか心地よく感じてきた。 ... 毒されてきたの

よくやったヨハン! 結構かっこ良かったぞ!」

کے エイナが、戻ってきたヨハンに話しかける。 そのヨハンはという

「結構」はちょっと気に食わないけど……そ、そうだった?」

さ、其処まで赤くなるか? 顔が赤いぞヨハン。 どうした? そりゃ運動後は顔赤くなるけど

「そりゃもう! 「結構」かつこ良かった!さて、次はアル

お前だな!」

追い討ち掛けるなよエイナ。 ふう。 俺は、 一度深呼吸して、決着を付けに行く。 「結構」は使ってやるなっ

あぁ。 じゃ、行ってくるわ」

相手は、 多分Eクラスキャプテン..... 幻覚使いのマリン・ブルーミ

さて、「決め」に行きますかっ!

けではない。 マリン・ブルーミアの【チカラ】 は【強力な幻覚を与える】.....だ

彼女の力は【幻覚・幻聴・幻痛を与えるチカラ】。 相手が単純すぎた故に後2つは使わなかったのだ。

今回は、 ていた。 Gクラスといえども油断できない相手。 だと思っ

だが相手の赤茶色の髪を持つ少年は、 るではないか。 まんまと自分の策に嵌ってい

: 一 応 と「それに付随する幻聴」は使った。 「自分が相手の周りを相手が敵わない速度で跳び回る幻覚」

嵌ったアルトを嘲笑うかのようにゆっくりと近づく。 こう見えて、意外と調子に乗りやすいタイプのブルーミアは、 策に

が、それでもゆっくりと近づき。 ちょうど20秒で其処にたどり着いた。 を沈めた蹴りを放とうと言うときだ。 ブルーミアの幻覚は、 1回30秒で消えるというデメリットがある さて、 そろそろあの白髪

悪いなッ!」

そんな声が「 かったか。 後ろ」 思わず、 から聞こえた。 後ろを見た. だけど、 アレは、 誰もいない。 あの少年の声ではな

あの少年は、 なんだと思っ 忽然と姿を消していた。 てまた前を見る。 すると、 幻覚と戦っていたはずの

「ど、どこに・・・!」

撃が加えられた。 消えた? そう発音する前に、 彼女の首筋に一発、 トンッと軽い衝

が気付く前に、 其れがアルトの手刀だと気付くのにはそうそう時間は掛からず、 彼女の意識は闇へと落ちてしまっていた。 だ

アルト視点

よっし、気絶したな。

俺がブルーミアに手刀を入れ、 血管がはち切れるんじゃないかと思うような声で叫ぶ。 ブルーミアが崩れ落ちると、 が

のマリン・ブルーミアを打ち破っての勝利だぁぁぁ 一撃で沈めたあぁぁぁ アルト= シュ バ 幻覚使い

観客席が沸く。

あぁ、 ていると、 あそこで狂喜乱舞しているのはGクラスの皆かぁ またトーは血管が以下略の声で叫んだ。 と思っ

進出だああああ 「これで3対 0! なんとGクラスも、 ストレー トで決勝に

俺はゆっ 再び観客席が沸く。 くりと控え場所に戻り、 そうか、 もう進出決定だった。 4人と喜びを分かち合う。

あぁ、 よくやったアルト! ありがとう」と笑顔で返す。 決勝進出だ!」 : : پ エイナ。 \neg

く やっぱり敵わないね。 「そりゃどうもだな」と、こちらも笑顔で。 幻覚使いを破るなんて」 ョ 八

い 痛 い。 いから。 t, やったねアルト君!」メテリア。 振り回すなって.....」 喜んでもらえるのは嬉しいけど。 握力強すぎだろ.....やめて、 あぁって痛 痛

アップをしてきた。 くっ付けることで喜びを共有した。アリス。 俺はそれに、 何も喋ってないが、 同じくサムズアップをトンッと グッ !とサムズ

......やったな。 でも、まだ準決勝だぜ?」

学年最高位の負けず嫌いを始め、敵の型そう、メインはここからだ。

大剣使いの白髪女子、魔法を吸収した黒髪。そして、もう1人。 敵の動きを急激に遅くする青髪、

まさに最強と言って良い5人だ。

だが、 ラスじゃない。 全力を出して倒す。 こちらもみすみすやられに行くつもりじゃない。 ただそれだけ。 この大会では、 俺達はGク

よっしゃ!全力出して倒すぞ!」

番に右手を乗せていく。 俺の右手が一番下、そしてエイナ、 メテリア、 ヨハン、 アリスを順

そして俺の掛け声と共に、 「おう!」 と右手を掲げた。

決勝の相手は、最強Aクラス。Gクラス、決勝進出。

第20話:アルトは、 XCMに出場した。 (4) (後書き)

感想で指摘されました、視点変更の際の誰視点かを追加しました。

感想・アドバイス、ドンドンよろしくお願いします!

第21話:アルトは、 XCMに出場した。 (5) (前書き)

で Class A vs Class G」 「Final」

196

第21話:アルトは、 XCMに出場した。

ヨライ視点

さぁ いよいよXCMもクライマックス! 決勝戦です!」

トーの司会と共に、 観客がワー !と盛り上がる。 時は、 決勝進

出を決めてから2時間後。

俗に言うお昼休みを挟んで、 クラス対抗戦は一番の盛り上がりを見

それぞれ強力な4人を揃えた最強、Aクラス。 決勝に進出したのは、 学年最高位のダント・サスティーフを筆頭に、

た《不幸な天才》、アルト=シューバをキャプテンに据え、他の4ァンネッキー・パーフェクター対するは、無敵とも言える能力を持ちながらGクラス入りを果たし 人もAクラスに劣らない力量を持つ最弱、 G クラス。

に 本当なら交わることの無い2クラスが、 交わったのだった。 1人のイレギュラー を中心

くさい事言ってしまったが、 後は彼に任せよう。

アルト視点

運を天に任せるってやつか。 アイツが最後に出てくるように、 よいよだ。 当たるのは最高位の負けず嫌いだろう。いよだ。いよいよ、Aクラスとの決勝が始まる。 俺は、 皆の勝ちを唯祈るのみ。

それでは! Aクラスは1番手の選手を選んでください!」

ラスの順番決め」 このクラス対抗戦決勝には、 1つルールがある。 其れは「上位ク

決めて、闘技場に行く。 決勝に進出した2クラスのうち、 めるのだ。 下位クラスの方は、 上位のクラスのほうが先に選手を それを見て選手を決

分かっている両クラスだから、こんなルールが設定されているのだ。 これは所謂ハンデであり、 今までの戦いを見て【チカラ】の概要を

言い忘れていたが、 えないようになっている。 両クラスの選手決めは決勝以外相手クラスに見 どうなっているかは推して知るべし。

どうやらアイツは.....準決勝に出て来た、 説明している間に、 Aクラスの選手決めが終わっ 黒髪だ。 たようだ。

発で沈めた。 で消し去り、 あの黒髪、 Bクラスキャプテンのエリヴァンの強力な魔法を指一本 尚且つその指から黄色い球体を発射、 エリヴァンを一

.....それなら.....。

「 メテリアかな。 アイツに勝てるのは」

「わ、私?」

メテリアが、 素つ頓狂な声を上げた。 うん、 メテリア。

そう。 たぶん、 アイツに勝てるのはメテリアしか居ないな」

った。 俺がちょっとオーバーに話すと、 メテリアの意思も固まったようだ

よっし、OKだ。

「じゃ、よろしく頼む。勝って来いよ」

·うん」

軽く背中を押して、メテリアは闘技場へと入っていった。 俺は最後に少し、 メテリアに耳打ちした。 メテリアが軽く頷くと

......メテリアに何話したんだ?」 ... とエイナが尋ねた。

其れに対し俺は、 したのだった。 「ちょっとな」 ...と言い、 静かに見守ることに

ヨライ視点

メテリア。 Aクラス1番手...テミニル・ラー ・ ト 対_へ Gクラス1番手... ミリア・

それでは、1番手.....始めッ!」

最初に動いたのは、 トー は何時もより多く間を取り、 メテリア。 そして開始の宣言をした。

、《焔波》!!」

メテリアはそう言って片腕を突き出し、 魔法陣を展開させる。

乂

テリアの 【チカラ】 【魔術特化】によって強化された3つの魔法スペシャライズ・マジック

を襲う。 其処から、 ボォッ!と3つ大きな炎が溢れだし、 津波の様にラー

向け、 其れに対しラー 言う。 トは、 全く動かず。 させ、 右腕だけを炎を津波に

「......さっきの、見てなかった?」

た《焔波》は、一瞬にして消えた。炎の津波に、人差し指でちょんと触れるだけ。 3つが同化してい

自分の得意魔法がかき消されるのだ、 メテリアは、 やっぱり.....」とその現象を見て微かに歯軋り。 悔しさも半端ではない。

つ.....良いね、 でも俺には敵わない。

を作ると、 ラートも一瞬辛そうな顔をするがそれはすぐに消え、 弾丸を撃つように上げた。 右手で銃の形

たそれがメテリアに襲い掛かる。 其処からは、 黄色い球体。 あのエリヴァン= シャルロッテを倒し

堪えるように立つ。 メテリアはというと、 こちらも動かなかった。 そのままの姿勢で、

そして、その球体がトンッとメテリアに当たった。 瞬間。

· ぐあぁっ!?」

るような痛みが体の奥へと突き抜けたのだ。 メテリアが思わず呻く。 その球体に当たっ た瞬間、 皮膚から燃え

敵するその熱さ。 《焔波》 1つ分どころではない、 フレアの上位魔法、 《龍畑》 に匹

しかし、 の助言に感謝していた。 その痛みに関わらずメテリアは立っていた。 そして、 あ

(アルト君の、言ったとおりだ) …と。

法ではなく、 メテリアは痛みに堪え、魔法陣を3つ展開させる。 攻撃魔法だ。 中身は回復魔

「《雷波》!! 《焔波》!! 《葉刃》!!」

ぞれ溢れる。 3連発。 からは先ほどの炎が、 左の魔法陣からはバチバチと小さく放電する雷が、 右からはいかにも鋭そうな大量の葉が、 それ

途中炎が葉を「食い」、より強大な炎へと変化していた。 メテリアが右手を振ると、それらはラートに向かって飛んで行き、

ラートはあることを思いながらもそれに人差し指を向け、 を展開していた。 て消し去る。 しかし、 ラートが顔を歪ませた時には、 指先に、ジンジンと痛みが。 メテリアはもう次の魔法陣 一瞬にし

、《天からの贈り物》っ!!」

メテリアが詠唱したのは1つの呪文。 だが、 空からは3つ、 別々

これは、 魔法で言う《雷波》、《水槍》、の物がラートに向け降ってくる。 メテリア曰く《三位一体》。れは、メテリアが考え出した3つの詠唱を1 《氷岩》 が、 つに纏める詠唱方法。 つの呪文で。

そして、 射できず、 それらは狂いも無くラー やむを得ず魔法の対策に回った。 トに襲い掛かる。 あの球体を発

「ぐう で若干震える。 Ļ ラー トが呻く。 人差し指は、 冷たさや痺れ

そして、やっと球体を発射できると思った頃には、 を既に構えていた。 メテリアは右腕

、...... 開放する余裕が無い.....ッ!?)

に入る。 ラートがそう思った頃には、 メテリアは詠唱を終わらせ、 発射準備

炎はラートに向けて遡る。 思えばこれも《三位一体》 いラート。 なんだろうか。 またも、 魔法の対処に指を回すしかな 3つ同時に繰り出される

ちくしょ.....ガアアアアアアア!!!??」

巨大な炎に指を触れさせれば消える。 先ほどの《焔波》 変わったのはラー 3連発とはまったく違う、 トの反応だ。 それは変わらないが、 苦しい表情のラー

そして、確信した顔のメテリア。

敵への到達が最速を誇るそれ。メテリアは右手を突き出し、唱える。 メテリアが覚えるもので、

普段は威力が小さすぎて使わないが、 ったようだ。 唱える。 今この場では、 それが役に立

・《風針》っ!!

何時もの癖で人差し指を前に出してしまうラート。 風を纏った一本の針は、それこそ風の速度でラート へと飛んで行き、

何百回も、もしくは何千回も指先を前に出して魔法を吸収している

ラートだからこその、

ミスだった。

のはほぼ同時だった。 しまっ ... そうラートが思ったのと、 針が指に触れる

いうか。 ろんそれは、 それは先ほどまで受けていたメテリアの魔法そのものであり、 ラートの指先から体にかけて灼熱というか、 なんともいえない感覚が遡る。 1つ1つが高い威力を持つものだった。 電撃と言うか、 氷冷と もち

失っていた。 まともな着地ができず、 ら出て、 がっ ひとりでにラー 仰向けに倒れるラート。 トの体が後ろへ飛ぶ。 ・そんなうめき声に似た声がラートの口か 彼はもう意識を

アルト視点

「.....決まったな」

必 それがそういうのが早いか、 観客席も大分ざわついているようだ。 エイナは立ち上がって興奮したように

すげぇ! Aクラス相手に勝っちまったよミリアの野郎!」

耳を捨ててしまったようだ。 「おいおい、 落ち着けって・ と俺は言うが、エイナは聞く

メテリアにはゆっくり休ませてやりたいんだが..... こりゃメテリアが帰ってきて十数分はこのままだな。 ま

ミリアアアア すげえじゃねえか、 勝っちまうなんてよ!」

ないか。 言ったそばから。 メテリアの状態考えてみ.....と言いそうになったが、 帰ってきたメテリアに抱きつくエイナ。 まぁ、 止まら 今の

まぁ、 んなぁ まぁ、《焔波》3発分一気に喰らって、そして魔力を大量消費だもメテリアは足取りがふらふらしているものの、まだ元気そうだったそりゃ脚がふらつくよな。 まだ元気そうだった。

あ、 ア、 ありがとう。 アルト君.....」 アレのおかげで、 Ļ メテリアが話しかけてきた。 勝てたから.....」 なんだ?

あぁ、 良い機会だ、 ア レ ね。 俺の作戦を教えることにした。 エイナが「何だ?」 と 聞 い てくるので、 ちょうど

吸収していると見た。 俺は、 あのラー トとか言うヤツが魔法を消しているのではな

先に吸い込まれる感じに見えたからな。 何かラートとエリヴァンの戦いで、 あ の消える感じがどうしても指

それで、 ろうな。 その吸収した魔力はどこへ行くのか。 多分、 あの球体だ

する。 ロールしている。 人間が魔力を許容値より多く得ると、 だから、 人間は無意識に出る魔力と生み出す魔力をコント ...ってのは学園の授業で習った。 その魔力に耐えられずに暴発

だからラートはあの球体に魔力を込めることで体内の と受けたダメージが同じだったのは、 ントロールし、 ついでにそれを攻撃に利用していた。 そのためだ。 魔力の量をコ 撃った魔法

暇を失くし、 俺はそのことから考えた。 魔法を次々に受けさせれば勝手に自滅するのではない それなら、 ラー トに球体を発射させる

な 最初にわざとメテリアに球体を受けさせたのは、 力をそれに転化させているというのを確認させるためだ。 メテリア。 ラー トが受けた魔 ごめん

間のことだな) そして、 3つ同時展開、 暴発を待つだけ。 マジッ がほぼり。 クラグ (魔法陣展開から魔法が出るまでの時 の作戦にピッ タリだ。

そしてアイツは魔法を受け続け、 でに喰らった魔法の全ダメージを1回で受けて、気絶したわけだな 最後でボン!だ。 アイツは今ま

俺がメテリアに耳打ちしたのは「1回《焔波》 れずに魔法を叩き込め」 い球体を受けてくれ、それがフレアのダメージと同じなら、間髪入 で様子見して、 黄色

そして、 てか、 「勿論これは俺が勝手に考えた作戦だから、 ヤバイと思ったら無視してくれ」 ځ 無視して良い。

も ありがとう...アルト君が考えてくれなかったら、 私 負けてたか

そこまで言われる覚えはないんだけどな.....でも、素直に受け取っ ておこう。

· 質問」 アリスが手を上げた。なんだろう。

O....? それなら、 格闘のヨハンを出したほうが、 良かったんじゃ

でも。 なんて分からなかったけど、 :: ふ む 確かに。 まだ選手決めの段階では魔法だけを吸い取る ソッチのほうが良かったかもな。

ってるわけだからね の言いたかったことを.....。 それは個人戦の話だと僕は思う。 ... そうだろう?」 ヨハンが言う。 なんせ、まだ4試合も残

それに続けて言った。 出来るだけ有利になるような決め方をしてるからな」 「...... あぁ、個人的には、 Aクラスのコイツには誰々っていう風に、 俺は、

たようだ。 「理由が.....あるなら.....良いけど」 ん、アリスも分かってくれ

さて、ともかく1勝はした。 後2勝で、優勝だ。

Aクラス 1番手終了 0 -勝者、 Gクラス Gクラス ミリア・メテリア。

第21話:アルトは、 XCMに出場した。 (5) (後書き)

って ヨライ「何で送り出す時に嘘ついたん? 「メテリアしか勝てない」

からな」 アルト「 嘘っていうか、 勝てる確率が高かったのがメテリアだった

ヨライ「じゃあそう言えば良かったじゃん」

アルト「ソッチの方が気分乗るかなーって」

ヨライ 待ちしております!」 コイツ..... まぁそれはともかく、 感想・アドバイスお

第22話:アルトは、 XCMに出場した。 (6) (前書き)

2日ぶりの夜来です。

今日は少々 gdリ気味。 日が空いたからね。 (言い訳)

第22話:アルトは、 XCMに出場した。 6

ヨライ視点

XCM決勝戦。

リア。 1番手は、 Aクラス:テミニル・ラート対Gクラス:ミリア・メテ

ラ】...【魔術特化】を駆使し、1勝をもぎ取った。ラートの【魔法を吸収するチカラ】に対し、メテリアはその 【チカ

さて、次は2番手である。 から出てきたのは..... 先に選手を出すAクラス。 控え場所

の男子だった。 2回戦で、 Bクラスの男子生徒をフルボッコにして勝利した、 青髪

アルト視点

....む、アイツか。

だよな.....」 あいつがなんか言った後に、 あの茶髪の動きが遅くなったん

あそこまで遅くするには、恐らく5~6回掛けなければいけないか カラ】なわけか。 エイナが言う。 そもそも、 あの青髪が魔法を掛けている様子は無かった。 《減速》の魔法はあそこまで遅くならないし。 とまぁ、 つまりは相手の動きを遅くする【チ

.....ヨh「それじゃ、僕が行くよ」

:

.. そうだな、 ヨハンが1番適正だと俺も思う」

いよな。 出鼻くじかれたが、 まぁ いか。 自身に意思があるなら、 尚更良

「それじゃ、 行って来る」 とヨハンは言って、 闘技場へと出て行

何より、 いのがこの世界なのは、今まででよく分かっている。少しだけフラグになれば良いと思う俺がいるが、 Aクラスに勝ちたいのだ。 それは、 譲れない。 そうも行かな

ヨライ視点

決勝2番手は、 ント=ヨハンの対決となった。 Aクラス:アグス=レイアン対、 Gクラス:ザリア

2番手、 始めッ の声とともに、 動いたのはヨハンだ。

だ。 ルにまで上げるチカラ】で、 .. 元々ヨハンは、 アカラ】で、瞬間移動し、相ト・速攻で相手を倒すスタイル。 相手を蹴りで仕留めるの 【脚力を超人レベ

が。 なので、 今回も素早く相手を倒そうと思ったヨハンだった. のだ

「グッ……そんなんでは倒せないよ~」

「......くそ、ふざけやがって.....」

で終わる。 ヨハンの回 し蹴りは、 一旦距離を取り、直ぐに攻撃に移るヨハン。 体を後ろにずらしたレイアンの腹に掠るのみ

ジも少しだ。 どうやら青髪は、 は当たっているが、 避けることにも特化してい その殆どがクリーンヒットには程遠く、 るらし 当たるに ダメー

それに対しレイアンは、僅かに体を傾けたり、 は脚力と筋力に比例し、 ンヒットを悉くかわしている。 ヨハンがその卓越した脚力で瞬時に近づき、 - ンヒットすれば数m吹っ飛ばせるレベルだ。 筋力を脚力でカバーしているにしてもクリ 直蹴りを放つ。 動かすことでクリー 威力

その華麗かつ正確な動き。 ヨハンは、 次第に体力を削られていっ

あるが、 すぐに体を起こし、 その攻防が数分続き、 レイアンは、時々バランスを崩したかの様に地面に手を付ける。 体力は確実に減っている。 ヨハンの蹴りを避け続ける。 ヨハンはまだまだ素早い動きが出来るようで

「くそっ.....」

どちらも、

他人の目から見れば疲れているのは明らかだ。

そんなんで終わりなのか~? やっぱりGクラスだね

ける。 右足で前蹴り、それから1秒も経たず、 そして右足で下段の横蹴り。 ヨハンは一寸息をつき、 再び「クソっ」と呟き、 それを茶化すかのようにレイアンが声を掛 、左足で上段の回し蹴り。蹴りを再開させるヨハン。

横蹴りは、 そんな連続技にも、 傷をつける程度に終わった。 ヨハンが「回し蹴りをしゃがんで避けるだろう」と思い放っ を僅かに逸らし、 前蹴りを右に体をずらして避け、避けた方向から来る左足は上半身 レイアンのアクロバティックなバク転でブレザー 掠りながらもスレスレで避ける。 レイアンは冷静に対応していく。 た下段 に掠り

焦り、 イラつき、 ヨハンをこの2つが苦しめる。

庹 はまだ決着がついていないからなのだが、 対し、Gクラスのエリアは一瞬ワッと沸いた。 レイアンはバク転で距離を取った後、 Aクラスがひしめくエリアが、どよめく。 ガクッと膝を突いた。 それはともかく。 直ぐに収まっ たの 観客

だが。

その疲れた体を奮い立たせ、 歓喜したのはヨハンも同じである。 近づくヨハン。 【チカラ】 そう、 を発動。 相手は疲弊してい 未だ膝を突

チャ この時、 たヨハンに、 ゃ ンスはあったのかもしれない。 疲れで思考が「相手を倒す」 ヨハンが相手の【チカラ】 それは過酷だったのかもしれない。 事しか考えることが出来なかっ を冷静に分析していれば、 まだ

そして、 がつかなかった。 ヨハンがレイアンに止めの回し蹴りを放つ際、 ヨハンは気

レイアンが微かに笑っている事。 そして口元で呟いていたことに。

お・馬・鹿・さ・ん

かに押さえつけられるかのようにヨハンの蹴りの速度が遅くなる。 レイアンの頭部まで後数cmというところだった。 いきなり、 何

それを認識するのに、ヨハンは少しの時間を必要とした。

それをレイアンが見逃すはずも無い。 常人より遅いその脚。 避

ける必要も無い。

の腹部に向け前蹴りを放った。 いつの間にか立ち上がっていたレイアンは、 拳でのストレー その脚ではなくヨハン トと同じ。 威力

は 絶大。

ることもできない。 蹴りが遅くなったという現象、そして蹴りの速度が加わって、 避け

ずも無かった。 いや、レイアンの【チカラ】上、直ぐに避けることなど、 できるは

ゴッ

ヨハンは元々、 身軽なほうだ。 その体は、 いとも容易く宙を2m

ほど舞い、倒れこむ。 距離を取ったレイアン。

痛みで認識した。 何が起きたか、ヨハンはこのときに、 その腹に来るズキズキとした

イアンは演技をしたのだ。 こちらにおびき寄せるために。

アッ

ハッハ!!

見事に騙されてやんの~。

あし

おっかしぃ

ことにも、 ヨハンを指差し、 レイアンは抜きん出ていた。 笑う。 その姿は、 まさに悪魔。 相手を嵌める

があぁぁぁぁぁぁ

び出した。 そんな声を発して飛び出すヨハン。 しかし、まだ余力はあったらしい。 イアンを睨みつける。 「お?」といった感じのレイアン。 今度こそ、 ヨハンは立ち上がり、 決めるつもりで飛 笑うレ

だが、 レイアンは最後まで笑う。

よりも遅いその動きに、 ヨハンの動きは其処で遅くなる。 レイアンは笑うことすらやめる。 先程よりは早い。 だが、

それじゃ、 1から出直して来な~」

ガンッ、 結界を張るチカラ】を破ることが出来ず、 そんな気の抜けた声とともに、 ンも決めに入ったらしく、 と脳を揺さぶられ、 狙いは頭部のようだ。 レイアンの ヨハンの左から脚が迫る。 【チカラ】 ヨハンの意識は刈り取ら である【超鈍化 レイア

......観客席のAクラスから、歓声が沸いた。

体が地に突いた。

アルト視点

チカラ】.....。今更分かったところでどうしようもないか。 アイツの

たなんて.....」 あの膝を突いた時は流石に勝ったと思ったけど.....演技だっ

がら言う。 メテリアが、 意識を失い運ばれてきたヨハンを心配そうに見つめな

あいつが張った結界に誘い込ませるためだったか.....」

クソッ、 回戦でも度々地面に手を突いてた。 早めに気付いてりゃ良かっ た。 思えばアイツは、 2

たのか。 アレは避けに疲れていたわけじゃなく、 結界を形作る点を置い てい

が多ければ多いほど、面積が狭ければ狭いほど結界の力は強くなる 点を結び、結界を作る。 んだろうな。 多分、 いやテンプレだが.....置く点

たんだろう。 ヨハンは多く蹴りを繰り出してたし、 その分、置ける点の数も増え

..... まだ1敗だ。 ヨハンは頑張った。 次は俺達だぞ!」

そう、 俺とエイナ、そしてアリス。 自らに言い聞かせるように、皆に話す。 必ず、勝たなければ。

2番手終了 Aクラス 1 勝者、 -1 Gクラス Aクラス アグス= レイアン。

第22話:アルトは、XCMに出場した。 (6)(後書き)

感想・アドバイスお待ちしております。

追記:一部修正しました。基本的に、「着いた」を「突いた」にし

たのと、

ヨハンが蹴りで吹っ飛んだ距離を長くしたことですかね。

第23話:アルトは、XCMに出場した。 (7) (前書き)

wdった。 やばいほどwdった。

目が毒されたかな、ゴシゴシ。 っていうか100万PV.....?

第23話:アルトは、 XCMに出場した。

ヨライ視点

XCM決勝戦。 試合は、 2番手まで終わっている。

ァ 1番手は 【魔術特化】で魔法を強化するGクラスのミリア・メテリスペシャライズ・マジック【魔法を吸収するチカラ】を持つAクラスのテミニル・ラ

抜き、 メテリアは、 その豊富な魔法力でラートを破った。 アルトの助言もあってラー トの 【チカラ】 の弱点を見

こと」 かり、 使い、 勝負は、 のアグス=レイアンと、 2番手は、 速攻で相手を蹴り倒すGクラスのザリアント= ヨハン。 敗北。 しか考えられなくなったヨハンがまんまとレイアンの罠にか 攻撃を避け続けるレイアンに対し、 【超鈍化結界を張るチカラ】で相手を殴り倒すAクラス 【脚力を超人レベルまで上げるチカラ】を 焦りから「相手を倒す

これで勝負は1・1の同点。

送り出してきたのは.....。 次は3番手対決だ。 先に選手を出すAクラスが闘技場へと

サスティー 2回戦では出場しなかっ フではない。 た相手。 しかし、 学年最高位のダント

そう、 子だった。 金髪に赤のメッシュを入れた短い髪に、 唯一今まで顔を見せず、1番読みにくい相手。 ザーを着崩した.. その姿は、

アルト視点

けず嫌いは除けて、.....っと、アレは、 な。 2回戦で出て来なかった残りの1人だな。 負#

そして、Aクラスのもう1人は大剣持ちの白髪女子...えーっと、 さて、こちらの残りは俺、 スニルとか言ったか。 のは最後だとして、俺が出るのも最後だな。展開的に。 エイナ、アリスだ。 負けず嫌いが出る IJ

アリスと当たらせたら、 . アイツは、何となくエイナと当たらせて見たいよな..... 地面砕かれたりしてゴリ押しで負けそうだ。

Ļ なると..... あのメッシュ女子と当たるのは.....

...私?」

決定かな。 冗談はこの辺にしておいて、 俺が言う前に、アリスが言う。 そうなりますね そういう理由があるからアリスに (泣)

そういう風になるな。 あと、 俺の思考読んだりした?」

何のこと?それじゃ、行ってくる......」

も現れたら、それはそれで厄介だな。 ナシズ爺やサナブ婆と同じように、 俺の思考を読むヤツが3人

アリスが本当に知らないことを祈りつつ、 俺達はアリスを送り出し

ヨライ視点

「アンタね、私の相手は」

ラスのメッシュ女子。名前はフィンル・エレンス。 アリスが闘技場に姿を表すなり、 自信満々といった表情で言うAク

「.....そうだけど」

なんだからさぁ!」 くっらいなぁ もっと明るく行こうぜ! せっかくの試合

自分が暗いのは自覚してるアリス。 で毒づきながら、 開始位置に立った。 お前は明るすぎだろと心の中

それでは始めます!る番手、始めッ!」

の絶叫とも言える開始宣言。 先に動いたのは、 アリスだ。

「......【発動】.

スを中心にして円状に密林が広がる。 両手を突き出してそう言うと、1回戦、 アリスの【チカラ】、 【密林を支配するチカラ】こと【密林地獄】。 2回戦と同じように、 アリ

場を覆っていた。 大小様々な木、草、 そして土。 アリスの準備は完了。 確かに密林といえる場所が、 闘技

11 対し、 むしろ エレンスは動かない。 しかし、 怖がっている様子はな

ほー、 すっごいじゃ ジャングルだジャングル!」

手を大きく振り、本当に楽しがっているようだ。 珍しがって、 たアリスは、小さくハァとため息を吐いた。 普通でも高いテンションがさらに上がっているようだ。 小さくそれを見

だが、これは試合だ。 負けられない戦い。 アリスは、 すっと右

手を引き、少しの間を開けてから再び突き出した。

そうすると、エレンスに向かって、バシュンッ!と鋭い蔦..... 槍蔦

と言うべきだろうか.....が飛ぶ。

当たると確実にダメージを受けるのは明白のはず。 エレンスは、動かない。 勿論、怖がっている訳ではないが、 蔦に

それなのにどうして動かないのか、というと。

!? あつぐ....?

ていられない。 るように痛い。 エレンスではなくアリスが苦しみだす。 思わず左手で右手を押さえた。 突き出した右腕が、 まともに前を見 灼け

されたか.....。 はないのだ。 もう、手首から先の感覚はない。 しかし、 そんな感覚ではない。 つまり、千切られたか切り落と 切られた感覚で

: 反射的に蔦を引く。 戻ってきた蔦を見ると、 先端がドロドロに溶

けていた。

その蔦の操作をやめ、 アリスは目を疑った。 段々と戻ってきた手の感覚。 前を見ると、

あははっ! どうしたの、 ほら、 かかってきなさいよっ

を立てている。 よく見ると、 わき腹がなかった。 その声は変わらずエレンスの物だ。 わき腹があった場所ではその断面がジュウジュウと音 文字通り、ごっそり抜け落ちたかのように。 だが、そのエレンスには左の

の考えはエレンスの声で断ち切られた。 アリスが、エレンスの【チカラ】を正に見破ろうとした瞬間。 そ

行かないなら私から行くよッ!」

ゾッとした悪寒が走り、ほぼ無意識に今度は大木を操って木の槌と 槌が当たる。 して振るう。 ただ、 其処に響くのは だが、人を殴ったような感覚は無いし、 エレンスはまたも避けようとしない。 鈍い音もし

あぁぁぁがぁぁつ..... !!

声を上げた。 突き出す左手から灼ける痛み。 今度こそ、 アリスは大きな呻き

エレンスはと言えば、その木の槌がある場所から居なくなっ 大木は、表面が溶けてまるでマグマのようになっている。 てい た。

強大な熱量を持つ見えないマグマの塊が、 いるが、 そして、 それはアリスのほうにゆっくりと、 地面の土も大木の表面のようにジュウジュウと音を立て 地面を這っているかのよ 確実に迫ってきていた。

もう、 かにだが.....その予想は当たっている。 アリスには分かっていた。 エレンスの【チカラ】。 大ま

弱点までは分からなかった。 しかし、それがアリスの希望になっ

た。

肢全ての力を込めた、 眼の前にまで迫った「 それ」に、 4つの大木を「それ」 アリスは一縷の望みをかけて、 に向かわせた。 兀

ダガァ ンツ と轟音がし、 其処には4つの巨木が突き刺さっていた。

・・・・・そして、 たアリスのほうだった。 倒れたのは四肢全てに激痛が生じ、 ショックで気絶し

ゆっ ンスの姿へと変わり、 くりと控え場所へ帰還していった。 .. ぶくぶくとあわ立つ液体は瞬く間にブレザーを来たエ 一瞬にして消えてい く密林に背を向けて、

アルト視点

..... チッ

は相性が悪いからだ。 俺は舌打ちした。 何故かって、 あのメッシュ女子とアリスとで

か蔦が溶けたりしたところで分かった。 【自身を強酸に変えるチカラ】 ブクブク泡立ったり、 大木と

アイツに勝てそうなの.....ミリアとアルトだけじゃねぇか」

ごほっ さすが..... Aクラスだね.....」

エイナが、 もはや諦めとも取れる発言。 それに乗じて、 段々と回

復してきたらしいヨハンが言う。

とかありえるな.....」 アレは王水か.....? もしそうじゃなくとも、 濃硫酸とか濃硝酸

だ。 酸性の液体。 ... 王水。 濃硫酸でも溶けない金やプラチナを溶かす、超強力な 人間の皮膚など、 瞬く間に溶かしつくす危険なモノ

なんだそりゃ?」

「.....いや、なんでもない」

多分、 のほかだろう。 この世界では硫酸やら硝酸やらは無い。 王水なんてもって

名をエイナは知らなかったらしいが。 ここではあぁいう酸のことを別の呼び名というらしい。 らも強酸と呼ぶが。 メンドクサイからこれか (その呼び

負けず嫌いと白髪の女子、大剣使い。俺はこの時、少しだけゾッとした。 残りは俺とエイナ、あちらは

Aクラスとは、「こういうもの」なのかと実感した俺だった。

Aクラス 2・1 Gクラス

3番手終了。

勝者、

Aクラス

フィンル・エレンス

ありがとうございます!×100程。

これからも精進していきますので、よろしくお願いします!

第24話:アルトは、 XCMに出場した。 8

ヨライ視点

XCMt, いよいよ終盤だ。 早くて後1戦。 遅くても後2戦。

て、優勝へとリーチをかけた。 決勝は3番手までが終わり、 2 1 でAクラスが1歩リー そし

Gクラスのミリア・メテリアがその魔法でAクラス、 テミ

ニル・ラー

点^ブア グ スョ レイアンが、 【超鈍化結界を張るチカラ】と罠を最大限使ったAクラス、 トを破り、Gクラスがまず1勝。 Gクラスのザリアント= ヨハンを圧倒して同

3番手、 ル・エレンスが、 ンスが、【密林地獄】のアリス・ローマイに勝った。^イル・シャンクル、^ル・シャンクルの【自身を強酸に変えるチカラ】を持ったフィ

試合は4番手対決。

が闘技場へと出て来た。 A クラスからは、 大剣を持った白髪の女子、 ウェスレイ・ リスニル

それに対し、Gクラスの控え場所から出てきたのは、やはりという 今まさに大剣を召喚し、 ユーグリッドだった。 【金剛剣士】の二つ名を持つ赤金色の髪を持った女子生徒。 ブンブン振り回しながら出て来た、 エイナ

アルト視点

ちがリードか。

あの強酸女子が出てきたところでやばいとは思ってたが..

.. 予測通りになったか。

次は勿論俺だな。 だろ? アルト」

Ę ちが白髪女子出してきたら、こちらもエイナを出そうかと思ってた もう何も言うまい。 俺が考え込んでいる時に立ち上がったのはエイナだ。 どうせあっちも白髪の女子だし。 あっ

今回はガチで負けられない。 あぁ、 そうなるな 頑張れよ」

..... 任せろ」

エイナはそう言って、急に目つきを変えた。 戦闘の目だ。

女剣士としての、それ。

俺は、 気迫に賭けたかったし、 他の3人とともにエイナを闘技場へと見送った。 賭けざるを得なかった。 エイナの

ヨライ視点

さぁ ユーグリッド! A クラスからはウェスレイ・ XCM決勝戦も、 女性剣士対決です!」 ついに4番手となってまいりました!」 リスニル! Gクラスからはエイナ

それでは4番手、 始めッ

相手へと駆ける。 リスニルは片手で軽々と、 トーがそう叫ぶとともに、そして先に剣を振ったのは、 エイナは両手でそれぞれの大剣を持ち、 両者は同時に駆け出した。 リスニル。

「《波立つ大地》!」

そう詠唱し、エイナから少し離れたところで剣を下へと振り下ろす。 しかしその瞬間、その剣を起点に突然 勿論エイナには当たらず、大剣はガッ!と地面に突き刺さっ 指向性なのか、それは一直線にエイナへと向かう。 ドバンッ!と衝撃波が発生

を扱えるチカラ】。 .. ウェスレイ・リスニルの【チカラ】 は 【『クラッカー』

あり、所謂「魔剣」というものだった。 『クラッカー』とは、まさしく今、彼女が持っている大剣のことで

技を繰り出せるのだ。 魔神の魂が宿っており、 『クラッカー』には、 かつて「地の王」と呼ばれた魔人..... 魔力を剣に「食わせる」ことで、 高威力の

ないのだが、それ以上に剣の存在は大きい。 魔力は常時食われており、そのせいかリスニルは魔法を上手く扱え

気にならない程度であり、 勿論彼女にとっては、【チカラ】である『クラッカー』 最早体の一部と言って良い物だった。 の重さなど

実質『クラッカー 今しがたリスニルが出した《波立つ大地》 ニルは出せない。 6 に魔力を食わせて発動させる種の技しか、 もこの技の一種であり、

「はっ、舐めんなよ!」

だが、 衝撃波を避けつつリスニルへと向かう。 一直線で動きが読みやすかったのか、 エイナは右へステップ、

た。 「喰らえッ!」 とばかりに、 リスニルに向けて斜めに振り下ろし

手で持っているエイナのほうが、優勢のようだ。 リスニルは、 それを片手で受け止め、 鍔迫り合いに持ち込む。 両

「ちっ、その左手は使わないのか?」

だ。 「両手で持ちながら、 エイナ゠ユーグリッド」 片手に直ぐ勝てないとは.....拳はこう使うの

表情をしていない。 落ち着き払った声で、 そう告げるリスニル。 無表情だ。 顔も、あまり焦った

りにエイナの腹目掛けて飛んだ。 エイナが「何?」という前に、リスニルの左手が握られ、 言うなれば、 ボディーブロー。

両手で持つエイナにとっては、 てしまった。 防ぐのは困難だ。 だから、 当たっ

ħ 瞬の隙が出来る。 アグァッ 拳によってエイナは少しよろけながら離 見逃すほど、 リスニルは甘くなかっ た。

それを、 もう一度、 物が金属に当たる、 咄嗟に大剣を盾にして防ぐエイナ。 《波立つ大地》 鈍い音がした。 を繰り出し、 衝撃波がエイナに迫っ バンッ!と、 重た

ほお、 鋼鉄をも引き裂く私の 《波立つ大地》を受け止めるとはな」

残念だっ たな。 そんなんじゃ 俺の剣は壊せねぇよ

撃波を受け止めたエイナの剣には傷1つついていない。 リスニルの口が、 にやりと笑うエイナ。 僅かに歪んだ。 リスニルが言ったことは本当な 衝

.....《硬化》魔法か」

違うな、 っと硬いんだよ。 俺の【チカラ】 さぁてと、 だ。 : : 今 次はこっちの番だぜっ!」 俺の剣は鋼鉄より ず

相手に向かって切り下げ、 斜めに振れば斜めで。 リスニルも、 言った途端にエイナは駆け、 エイナの大剣を捌いていく。 1つ1つの斬撃が重く、1つでも直撃すれば重大なダメージになる。 細かく『クラッ 切り上げ、横に薙ぎ、また逆に薙ぐ. カー』の向きを変えながら、一撃ずつ リスニルに向けて連撃に走る。 縦に振れば横で、横に振れば縦で、

そして攻撃も忘れていないリスニルは、 に剣撃を入れていく。 隙を見つけてはその小さな

キンッ ıΣ 観客の全員が、 つの間にか、 ガキィンッ! その剣技の華麗さに言葉を失ってい 歓声は止んでい といった、 た。 鋭い金属音が闘技場に響き渡 るかのようだ。

「......ぐつ.....」

だが、 そして、段々と血も染み出てきたようだ。 ルのブレザーに傷が1つ、また1つと増えていく。 エイナの気迫がリスニルの剣技に勝ったのか、 段々とリスニ

それはエイナも同じで、 段々切り傷が増えてゆく。

ここで、 が告げていた。 さなければ、負けてしまうと。 少しリスニルは焦った。 剣士の勘という奴だろうか、 ここで状況を上手くひっくり返 それ

振り上げながら、 そして、エイナに隙が出来た瞬間にリスニルは動く。 後退したのだ。 大きく剣を

どうした、ビビッたか?」 というエイナの声と

時だった。 《天高く突き上げる大地》 <u>!</u> というリスニルの詠唱はほぼ同

出てきた感じだ。 剣を突き刺し、それを起点にズダダダダダッ!と大きな土の槍が地 中から天に向かって次々と突き上がった。 巨大な棘が次々と突き

それは、 たが、 それはエイナではなく、 エイナに向かってやってくる模様だ。 剣の方に向かう。 構えたエイナだっ

直ではなく..... ダアンーと、 エイナの少し手前で突き上がっ 一直線に、 エイナの剣を狙った。 た槍は少し地面とは垂

エイナの剣は天高く舞い上がったのだ。 してしまうエイナ。 グッ ... 剣に直接槍をぶち当てられ、 思わず呻き、 手を離 先

ほどとは違う意味で僅かに歪んだリスニルの口元。 くるには、時間がかかるだろう。 アレが落ちて

僅かな時間だが、 ンタイマーだ..... それは敗北への時間を指し示すカウントダウ とばかりに。

瞬エイナから目を離し 剣を抜き、 を持っていた』 構え、 そして駆け出す。)..... 目線が戻るころには、 そして、 振 りかぶるために一 9 エイナは既に剣

アレは間違いなく、 先ほどまでエイナが持っていた剣であり、 自分

が突き飛ばした剣。

リスニルが何故だと思う前に.....相手が構えた。

はああああああああっ エイナが叫んだ。

ああああああああっ リスニルも、 咆哮した。

ガキィ 両手で目一杯振り抜いた2人。 ンッ と2つの大剣が交差し、 片方は片手で、 もう片方は

バタッ Ļ 闘技場の中で人が倒れる音がした。 闘技場内

にいるのは2人だけ。

なお振り抜いた体勢。 かし、 直ぐに体を戻し、 大剣を鞘にパチ

赤金の髪を持った女子生徒、エイナ= ユ

ーグリッドだった。

ンと収めたのは

アルト視点

なるほどな、 《伸長》 で剣を延ばして強引に柄を掴んだのか。

.....は、エイナらしいな。

俺がそう言って少し笑っていると、足音が。

`......勝ってきたぜ」

エイナが意気揚々と戻っ 出血もあるようだ。 てきたのだ。 体には、 やはり傷が目立つ。

あぁ、 よくやったな。 大丈夫なのか? 特に胸の大傷」

い た。 れはブレザーもシャツをも切り裂き、 どうやら、 最後の交差でリスニルの剣が当たっていたようだ。 皮膚を薄く、 だが長く斬って そ

だから、 血が出ているのは別としてエイナの皮膚が露出してい る形

となっている。こんなところで言うことではないのだが、

うん、 やっぱり、 ちょっとアブナイ感じに

レザー やシャ ツは回復魔術によって段々直ってい くだろうが.

でも今はやっぱりアブナイ.....。

ん ? こんなもんかすり傷だ。 痛くねえよ」

:. あぁ、 見ると、 それもそうだけど違う、 無表情ですね分かります。 ミリアとヨハンはシラーッとこちらを見る。 そっちじゃ なくてもっと別! 周りを アリスは...

健全な読者に言っておきたいが、俺は胸ばっか凝視してるわけじゃ ないからな? るなッ! 別に常にどこか見てるって訳でもない! 石を投げ

必ず勝ってこいよ。 何はともあれ、 2 2.....次勝てば優勝だな」 アルト」

けず嫌いをぶっ飛ばして、ここに笑顔で帰って来られるようにする。 投石が収まったところでエイナが言う。 それが目標。 そのつもりだ。 あの負

...... 勿論。 トップが何だ、勝ってくるよ」

俺は、其処で言い切った。

Gクラス全員の思いを受けて、 俺は闘技場へと歩き出す。

相手は、学年最高位、ダント・サスティーフ。

Aクラス 4番手終了。 2 - 2 勝者、 G クラス G クラス エイナ= ユーグリッド。

第24話:アルトは、XCMに出場した。 (8) (後書き)

さてと、テンプレどおりの展開ですね。

ŧ ゆっくりやって行こう。 感想でのアイデアでXCM後にやる事が多くなったな...。

第25話:アルトは、 XCMに出場した。 (9) (前書き)

お待たせしました! 考査期間を挟んで、お久しぶりの夜来です。 gd gd 感MAXの、 決勝キャプテン対決で

•

第25話:アルトは、 XCMに出場した。 9

アルト視点

おっと、メタが過ぎたな。 よな.....。 2 対 2 か。 やっぱり、こういう物語はキャプテン対決に必ずなる というわけで、 X C M クラ

ス対抗戦も、最終戦だ。

ス、1年最低位の俺、アルト゠シューバ。Aクラス、1年最高位のダント・サスティーフ。 アルト゠シューバ。 Gクラ

一番上と、一番下が、XCMの最後を飾るのだ。

.....いや、

勝てるだろうけどさ。

自分の事だけど、全く負ける要

問題はさ、終わった後だよな。 素無いし。 でも、ここまで来たからには勝ちたい。 スに勝つんだぜ?俺、あんま人に目立ちたくないし。 だって、GクラスがAクラ っていうか、 負けず嫌い

うーん、矛盾。

をボコボコにして教室に帰りたい。

必ず勝って来いよ!! 此処まで来たからにはな!」

りだけど.....。 エイナが言う。 あぁ、 まぁそのつもりだけどさ。 そのつも

告しよ?」 暗いよアルト君。 此処で勝って、 明るくGクラスの皆に報

明日から大変なことになりそうな.....。 .. メテリアが言う。 あぁ、気遣ってくれるのは嬉しいけどさ。

るんだ」 君のおかげで此処まで来れたんだ。 君に勝つ気が無くてどうす

...すっかり回復したヨハンが言う。 だけど、「 (自分の中では)決められた勝負」ってのがなぁ 勝つ気はあるに決まっ てる。

·..... (グッ)」

それマイブー ムなの?何も行って無いが親指を上にサムズアップするアリス。 え、

.....よし決めた。

明日からの事? このなんだか分からないモヤモヤは、 んな物もう知らない。 アイツにぶつけるとしよう。 明日は明日、 今は今だ。

よっし、勝ってくるぜ、皆」

明日の事なんざもう知らない。 軽くそう言って、 心の中でしつつ、 俺はダントが待つ闘技場へと向かった。モヤモヤを相手にぶつけるという理不尽な宣言を 軽く放り投げた形になったな、 俺。

ダント・サスティー フ!」 それでは、決勝戦5番手、 Aクラスからは、学年トップの実力を持つ、 最終戦を始めたいと思います 自他共に認める最強、

る Gクラスぐらいかな。 観客席、 上がっていないのは、 Aクラスのエリア始め、 2回戦でAクラスに負けたBクラスと 殆どのエリアから歓声が上が

Bクラスはアレか。 相当根に持ってるみたいだな、負けたこと。

を格闘術で破ってきたダークホース! 「対するGクラスからは、 1回戦・2回戦と並み居るキャプテン達 アルト゠シューバ!」

残りから歓声が沸く。 て本当に残り物だもんな.....。 いや、残りって表現しちゃ悪いけど、 だっ

絶対勝って帰るぜ。 でも、さっきの歓声に負けない大きい応援に、 させ、 必ず勝つけども。 俺も内心嬉しい。

Ţ 本当に勝ち上がってくるとはな.....恐れ入ったよ、アルト= シュ

とだ。 が無いだろう?」 「だけど、 Aクラスの私が、 此処で君は私に負ける。 Gクラスの、 シ、それも最低位に負けるはず......最初から決まっているこ

は全力だ」 「君はこのXCM、 身体能力の強化しか使えないみたいだが 私

゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ 精々勇気を振り絞っt「 あー ちょっと黙れ、 負けず

割り込んで言う。 いい加減グダグダとウザくなってきたので、 ちょっとキレ気味に、

そうしたら話を止めてくれた。 お 良い所もあるじゃ h

誰が負けず嫌いだ! だからー 私にはダント・サスティー フという名前

わけ」 なに負けたくねぇの? なに負けたくねぇの?(オマエは、そんなだから「負けず嫌い」な「たかが【チカラ】がちょっと下回ったぐらいでさぁ、何?(そん

ちょ あ、 ちょっと文法的におかしくなった気がするが、 ていう幻覚な。 っとだけ幻覚に掛かってもらったから大丈夫。 今の話は俺とダントにしか聞こえないように細工して、 まぁ良いや。 「対峙してるだ 皆には

サマ: 実力の差を思い知れよ・ ツ

幻覚解除っと。 そしたら、 小刻みに震えてやがる。 テンプレどおり見事にプッツンしてくださいました。 お見事なぐらいの震え具合だな。

さぁて、 決勝戦兼イライラ放出試合、 始めますか。

カア ン!と、 ゴングが鳴った。 試合開始だ。

「《聖召喚》!!、《聖剣》!、《聖龍》!」

やないな。 開始の合図とともに、 アイツの ダントは何か詠唱する。 【チカラ】か? 魔法の詠唱じ

子が集まり始めた。 それとともに、ダントの右手、そしてその前方にそれぞれ、 光の粒

完全にその形になった。 時間の経過とともにそれは何かの形をとり始め.....。 数秒経つと、

ち手。 ダントの右手には、 最高の剣といわれるソレ。 細い刀身に、 白く、 細やかに装飾された鍔や持

厳しく、 そして、 それでいて優しい目。 前方には西洋龍の形を取り、 ドラゴン類最強と謳われるソイツ。 白い鱗に覆われた美しい体と、

力 どちらからでも、 離れた場所からでも分かる、 圧倒的な聖属性の魔

エクスカリバー..... セイント・ドラゴン......」

てやるッ そうだ、 私は 【聖属性を操るチカラ】。 さぁ、 ケリをつけ

結構チー 何でも創り出せる..... みたいな感じか。 なるほどな、 トじゃねえか。 つまりアイツは「聖」と付いてれば何でも操れるし、 悔しがる意味が分からないよな。

まぁー、とりあえず。

普通なら結構面倒だな。 今ダントが作り出した2つは、 その道で最強といわれる2つ。

普通なら。

「さぁ、飛べ聖龍!! 《聖龍焔》!!

襲い掛かってくる。 系が《聖龍焔》だ。 メテリアの得意魔法《焔波》 そうダントが言うと、 焔波》の上位魔法、《龍焔》。 その歌そして口からは光の粒子が漏れ出した。 龍はコチラに向かって大きな翼を羽ばたかせ その聖属性

れた人しか使えない。 そういえば言ってなかったな。 \neg 聖」属性の魔法は、 一部の限ら

245

すらしいのだ。 その使える素質がある人でも、多くはその事を知らずに人生を過ご もったいない。

る物で、 聖属性の魔法は、 威力は桁違い。 他の属性の魔法を「聖」と呼ばれる粒子で再現す つまり、 ダントは結構凄い奴なのだ。

なるのは確実だな。 、やぁ、 近くで見ると絶景だな。 でも、 アレが当たると酷い

..... そろそろ潰そう。

そこ、 俺は、 親切にもダントにそう注意をした。 あぶねえぞ?逃げたほうが良いんじゃ ねえか?」

ダントはソレにまた激昂したようで..... まぁ良いや、

ほっとこう。

える」 俺は、 勿論、 脚力を強化、 脚力を「超」強化しているので、其処からは文字通り「消力を強化、半分クラウチングみたいな姿勢から駆け出す。 其処からは文字通り「消

龍は、 じようで。 いきなり俺が消えたことで混乱している模様。 ダントも同

後は分かるな? 龍の懐へと飛び込んだ俺は、 右手を一杯に引いた。

.....ぅうらあぁぁぁぁっ!!」

龍の腹に正拳突き。 もうすっかりおなじみになったな。

きない龍は、 その巨大な体ゆえ、 俺の拳をモロに喰らった。 いかに身体能力が優れていても避けることがで

茶強くした、筋力= 威力超強化と、見た目には分からないが反発力を滅茶苦 チートパンチを。

叫び声と、 グオオオオオオオオオオオ という龍の呻くような

は同時に聞こえ。 何い つ というダントの、 信じられないと言う感じの声

龍が、 ドゴオオオオオ ったのはソレより2秒ほど後だった。 闘技場の壁に掛かった防御魔術を突き破って大きな凹みを作 オオオオオオ Ļ 数 1 0 m吹っ飛ばされた

龍は、 闘技場が揺れた。 グッタリとしたまま動かなくなって、やがて元の光の粒子、 になり、消えた。 ソレこそ地震かと思うほどに。

..... 俺が言うのも何だが、 龍ってこんな易々と吹っ飛ぶ物だったっ

け?

ろうな。 聖龍が壁に衝突したときの衝撃は凄まじい物だった。 俺が居る闘技場 モクと上がり、 ている感じだ。 の左半分は綺麗だが、 一向に晴れる気配が無い。 多分、 凹んだ所の地面は、 右半分には土色の靄がかかっ 大きく削られてるんだ 土煙がモク

ぁ そういや負けず嫌いは?

俺がそう思っ その距離は2 の瞬間には、 たとき、ズバッ! ダントは聖剣を構えてコチラへと飛び掛っていた。 0 mほどだが.....。 といきなり靄が晴れる。

うお、 の軌跡の形をした白く大きな刃がコチラへと飛来する。「《聖双刃》!!」 とダントが詠唱。 ダントが剣 《聖双刃》!!」 中々に速いツ! ダントが剣を振ると、 そ

咄嗟に左に避ける。 一文字の大きな傷が入った。 俺の右横を刃が通り抜け、 当たったら風穴開くな、 後ろには地面に横 アレは。

そして、 まで気付かなかった。 一瞬後ろに気を取られた俺は、 前から来る第二陣に、 直前

うおっ!?」

避ける。 あੑ またもや咄嗟に、今度は体を反らして.....マトリッ 因みに.....この刃の速度、尋常じゃないからな? ……ダブル、 ね。 なるほど。 ス的な動きで 常人だった

5 多分上半身と下半身がおさらばしてる。

「く、クソ.....っ! クソがあぁぁぁぁぁ!!」

ないけど.....。 おーおー、 相当怒ってんな。 別に、 怒らせたりする行動はしてい

プライド高すぎだろ。 カルシウム取れよ....っと。

ダントが詠唱を終えると、 そういうことね。 - 聖装!!」 ..もう何度目かの「聖」属性魔法。 「聖」はダントの体を囲む。 あぁ、

· うおおおおおおぉぉぉ!!」

ント。 剣を振り、 ダントが叫び、 《聖刃》などなど出しなび、コチラへと駆ける。 などなど出しながら、 俺に切りかかってくるダ 本気になったか。

るだけ。 のだ。 ソレに対し俺は、 さな ソレをただただ脚力と反射神経を超強化し、 ふざけてる訳じゃない。 けっこう隙が無い 避け

ゕੑ 一方は剣を振り、 歓声は止んでいた。 もうー 方はソレを避け続ける。 つの間に

テップして避ける俺。 「オオオッ!」 ダントが大きく剣を横に振った。 後ろにス

だったみたいだ。 しかし、 力を強化してやっと分かったんだけれども。 なんか、 これはチャンスか? ダントは今まで小さな声で詠唱してるみたいだ。 と思った。 しかし、 レは間違い 聴

.....!

その場で剣を縦に構え、 短く唇を動かし、 長い長い詠唱を終えたダ

......《聖矢》ってやつか?何が来るのか.....と思ったら、 俺の頭上に何十本もの白銀の矢が。

剣が、 よく周りを見渡せば、周りは白銀で多い尽くされている。 左には爆弾っぽいものが、 前には槍が。 右には

終わりだアルト=シューバ!

《輝く世界》・シャイニング・ワールド

おお、 よな。 何時にも増して厨二。とか思ってる場合じゃないんだ

なぜか? 向かってきてるんだからに決まってるだろ。 そりや、 四方八方を白銀に囲まれ、 ソレが一斉に高速で

: うん、 まー あれだ。 此処はちょっと.....。

が爆発したのか、 ドオオオオオォオン 俺の居る場所は白銀の光に包まれた。 そこで、 ちょうど着弾した爆弾

ダント視点

八ア 八ア

やった、 やったぞ! あのアルト= シューバを倒した!

気付かなかったみたいだ。 自分が超大型呪文《輝く世界》 おかげで助かった。 を出そうとしていたのは、

白銀の「聖」達が向かっていった彼の居た場所は、 と上がり、 彼の姿は確認できない。 土煙がもうもう

だが、 倒したことは確実だろう。 今の彼では、 アレを突破できま

予測できた理由の1つだ。 ー】でだせる単一の「チカラ」しか出せないと私は推測した。 1回戦2回戦と、 彼の性格やあの【チカラ】の強大さから言って、彼は【クリエイタ 彼は身体能力の強化しか使ってこなかったことも、

ワアアアアアアツ! 今まで聴覚が麻痺していたみたいだ。 Ļ 大きな歓声が聞こえてきた。

5

《輝く世界》 の威力は、 他の魔法を軽く超えるからな。

奴だっ しかし、 た。 聖龍を体1つでなぎ倒すなど、この世の人間とは思えない

彼は、 た。 声援が聞こえる。 一体何者なのだ。 その疑問が浮かんだが、 直ぐに掻き消え

私は、 その時だ。 手を振ってその声援に答えようとした。 土煙が、 いきなり バッ ! と晴れたのは。

歓声が、 一斉に止む。 紛れも無い、 土煙が有った場所の中心に立っていたの アルト= シュー バだった。

5 言葉が出ない。 無傷なんだつ!? なぜだ、 何故アレほどの攻撃を受けていなが

ていた。 その一歩一歩は、 私がそう考えているうちに、 私を震え上がらせるのには十分な「何か」を持つ 彼は私の元へと歩み寄っ てくる。

私は、細かく震えながら彼に尋ねた。

「 貴様..... っ、 何者だっ!」

彼は答えた。 困惑しつつ、 言葉に迷ったような『笑顔』

 \neg 何者って聞かれてもな.....アルト= シュー バ位しか答えられない

さっきの種明かしは、また今度な。 それじゃ」

刹那、ドンッ! た」のかさえ分からなかった。 そう言う彼。 その右手は、 と腹への衝撃。 大きく振りかぶられていた。 私は、 一瞬「誰」 に 何をされ

再び、 薄れ行く意識の中。 の一発を加えられた」 今度は背中に大きな衝撃。 のだと認識した。 先程よりも大きいだろう歓声を聞いた。 其処で始めて、 彼 に 渾身

あぁ、 私の意識は、 私は『負けた』 闇へと堕ちていった。 のだな」と、 人生で初めての思いを感じつ

第25話:アルトは、XCMに出場した。 (9) (後書き)

日にちが開いちゃってマジゴメンなさい。ごめんなさいごめんなさ はい、マジゴメンなさい。 €€€ gd gdですごめんなさい。

次は、種明かしと表彰式です!

第26話:アルトは、XCMに出場した。 (10) (前書き)

ピッタリ10で終われた! 何これ感動!

そして皆さん、先に謝ります。

種が薄すぎて、 誠にすいませんでしたああああぁぁぁぁぁぁ

第26話:アルトは、 XCMに出場した。

アルト視点

ワアア ダントの腹に正拳突きをぶち込み、ワデァデァディーと、大きな勧力 アア つまりは。 ァ Ļ 大きな歓声が観客席から聞こえる。 ぶっ飛ばした後。 ダントは気

ああああああああああ Gクラス、 決まったあぁ この瞬間、 フの猛攻を耐え凌ぎ、 アルト= 勝ち数2 あああ シューバ あ 見事拳 3 で ... あ <u>.</u> 発! Gクラスの優勝が、 聖騎士》 ダント= 決定しました サスティ

少しだけ観客席に手を振って、 きあがる歓声。 大きく手を振るタチじゃないし。 のその叫ぶような声で、 俺達の優勝が告げられた。 俺は控え場所に戻った。 再び、 :.. まぁ、 沸

アルトオオオオオオオッ!!!!」

た。 控え場所に戻り、 最初に俺が聞いたのは、 そんなエイナの絶叫だっ

エイナは、 そう叫びながらコチラへと駆け寄ってくる。 全力

うに駆けるエイナに押し倒され.....有らぬ間違いが生まれそうだか ら言い直そう..... ウゴアァ!!」 押し潰され。 少なからず疲れていた俺は、 タックルのよ

だ治って..... ナに、エイナ。 られない。 やったな、 「 おੑ いせ、 おう アルト!」 お前は斬られた胸元<u>.</u> 直ってないのを覚えていないのかい?……見て などと俺の上から言葉を掛けるエ と曖昧な返事しか出来ないのだった。 (のブレザーとシャツ)がま 1

たくも送ってくれた。 他のメンバー3人は、 俺に白々した視線という名の贈り物をありが

.....どうしてこうなった。

.....そして、 けば良かったじゃんと思ったのは、 戦い終わったときに、 GクラスのHRに戻ってからだ 【クリエイター】で疲れ取っと

とう 「エクシル魔法学園、 君達Gクラスの栄誉を、 学園長。 此処に称えよう」 ファルモー ガイン... おめで

゙...... ありがとうございます」

ワアアアア ア 歓声が響く。 まんざら、 悪い気はしない。

勝 晴れ渡る青空の下、 した俺達、 2位のAクラス、 表彰式が始まった。 そして準決勝で敗れたBクラスとE表彰されるのは、 優

クラスだ。

勿論、俺達の表彰は1番最後。

を率いたエリヴァン=シャルロッテ。 最初はEクラスキャプテン、 マリン・ブルーミア。 そしてBクラス

準優勝の盾は、決勝4番手でエイナと斬りあったウェスレイ・ そうにしていた。 ニルが恭しそうに受け取った。 A クラスは、 負けず嫌いが代表して受け取ったおい、こっちを睨むな負けず嫌いよ。 のだが、 まだ結構痛

そして、 というわけだ。 Gクラス。 俺が代表して賞状を受け取って、 今に至る、

ガイン学園長の、 まぁ、 その何か画策しているかのような視線が気になる ソレは良いや。

置へと戻る。 賞状を受け取り、 優勝トロフィー はエイナが受け取って..... 元の位

そして、完全に俺達が戻り、 会場は一気に静まり返った。 結構若い) が「.....次に、 教頭 (..... この世界にも居るんだな。 学園長からお言葉を.....」 と言うと、

使っているだろう.....マイク要らずの、 呼ばれたガイン学園長はその場で1歩前に出て、 し始めた。 それでいて威厳ある声で話 《拡大》 の魔法を

勝しました」 人を揃えるAクラスを破り、 今年のクラス対抗戦も、 今年は、 ^ 聖騎士》のダント= サスティーフ始め、 アルト= 無事に終わることが出来ました シューバ率いるGクラスが優 強力な5

「此処50年ほど、 このGクラスの優勝は、 XCMはAクラスの優勝が続い 大変良いことと思います」 ていただけに

手を送りください。 皆さん、 優勝のGクラスを始め、以上で、 終わります」 参加した全ての選手に盛大な拍

年前何が起こったんだ。 起こった。 そう締めくくったガイン学園長が1歩下がると、 てか、 50年間Aクラスの優勝かよ。 三度大きな歓声が 逆に50

さて、もう割愛しても良い頃だろう。

これで、 教頭が締めくくった。 第142回クラス対抗戦、 XCM全行程を終了しま

終わった。 : : /v あし 疲れたな。 まったkrアルト= シューバ」

きをし、 呼ぶ声に反応し、振り向くと其処には……金髪の細マッチョな体つ 整った顔を持つ「負けず嫌い」 がそこに居た。 : : 何

た あの種をな」 さて、教えてもらおうか。 《輝く世界》 を無傷で潜り抜け

な あし っ て。 そういや言ったな、殴り飛ばす時に。 すっかり忘れてたぜ こっちを睨むな。 「種明かしは、 後で

域》を使って方1≒≒≒≒≒・ニニー早く帰りたいから簡潔に言うけどさ。- :.... 早く帰りたいから簡潔に言うけどさ。 を使って防いだだけ」 簡単だ。 **全サンク**サンク

すぐさま信じられないといった様子になる。 俺が簡潔に言うと、 ダントは一瞬「はっ?」 と言いたげな顔をして、

に使えるはずが..... 「馬鹿を言うな! 《聖域》 「..... 忘れたか? は聖属性防御魔法の最上位!! 【クリエイター】 をなめる お前

属性魔法には、 水属性魔法は雷属性魔法に弱い。 相性がある。 火属性魔法は水属性魔法に弱い

互いには相性が良く、その属性同士では相性が悪い。 しかし、例外がある。 聖属性魔法と、もう1つ..... 闇属性魔法は、

つだろ? ケモンで、 あーいう感じだ。 炎タイプの技は炎タイプのポケ ンに効果はいまひと

ろか、 同じ聖属性である(と勝手に思った)《輝く世界》 だから、 打ち消したわけだ。 俺は 【クリエイター】で聖属性防御魔法《聖域》を使い、 を軽減するどこ

ちなみに、この真実はダント他、 のヤツには、 それはそれですごいけど。 「気合で全部ぶっ飛ばした」とか言っておこうかな。 一部のヤツにしか教えない。

「グッ 込んだような顔をしてい 苦虫を噛み潰すだけでなく、 るダント。 そんなイライラすんなっ 潰した後飲み

て。

カルシウm

次は それまで覚えているんだな ...次こそはっ お前を倒すぞ、 アルト= シュー バ ! !

.....昭和の悪役かよ、お前.....

ダントは、 の皆ももう帰ってるだろうし。 そのまま闘技場から出て行った。 俺も行くか。 ……さて、 脚力強化!! G クラス

いやし。 5人とも良く頑張ったなー。 他のみんなも応援あり

GクラスのHR。ジェイ先生が話す。

たぞー」 「シューバは勿論凄かったがー、他の4人もものすごく格好良かっ

思うぞー」 イナは剣技とー.....。 「メテリアは魔法、 ヨハンは脚技、アリスは【密林地獄】に一、エ 勝ち負けあったがー、 良い試合をしてたと

うんうん。 くれたからGクラスが優勝できたと思う。 俺はどうでも良いとして、4人がものすごい頑張って

やっぱり、Gクラス最高だな。

それじゃー終わりだー。 何はともあれ、頑張った5人も応援した皆も、 明日明後日と休日だからー、 : : あ、 しっかり体を休めろよー」 アルトー。 今日はもう終わり 「あれ」頼むぞ

理解した俺が「 「あれ」? とてつもなく長い一日が、 あれ」を行い、GクラスのSHRが終了した。 あぁ、そういうことね。 令 此処に終了した。 長

なぜか? め掛けてくると思われた大人数の人間は、 頼む」と望んだからだよそうそう、 「あれ」だよ「あれ」 XCMが終わった後。 優勝した俺達を見ようと詰 そんなに来なかった。 「見に来る人数は適度で

まだ、 此処は学園なので、考査があれば夏休みもある。 とわかりにくいので日本の暦で言うと、まだ4月である。 夏休みが始まるまでの3ヶ月。 くのだった。 XCMを制し、エクシル学園生として上々.....かな? 1学期が終わるのはまだ3ヶ月ほど後の話だ。 トを切った俺は、 学校が始まって1ヶ月も経っていない。 学園生活をエンジョイしつつ、 色々あったよ。 何かと頑張って行 コチラの暦で言う 3期制なので、 うん。 良いスター

第26話:アルトは、 XCMに出場した。

はい、 誠にありがとうございます! XCM編終了でございます! 応援してくださった皆様!

等......感想欄に書いていただけると、そして応援してくださると更 稚拙な文ですが、 に嬉しいです! これからも続けて行きます。 感想、 アドバイス

さて、 たいと思います。 次からは閑話としまして、番外編、 どうぞ、期待しないでお楽しみに。 人物紹介等を書いていき それでは

262

どうも、夜来です。

今回はサイドストーリー、エイナ編。

ます。 リッド家の様子や、 エイナがアルトに会う少し前に遡って、エイナの視点でユーグ 「あの時」、そしてそれからを書きたいと思い

何か、適当になったなぁ.....

S i d e S t o r У 1 エイナ= ユーグリッド編

これは、 アルト達がエクシル魔法学園に入る、 1年前の話であ

る

.....

はぁ秋って言っても、さすがに何冊も本を読み漁るのは

疲れるなぁ.....。

..... うわ、 もう4時間も読書してる。 読みすぎたかな。

4時間、 かぁ そろそろ、声がかかる頃だと思うけど。

エイナー!ちょっと手伝ってくれー!」

「はーい!」

ほら、 やっぱり。 意外と私、 【人の心を読むチカラ】の持ち主か

も。

私を呼んだのは、 を本棚に戻して、 その声の元へと向かう。 若い男の声。 私の父親だ。 持っていた本

は 剣や盾を買いに来るお客様は多い。 それなりに繁盛していて、 王都エクシリアにある鍛冶屋兼武具屋の主だ。 私 エイナ= ユーグリッドの父親 今日も結構鍛冶の依頼が入っていたり、 まぁ、 人気という訳じゃない エイト= ユー グリッド

武具屋での支払いのほうを手伝っ だから私や、 私の母親.....キイナ゠ユーグリッドは鍛冶の仕事や、 たりしている。

けど。 鍛冶の方の手伝いって言っても、 て純度の高い鋼にする.....えーっと、 熱して槌で叩いた鋼を水で冷やし 水滅しっていう作業ぐらいだ

3 5歳。 鍛冶屋のほうで私を待っ ナで覆った若い男性。 言うまでもなく、 ていたのは、 私と同じ金髪で、 私の父親だ。 頭をバンダ 確か、

それじゃ、何時もの頼む」

· うん、わかった」

た。 これによって余分な物が鋼から剥がれ落ちて、 鍛冶場は結構広く、 んだけど、 私の役目は、 あんまりわからない。 それを水に入れること。 父は火床に入れられた鋼を出して槌で叩いてい 良い鋼になる... 5

父が、 にある鉄で作った水槽に張られた水の中に入れる。 叩き終わった鋼を置く。 私はそれを火ばさみで掴み、 近く

に入れ、 ジュッ......と音がして、鋼が急速に冷やされる。 それを掴んで、近くにある台に置いた。 剣を作って行くのだ。 これは、 後に父が再び火 再び火ばさみで

業は疲れるのだ。 はカウンター この作業を10回ほど繰り返し、 行って」 と声が掛かる。 父から「もういいよ。 鋼が結構重いので、 この作

武具屋のほうへ向かう。 だから、 分かった」と返事をして、 今は母がカウンターで接客をしているだろう。 何時も10回ほどで私の作業は終わり、 今度は平民エリアの大通りに面する、 次は武具屋の方。

カウンターの近くに行き、 武具屋に入ると、 今のお客さんは、 カウンターでは予測通り母が接客をしていた。 剣を買っていったので剣士だろうか。 母に話しかける。

「お母さん、私がやるよ」

エイナ。 もうこんな時間かー.....、 じゃあよろしくね」

じ35歳で、街で歩いてると、良く綺麗といわれるそうだ。 母は長い金髪で、父と同じく頭にバンダナを巻いている。 父と同

さっきも言ったけど、 「うん」と返事をすると、母は店の奥、 母も鍛冶の手伝いをするのだ。 鍛冶場の方へと消えた。

ぱり高いかな?」 エイナちゃ hį この剣結構良いね。 魔力を感じるけど、 ゃ

鎌鼬位なら放てます。 銀代 「えーっと…… そうですね。 銀貨50枚ですね」 風の魔力を込めてあるので、 小さい

父は、 ただろうか。 しばらく支払いに来るお客さんもいなくて、 魔力を込めた剣.....魔剣を作ることが出来る。 声が掛かった。 たっぷり1時間は経っ 魔剣は込め

鼬が放てるとか。 た属性によって色々な付加効果があって、 今の「風の魔剣」 なら鎌

私に話しかけた茶髪の若い男性は、 え込んで、言った。 金額を聞くと、 う h

エイナちゃん」 やっぱり高いなぁま、 今日は止めておくよ。 また来るね、

「はい、また来て下さいね」

と同時に、父が奥から出て来た。 そう言って、 その男性はドアを開けて店を出て行った。 それ

ろうから、早く行くんだよ。 今日はもう閉めるよ。 もうキイナが晩御飯を作り終えてる頃だ 先に食べててもいいからね」

かった。 と向かった。 ふと店の外を見ると、もう真っ暗だ。 時間は早いなーと思いながら、 お店の中にお客さんもいな 鍛冶場の奥のテーブルへ

が並んでいた。 母はもう料理を作り終えたらしく、 テーブルにはおいしそうな料理

持ちのようで、 父はあぁ言っていたけど、私は3人で食べたい。 10数分ほど待って、父が姿を現した。 母も同じ気

こんな感じなのだけど。 何だ、 やっぱり待ってたか」と笑いながら席に着く父。 いつも

エイナ、 お前も14歳だな。 学校はどこに行く?」

ん....私 やっぱり騎士学校に行きたいかなぁ

士団に配属されるチャンスがある。 を養成する学校で、各国に1つはある。 少々考えて、私はそう答える。 騎士学校とは、 卒業すれば、 その名の通り騎士 その国の騎

ガフリアにも騎士学校は勿論在り、 もそこそこレベルが高い学校だ。 勿論、 エクシル魔法学校には及ばずと 女性も入ることが出来る。

今の騎士団長は女性だって言うし、 私でも騎士団には入れるかも...

:

父は「 んだ。 なるほど.....」といって考え、 向かい側に座る私を見て微笑

いから大丈夫だけど、勉強はちょっと心配だからな」 「そうか。 それなら、 たくさん勉強しなきゃな。 剣技は十分強

そうね、バシバシ教えていくから、 覚悟しておきなさいよ」

ってる。 ので、私はそこそこ剣を使えるほうだ。 フフと笑って、母も言う。 父は剣士であり、 今でも稽古を積んでもら 剣術を教えてくれた

騎士学校に入るには、 合を入れるのだった。 やっぱり多く勉強しなきゃ。 私は1 気

翌日、 人生の大きい転換点が訪れることになるとは思わずに。

その次の日。 おやつを食べた後で、うつらうつらとしてい そんな中で1人カウンター に座っ 昼下がりの3時ごろで店内には誰もい ていた私。 たのだが、 なかっ 次 の瞬間。

「キャアアアアアアアアアアアア!!」

そんな、 め 反射的に店の外へ飛び出す。 女性の悲鳴が店の外から聞こえた。 瞬で私の眠気は覚

りが突然左右にパックリと割れる。 周囲を見渡すと、東側に多くの人たちが。バーディン!? 間からコチラへと駆けて来た そして、 そんな人だか

てくる。 基本的に、 いるから。 王都には魔獣は入ってこない。 だけど時々、 空を飛ぶ魔獣たちがエクシリアに侵入し 頑丈な外壁で囲まれて

そういう時は、そ 店や家に損害が出る可能性があるからだ。 の魔獣たちを倒すな りして追い出さなくてはい け

だけど、 そして、 あるのだ。 今は近くにいないみたいだ。 エクシリアの住民には、そういった魔獣たちを倒す義務が 倒すのは専らエクシリア内を巡回警備する騎士団の人

私は、 ど コチラに駆けて来るのなら、 エクシリア内に侵入した魔獣を見るのは初めて。 倒さなきゃ だけ

バーディ 直ぐに店に戻り、 ン2体はもう近くにまで来ていた。 私が愛用する大剣を持ち出してまた表へ出ると、 さすがバーディン、

そう思い ながら、 近くに来たバーディ ンに向かい、 剣を斜めに振 る。

「たあぁっ!」

だけど、 れてしまった。 の後も次々に剣を振るが、 素早いバーディンはそれを右にステップして避ける。 跳んだりステップしたり.....全て避けら そ

ディンの動きはあまりにも素早すぎて。 まさに翻弄されてしまう。 剣術を教えてもらったとはいえ、

このっ! たかがバーディンの癖にッ!」

5 思わず声を漏らしてしまう。 簡単に倒せると思っていたのだ。 バーディ ンは、 結構低級な魔獣だか

ているが、助けてくれる人は1人としていない。 あたりに、さっきの位置から移動したのだろう人だかりが出来

まぁ、どうせおじさんおばさんや私と同じぐらいの子ばかりだろう 期待はしていなかったけども。

私の剣が1体のバーディンに当たった。 ザシュッ次々に剣を振っていると、 切り裂かれるバーディン 偶然だろうけども

油断し、 やっ 背後に迫るもう1 と思わず口に出してしまう。 体のバーディンに気が付かなかった。 それだからか私は

その時だった。 あの人がまさに風のようにやってきたのは..

えた。 突如、 背後から「グッ !!」というバーディンの鳴き声が聞こ

後ろを見ると、 で「吹っ飛ばしている」ところだった。 いてしまった。 私と同じぐらいの歳の男の子が、 驚いて、思わず尻餅をつ バーディンを「拳」

を持ち上げ、投げ飛ばしたところで2mほど飛ぶだけだろう。 バーディンはパンチで飛ぶほど軽くない。 それを、この少年は拳で5mほど吹っ飛ばしたのだ。 大柄な人がバー

にしか、 カッ そんな感情は湧かなかったのに。 コいい.....。 そんな感情を持つ た。 鋼を打つ父ぐらい

私が翼を斬ったバーディンは、 ま翼を広げ、飛び立った。 て鳴き声を上げ.....何か意思疎通を取っているのだろう.....すぐさ 吹っ飛ばされたバーディ ンに向かっ

呆然としている場合ではない。 年に話しかけた。 お礼を言うために。 私は直ぐに立ち上がって、 その少

「あ、あの―...」

「…何?」

あ、えっとぉ...助けてくれてありがとう...」

「あぁ、良いって良いって」

こういう時に、 く話せないのだ。 私のちょっと恥ずかしがり屋な性格が憎い。 上手

少年はやっぱり私と同じくらいの年齢みたいで。 話さないべきかわからなかっ た。 敬語で話すべき

かせてもらっていいでs...良い?」 あの、 私エイナって言います。 エイナ゠ユーグリッド。 :: 名前聞

クショウ! 俺?...アルトって言うんだ、 4時過ぎてる! ... じゃ あなエイナ!」 よろしく。 :. あっ、 あー

「えつ、ちょっと…」

た。 て 少年.....アルト君と言うらしい.....は、 何か約束があったのか人の輪を抜けて走り去って行ってしまっ そう私に自己紹介。 そし

家の名も聞けなかっ あの少年に憧れた。 た。 でも、探す術も無い。 それで

に行きたいって言ってたのに」 エクシルに行きたい? どうしたんだ、 昨日までは騎士学校

うしてもッ!」 「ちょっと言い表せないけども.....魔法学園に行きたいのッ! تع

きたいのか?」 「そう言ってもなぁ..... あそこはトップクラスだぞ? それでも行

「しかも、 魔法学に重きを置いてるから..... それも追加されるし..

絶対に行きたいのッ!」

? 良いな?」 :: う hį分かった。 その分、 勉強は厳しくなるぞ

は良いと返事をしてくれた。 けだから、 いきなり路線変更した私に父は驚い うんッ!」と元気良く返事した。 良いのかな。 母は..... ニコニコこちらを見てるだ ているようだったが、最終的に その日の夕食での会話

だ。 なぜか、 騎士学校では魔法学に重きを置いていないから、 私は行くと決めた。 ではない父は渋ったんだと思うけど.....でも良いと言ってくれたの 絶対に合格してみせる。 あの少年がエクシル魔法学園に行くと思った。 たったそれだけの事。 魔法があまり得意 だから、

あの少年を追いかけて。

になったけども。 あの少年に少しでも近づくように、 その内に【触れた物を硬化させるチカラ】を手に入れ、 勿論魔法の練習もしたけど、 それから私は猛烈に勉強し、 何かが変わっていくような感じがしてきて。 やっぱり剣術が性に合ってるみたい。 今までの数倍、 赤く染めた。 剣術の稽古もした。 尤も、 髪の色も、 赤金

段々と、

そして

そして「 俺」 は 1年前から、 確実に変わっ た。 自分で

も分かるほどに。

さに、 今、俺はエクシル魔法学園の合格者掲示の前にいる。 合格者の発表がされているのだ。 そう、 今ま

.... あ、 あった! 279番!」

が決定したのだ。 Gクラス、最低位のクラスだが、 嬉しい.....のだけど、 大陸内トップクラスの学園に入学 俺の、 下の名前。

アルト= シューバ?アルト.....?」

アルト。 その名前は、 今でも心に深く刻まれていた。 自分を此

処に導いた、 その名前。

急いで1 · Gのクラスへと入る。 瞬時に数えた結果、 38人いた。

だけど、 40番の席は空いていた。

その直後。

ガラッとドアが開き、こちらを見る目は、 その少年を見る視線で若

干怖がっているようで。

でも、 その顔立ちや眼差しはまさしく、 1年前の「 あの時」

そう、 それは

アルト視点

「俺だったわけか」

そういうことだよ。 最後のセリフ取るな馬鹿野郎」

エイナに頬をぶたれた俺。 地味に痛い、止めてくれ。

XCMが終わった後、昼休みでの1コマだ。 エイナの昔話が聞き

こう言った俺も、 たいと言うと、なぜか話してくれた。 何故そう言ったのか分からなかったが。

様が言えと命令したんだろう。

....なぜか、メテリアやヨハン、アリスも聞いていたのだが。

ていたようだ。 「へぇー.....すごいなー.....」 メテリアは感心してその話を聞い

確立だな。 レを言ったヨハンには頭に拳骨を落としておいた。 「奇跡的な再会だね。 最下位だけに」とりあえず寒いダジャ 弄られキャラ

のサムズアップを止めてくれ。 (グッ!)」 分かったからアリスはマイブーム (?)

それにしても、そんなことがあったんだな。

......改めて思う、やっぱすげぇな、この世界。

そうな工程を選びました。 鍛冶屋の所は、思いっきりウィキから引っ張って、できるだけ安全

という訳で適当なので、見逃してくださいお願いします。

そして、ヨハン君のダジャレは漢字変換で思いつきました。 寒ッ。

さて、明日は番外編です。

しみに! 「アルトは、 夢の中転生神に出会った。 あまり期待せずに、 お 楽

番外編:アルトは、 夢の中転生神に出会った。 (前書き)

今回は番外編です。

感想にあった「主人公と転生させた神様」のお話を書いてみました。

番外編:アルトは、夢の中転生神に出会った。

アルト視点

......さてと、寝るかな」

XCM後のある日。

そして、 をし、 違うからね、 めの4連コンボを決め、颯爽とベッドインする俺。 何時ものように1.Gで勉強し、実技(今日は魔法訓練だったな) 夕食を食べ、エイナたちと別れて、 何時ものように入浴洗顔歯磨き。 卑猥な意味じゃないからね。 此処は俺の自室。 Ļ そんでもって時間割決 一応断っておこう。

そうして、俺は安らかに意識を飛ばあー..... 眠くなって来た。

俺は安らかに意識を飛ばした。 はずだった

のだが。

..... んあ?」

変な声を上げてしまった。 なぜかって、 寝たと思ったのに何故か

真っ暗な空間にいるんだぜ?

いったい何があるのかわからない。 一応地面はあるけど、それも真っ黒。 見える景色も漆黒に包まれ、

子が分かってきた。 その内、 どこからか光が差し込んできた。 ようやくその空間の様

それなりに整理された、 ベッドに、 テレビに、パソコンに.....。 少しだけ広い部屋だ。 しかし...

.....これって、もしかして......!!

そういうこと。 やっと分かったかな、 シューバく

若い女性の声が聞こえてきた。 俺が答えを思う前に、これまたどこからか、やたらふざけたような てるだろ。 いや、「く~ん」とか絶対ふざけ

ビの前を見る、 何処からだ、 と辺りを見渡す。 誰も居ない。 デスクの前を見る、やっぱり誰も居 ベッドを見る、 誰も居ない。 テレ

度ベッドのほうをm「おーい!」 そして、 本棚のほうを見る、 女神がいた。 ボケツッコミ兼用か。 そしてそして、

پځ ħ 本棚の前にいたのは、 俺が思い描く女神様だったから、 若い.....20代位の女性の「神」だった。 女神って表現したんだけ

うかクリーム色?)に、 頭には何か天使の輪みたいなものが浮かんでおり、 名前分からないけど神様が着る服。 長い金髪(とい

ちに死んでいった魂を異世界に移す、 いや~? 女神で合ってるよ。 ボクは女神ユース。 俗に言う「転生」 の神さ」 無念のう

とその女神様は言う。 転生の神 つ て もしや。

俺を転生させたのもアンタか?」

君もボクによって転生した1人さ~」 もちろん。 なんせ、 全ての世界の転生を司ってるからね~。

世界に連れてきた?」 あー、 そうですかい。 それじゃ もう1つ。 何で俺を元の

どうせファンタジーなテンプレ世界だ。 るから全く問題ない。 受け入れるようにしてい

えてなかったけど、この配置を見た瞬間に思い出した。 そして、 此処は元の世界、 日本の俺の部屋だ。 転生したら全く覚

用だよ。 死んだ瞬間にテンプレみたいに出てこなかったくせに、 今頃何

何となくかな」

猛烈に殴りてえ。

って言うのは冗談で」

冗談かよ。

に会うことにしてるんだよ。 「転生させるとき、 私はその魂が1番心に残っ 一番多いのは、 ている場所でその魂 やっぱり自分の家と

か、住処とかだね」

やっぱり、 心残りあると、 嫌じゃない?」

確かに。 でも、 死んだ時に俺はアンタに会ったことも、 まして

女神ユースはそう言って、 それだよ、 それ。 俺を指差した。 俺が転生した瞬間を思い出して言

しかったからね~」 「その日に会えなかったから、今会いに来たんだよ。 ずー つ

いけどね」 て、この世界の重要な人物になってるから、 「君はもう転生して、アホみたいにチートな【チカラ】を手に入れ 「だからボクは君の生前のお部屋に、君を招待したって訳さ~」 お話しすることは少な

訳ね。 あー、 なるほど。 一発殴らせる。 死んだ時は忙しかったから、今会いにきたって

? 「このいたいけな女性を殴るなんて。 暴力反対だよ、シューバ君

るなら、 「時にシューバ君。 思い出させてあげるよ?」 君は生前の名前を覚えているかい? 忘れて

うわぁ、 名前は、 やっぱり殴りたい。 覚えてないな。 転生したときに忘れたっぽい。 コイツ、絶対ふざけてる。

思い出させて、 何かメリットでもあるのかよ?」

特別キャンペーン、 しみじみするとか?」 うん? ぶっちゃけちゃえば、 みたく? 時々思い出して、 無いね 元の世界を想って まぁ、 初夏の

ぶっちゃけたな、 無いのかよ。 でも、 ちょっと名前を思い出

したくなるときも、合ったには合った。

.....頼んで、みようか。

う中華料理店みたくふざけて声を出し、そして、俺に言う。 はい、注文入りましたー!」 思考読むなよ。 スはそ

あげる。 でも、 普通に教えるんじゃ面白くないから.....パーツだけ教えて 並べ替え問題だね」

か平仮名だろうから簡単に分かるかも.....。えー.....、 何だそのクイズみたいな問題。 いや、 でも漢字と

貴方の名前を作ってください」 í Ú ó Β́ ť Ý K さて、 これを並べ替えて

わかんねぇ.....。 ローマ字かよ! . く そ、 記憶に無いから【クリエイター】 でも

君が元の世界を見るのはこれが最後。 りと目に焼き付けておくと良いよ」 「考えるのは元の世界に戻ってからで良いでしょ?見納めだから、 とりあえず、

ちょっとは真剣になったユースは、「これとか、 言って、 俺の生前の名前であるパーツをしっかり記憶した俺。 次々と自室の物や、 窓の外を指差す。 これとか.....」と

窓の外は、 ここに住んでいた時は、 灯が付いていて。 . あぁ、 夜にも関わらず多くの車が走っていて、 これあったなぁ。 なんか、 そんな物を見ても全く興味が無かったのに。 余計綺麗に見えた。 俺、 これが気に入ってたんだっけ。 ビル街ではまだ

「.....もう、良いかい?」 ユースが聞く。

大切に保管しておく」 あぁ、 もう良いよ。 この目に焼き付けた景色、 あっちでも

は自動的に消去されるよ?」 何言ってんの? 名前のパーツとボクと話したこと以外

よね? え? 俺に見させた意味は!? ちよ、 ちょっと待った、 それじゃ景色の記憶消える

っちで頑張ってね~」 待った、それじゃもう少しだk「さようなら、 シューバ君。 あ

俺は、ユースが何か呪文のような物を呟くのを見たのを最後にして、 その元の世界を離れた。

俺の中では、10分ほどの短い時間だった。

全く心残りが無いわけじゃない。 でも、 俺はアルト= シューバで

あり、こっちの世界の住人だ。

もう、 唯一残った名前のパーツを持って、 元の世界に干渉することは出来ない。 俺はこれから頑張っていく。 絶対に。 だから、

えよな ... まだ、 3時かよ・ っていうか、 明日学校無

戻ってきたのか。 エクシル魔法学園寮、 目を覚ますと、見慣れた棚やデスクが置いてある。とりあえず体を起こし、 280番の俺の部屋。 魔法灯 (形は環蛍 そう、 此処は

光灯、 それと同じくらい明るい)を付けた。

と似ているな、何て感じた。 俺の部屋の配置はもう覚えていないが、 何となく、 この部屋の配置

筆で書いて、並べ替えてみる。 そして次に思うのは、渡された俺の生前の名前のパーツ。 紙に鉛

これか、 Ь いや違うな。 こっちか、 ちがうな。 これかも?

る物があった。 何回かやってみると、 幾らか考えた案の中に1つだけ、 しっくり来

来るのだ。 もうユースは居ないので正誤は分からないが、これなのかな。 何か、 妙にしっ くり

これだと、 アルト= シューバっていう名前になったのも頷けるし。

、かぁ。 これかもな」

ちょっと笑って、元の世界に思いを馳せる。 元の世界にいたことは事実なのだ。 もう思い出せないが、

.....魔法灯を消した。 バだから。 もう寝よう。 俺はもうアルト= シュ

アを「大剣で」超連打され、最悪な目覚めとなってしまうのは、まその4時間後、エイナに「朝飯一緒に喰おうぜ・・!!!」(とドそして俺は、2回目の安らかな睡眠に入るのだった。 た別のお話。

番外編:アルトは、夢の中転生神に出会った。 (後書き)

アルトの名前当て、出来たらやってみてくださいねww

烈がいい。 人物紹介、多分半分も出来てねぇ.....。

急がないと.....。

トな俺は、 Gクラス」編 人物紹介 (前書き)

はいどうも、ギリギリ終わりました夜来です。

今回は、 今まで出て来たキャラたちの紹介です。

ŧ 「外見をkwsk!」なんて言われましたが、 文章構成力もありません。 o r z 自分にそんな想像力

とりあえず名前が出て来た人たちは網羅したつもり。

長いので、軽く読み飛ばしてください。

居ないとは思いますが、全部読んでない人には軽くネタバレになり ますので、 1~29部読み終わってから見てください

書き忘れた! 名前/性別/年齢/身長/体重 となっております

287

チートな俺は、Gクラス」編 人物紹介

アルト= シューバ (秋葉 有斗) /男/15/ 1 6 8

転生者。 として異世界に生を受けた。 神様の計らいか、生前の記憶を殆ど受け継がせ、 1人の男が休暇で訪れた国でテロに巻き込まれ、 もう色々とチート。 チートすぎてヤバイ。 死亡。 アルト= I バ

てられた。 15年間、 後述のナシズ=シューバ、 その間に一般常識も習得。 サナブ゠シュー バによって育

両人が教える格闘術と魔法を悉く覚え、さらにチートな 【チカラ】

を授かり、さらにさらに学業も優秀。

だが本人はそれを全く気に留めず。 るらしい。 エイナ= ユーグリッド (後述) に出会えた事で良かったと感じてい チカラ】のせいで最低位のGクラス入りを果たしてしまう。 そのおかげか、学園入学試験の筆記科目は全てトップ。 むしろ唯一の知り合いである

ケメン。 を着用する。 赤茶の肩まで伸び、 ファッションには無関心のようで、 所々上に跳ねた髪に端正な顔立ち。 いつも茶色いローブ 要するにイ

性格は明るく、相手にその気があれば誰とでも仲良くなれるタイプ。 られた時の怒り様は、 そのせいか、情には厚い。 フレンドリー。 XCM後には、1 修羅を思わせるほどだとか。 テンプレだが、 · Gの殆どの生徒が友達に。 仲間を理不尽に傷付け

...通称【創造主】。 チカラ】は【自分が望んだモノを創り出し、 手に入れるチカラ】

多い。 たくない相手には【身体能力を超強化するチカラ】と名乗ることが 戦闘では、 主に格闘技を良く使う。 その為、 【チカラ】をばらし

得意技は正拳突き。 をティッシュ同然のように打ち抜くとか何とか。 【クリエイター】で強化すれば、 分厚い鉄板

魔法は、 最上級魔法をバンバン打ち込む事だってできる。 からの一斉攻撃なんて、 格闘の手助けに少し使う程度。 楽勝楽勝。 だが本領を発揮すれば、 魔法陣1 0個展

をそれぞれ悉く破り、 チカラ】を、 X C M 1 回戦では相手を操作するDクラスキャプテンの操作系の【 2回戦ではEクラスキャプテンの幻覚系の 勝利。 【チカラ】

勝利した。 決勝でも、 相手のダント・サスティーフを圧倒(後述)。 無傷で

料理が得意。 ているようだが元の世界で料理が趣味だったことに基づく。 これはサナブ婆のおかげだけではなく、

ナシズ=シュー バノ男ノ??/166/65

アル という説あり。 ト育ての親の そして格闘術を教えた張本人。 格闘術の達人

声は4 0代なのに体は60代という、 異様な雰囲気を醸し出すおじ

いさん。 口癖が「~ね」 なので、 余計に異様。

日常生活では、 イチャ (?) している。 何時ものように妻であるサナブ= 人目なんて気にしない。 シュ バとイチャ

そしてアルトにも甘い。 完全に親バカ。

だが格闘術の腕は本物らしく、 万遍無く教え込んだ。 アルトに拳、 腕 脚などの格闘術を

成す事となる。 そのおかげでアルトはこの先、 魔獣を廻し蹴りで倒すなどの荒業を

洋服。 金と白が混ざっ 口へ た薄い髪の毛に皺の寄った顔、 いつも薄汚れてたほうが多分良い」 い つも薄汚れている

【チカラ】は不明。

サナブ=シューバ/女/??/152/53

張本人。 ナシズと同じく、 まったり系老婆。 アルト育ての親でありアルトに魔法を叩き込んだ 大魔導士という説あり。

長く、 概要や容姿はナシズと殆ど一緒なので割愛。 首で纏めている。 顔はナシズより優し気。 ただ、 髪はナシズより

み込んだ。 魔法魔術の腕は半端じゃないらしく、 アルトは全ての知識を脳に刻

そのおかげでアルトは、 プとなり、 実技でも高い評価を得ることになる。 受けた試験の魔法学に関する項目が全てト

ナシズと同じく、【チカラ】は不明。

エクシリアにある宿屋「 (っぽい犬) の魔人。 実は妻子持ち。 ガチムチ。 B 1 a c k だが本人にソッチの気は無い。 J a c k J の 主。 土佐犬

その主である彼は、 由で泊まった宿屋。 アルトが魔法学園を受験しに行く時、 し、酔っ払いにはとことん厳しく、 強面だが実は優しいという一面を持つ。 それが「Black 怒った時の声はヤバイほど恐ろ 学園の門に近いからという理 Jack」。 しか

サンドウィッチに似た食べ物、 り、アルト曰く「他のウィッチサンドが食えなくなるほど美味い」 「 ウィッ チサンド」 作りの名人であ

エイナ=ユーグリッド/女/15/160/?

作者が好きなタイプを出してみました。 王都エクシリアでの、 アルト最初にして最高の友人。 俺つ娘。

ディン2体と戦っていた女子。 アルトがエクシリアを下見に行ったとき、平民エリアにて魔獣バー

その時は長い金髪で、 その姿に感動する。 バーディンに倒されそうになったところをアルトに助けら 恥ずかしがり屋な感じの普通の女の子だった。

そのときから剣技を前より数倍鍛え始め、 同時にアルトが入学する

ار 変えたらしく赤金に、 この2つのせいか、 と勝手に予測したエクシル魔法学園に入学するため、 口調は男勝りに、 学力はエクシルでギリギリ通用するだけの物 髪色はアルトに似せて魔法で 猛 勉強

性格は明るく、 二つ名を貰ってエクシルの1 そして剣技が師範代レベルになり、 - Gに在籍している。 \sim 金剛剣士》 の

的で、 赤金のボーイッ 昔の面影は残っている」そう。 一見するとどちらの性別か見分けは付かない。 シュな髪型 (イマスの真みたいな) アルト曰く 顔も中性

明る アルトとは入学当時までに1回までしか会って い性格からか最初から砕けて話すことが出来た。 い な しし に も関わらず、

アルトに (こういうときにはテンプレの) 何ともいえ ており、 彼女にそれが分かる日は遠い・ ・のか? な い感情を抱

技量と合わせ、結構強い。 エイナはそれを剣に応用し、 硬化させることなので、カテゴリーは身体強化系になる。 の二つ名を持っている。 チカラ】は 【触 れたものを硬化させるチカラ】。 【チカラ】とその強さ故か、 剣をものすごく硬くしている。 メイ 《金剛剣士 んは体を その

X C M 決勝4番手では、 その剣術を目一杯使って勝利した。 同じ大剣使いのウェ スレイ 対剣士には強い。 リスニル と対

剣技に関 魔法を覚えている。 して負けたく な 勿論剣用 いために、 伸長など、 人にはあまり使えな

生。 アを「ピシャアアァァン!」と開け閉めした、 アルト達1・ Gとのファ ーストコンタクトで、 壊れそうな教室のド インパクト抜群な先

率高め。 碧色の髪とジャ 疑いがある。 ージ、 髪もポニー テー メガネをかけているため、 ル 髪を纏めている点でシンクロ ヤ ンク 系先生の

だが、 びした口調で気が抜ける生徒が居たり居なかったり。 気のないだけと思われるかもしれない。 始めての授業では皆に自己紹介だけさせて帰らせたので、 いざ話し始めると「 ぞー」 やら「なー _ やら、 単にやる 間延

因みに、 構エリー しかし、 徹底的に生徒 この やるときは彼女の【チカラ】... トだったのでは? 【チカラ】は結構レベルが高いらし (の体)に教え込む。 謎が多い先生だ。 【魔獣を召喚するチカラ】 主に戦闘訓練で。 つまり、 結

ミリア・メテリア/女/15/157/?

あり。 G に在籍する女の子。 恥ずかしがり屋。 隠れきょ の噂

で最も頭が良い。 G 11番。 つまり、 イレギュラー のアルトを除けばGクラス

銀髪の長い髪は自然に内側にカー 顔からして癒し系。 中身もそれに準拠。 ル していて、 小動物のような可愛

ただ、 にテンパり出す。 恥ずかしがり屋な一面もあり、 あわあわ。 特に知らない男性と話すと急

0人り。 カラ】である【魔術特化】は、彼女の放つ魔法に特典でんな彼女だが、実技の魔法に関しては天才クラス。 得意科目は魔法学、 後者はワースト20入り。 苦手科目は国語。 彼女の放つ魔法に特典が付け加えら 両極端。 前者は入学試験でトップ2 彼女の 【チ

例えば、 ラグがほぼ0。 事制する。 魔法陣の3つ同時展開。 そのおかげで、 XCMの決勝では1番手対決を見 魔法陣展開から魔法発動までの

名を持つ。 得意魔法は、 でこれを3つ同時に繰り出すことが出来、 火属性中級広範囲攻撃魔法、 それ故か《獄焔》 《焔波》。 【チカラ】 の二つ

これが間接的な原因でもあったりする。 お菓子作りが趣味である。 アルト、 エイナと仲良しになったのは、

ザリアント=ヨハン/男/15/161/50

なりつつある。 Gに在籍する少年。 お坊ちゃま風。 少々いじられキャラに

セッ している」という短い金髪は、 ·Gのちょうど真ん中、 ト何たらは多分嘘。 20番の男。 どう見ても無造作でクシャクシャ。 本人曰く、 自分でセッ

だが、 結構人気がある。 かっこいいと可愛いの中間的な顔で、 好意を持っている女子がいるが、 Gクラスの女子からは 本人が気付く

ことはまず無いだろう。

以外は鈍感。 というのも、 彼が一人の女子に好意を持ってい ここに鈍感キャラがいました。 るからで... それ

こなす、 XCM決勝2番手では惜敗するも、 この【チカラ】と、 になれば、 の脚力故、 【チカラ】 見事な戦いぶりだった。 ١ţ 超強化したアルトの脚力でも敵わないかもしれない。 《爆速》という二つ名が付いた。 【脚力を超人レベルにまで上げるチカラ】。 彼が得意とする格闘技、 【チカラ】 脚技で敵を翻弄。 と脚技を上手く使い 本気 そ

プリス・ローマイ/女/15/155/?

Gに在籍する少女。 ちょ っと暗め。 というか、 無口。

る し出しているのかも。 G 前髪が目に少し掛かっているので、それが暗い の10番。 長いストレー トの黒髪で縁が緑のメガネをかけ イメー ジを醸

どの1.G男子(アルトやヨハン除く)に伝わってないだけで、 れが知れれば逆ハー しかし、 前髪を左右に分ければ見える顔は結構可愛い。 レム有力視。 それが殆 そ

性格は外見と同じく、 も可愛い。 それが (r 無口であまり喋りたがらない。 y だが、 声

彼女の 名 前 からして怖い。 【チカラ】は 密林を支配するチカラ】 通称 【密林地獄】

名は体をあらわす。 を中心に、 数秒のうちに一定領域内が密林と化す。 彼女が【チカラ】 を発動させると、 彼女

その土や草木、 の槍、 大木の槌など、 蔦や大木などを彼女は操れるのだ。 攻撃方法は様々。 土の壁や、

操作は四肢で行い、 怖を植えつけながら勝利した。 XCM2回戦では、 痛みを受ける。 ハイリスク・ 操った物がダメージを受けるとその四肢も同じ 【チカラ】 を最大限利用し、 ハイリターンな 怖い怖い。 【チカラ】だ。 相手に圧倒的な恐

攻撃的になる。 余談だが、 この【チカラ】 それはもう、 普段の彼女とは大違いだ。 を発動させている間、 彼女の性格は

学年最高位、しい白髪のお び出した人。 進言するも拒否され、 アルトに何か期待のような物を抱いており、言外にAクラス入りを エクシル魔法学園の最高責任者、 のお爺さん。 ダント・サスティーフと、最低位のアルト これによって、 それでもまぁ ちょっと髪は薄い。 異様な宿敵関係が成立した。 学園長の男。 しし いかと放置している。 見かけや口調は優 を一 緒に 呼

が大きいらし らないが。 同時にダントについても期待しており、 ずれは何か ίÌ しら行動を起すらしい。 XCMで大幅に針が動くのだが。 何をやらかすかはまだ分か 今はそちらのほうが期待値

エクシル魔法学園、 負けず嫌い。 今年度の最高位に君臨する男子。 細マッ チョ。

残してオールバックにしている。 顔は俗に言うイケメンであり、長身痩躯。 るほど付いているので、これまた俗に言う「 Ш 1年生の最高位である彼。 ナルシストと見られそうな髪形。 細マッチョ」 だが、 金髪を前髪を少しだけ 筋肉は十分すぎ

格下の相手には視線から言動まで全て見下し、 言動を心がける。 そういうタイプの典型。 上の相手には丁寧な

学力も、 トップらしくずば抜けて良い。 但し、 アルトには及ばな

とその顔を1目見ようとたくさんの女子が1.Aに詰め寄ってくる。 トップだからか、 その顔のせいかは分からないが、 休み時間となる

りする。 彼が知る良しも無いが、 会員?1は、 · Aのとある女子。 密かにファンクラブが結成されてい た

《聖召喚》や、《聖刃》とても強い部類に入る。 でも使える。 【チカラ】は、 聖属性魔法は殆どが強力な物なので、 【聖を操るチカラ】。 _ 聖」が付く魔法、 【チカラ】も、 技は何

技の威力は、他属性のそれとは桁違い。 《聖刃》等々。 呼び出せる魔獣 聖機や、 放つ

特に、 の聖属性魔法を、相手を取り囲むように出現させる。 聖属性最上級一点攻撃魔法《輝く世界》 Ιţ 呼び出せるだけ

それを相手一点に集中して放つ、凶悪かつ準チートな魔法 名が授けられている。 その騎士の様な振る舞いと【チカラ】によって、 いまでは、 避けた相手というよりも、 使ったことが殆ど無かっ 《聖騎士》 の二つ た。 X C

X M でAクラスキャプテンとして出場。 2回戦では出番も無く、

決勝に進出。 園長室でのこともあり、 その決勝5番手での相手がアル **|** シュー 学

《聖召喚》で出し た聖龍はアルトの正拳突きで吹っせる気満々だった彼。 飛ばされ、

性最上級防御魔法、 終いには 《輝く世界》 《聖域》で打ち消され、エサンクチュアリンで仕留めようとするが、 正拳突きで昏倒、 アルトの出した聖属 敗北

アルトに「負けず嫌 \neg 可哀想な奴ベスト1 <u>ل</u> ا 0 と言う渾名を付けられた、 に入るだろうお人。 ダントさんに、 多分この小説で 敬

モデラ・トー/男/25/180/63

X C M と声が五月蝿くなる典型的な松木 の司会兼実況を務めた学園 の教員。 太郎みたいな人。 展開が熱くなってくる 意外と若い。

X C M 3年の数学を教えている。 で の名司会 (笑)が心に新しい、 実況も出来る学園の教員。

は 彼の黒髪は7:3分けで、 シルクハットを被っていた。 不動の7:3」 なんて名前が付いてたり。 ガッチガチに固めている。 X C M 3年の中で の時は、

顔は、 の時は、 事になると性格変わるタイプ 普通のサラリーマンみたいな感じ。 それを感じさせない なんだ、 はっちゃ きっと。 けようだった。 性格も堅実。 だがXC

1.Fに在籍する男子。 リーウ。

ボサの黒髪、 を小さくした感じだ。 XCMでFクラスメンバー ハチマチ、 いかつい顔。 のキャプテンを務めた男子。 どう見てもスト?のリュ 短いボサ

性格も準拠し、それなりに明るいらしい。

ヴァン=シャルロッテに圧倒され、 できなかった。 【氣を生成、 現出するチカラ】を持つが、 【チカラ】を大きく表すことは 1回戦でBクラスのエリ

ダントとは違う意味で可哀想な人。 は良いんだけどなぁ..... パクリだけど。 (空気的な意味で)

マリン・ブルーミア/女/15/156/??

こと無かった。 1.Eに在籍する女子。 多分。 準ヒロイン説が囁かれていたが、 そんな

ポイント。 X C M トのショー でEクラスキャプテンを務めた女子。 トカットで、 頭の後ろに付けた赤いリボンがチャ 彼女の金髪はストレ I ム

決めの様子が窺える。 ャプテンになったのは絶対人気からだろうなぁ.....と、 顔もEクラスの中では1番可愛いらしく、 性格もおしとやか。 キャプテン +

かし実は腹黒く、 調子に直ぐ乗ってしまう。 そんな人間である。

戦闘となると彼女の【チカラ】 チカラ】で相手を翻弄。 混乱した相手を蹴りで沈める戦闘スタイ である【幻覚・幻聴・幻痛を与える

テン、アルトと当たる。 1回戦ではその【チカラ】 で快勝するも、 2回戦でGクラスキャプ

たのだ。 しかし、 ィニッシュしようと、幻覚と幻聴を使っている間にアルトに近づく。 同じく1回戦で圧勝したアルトを警戒し、 調子に乗りやすい彼女は、 彼女が見ていた「幻覚と幻聴に嵌っているアルト」は幻覚。 嵌めたつもりが嵌められてしまってい 何時ものように蹴りで

それに気付かず、 お粗末さまでした。 あっ けなく首に手刀を入れられて気絶し、 敗北。

セルニータ=モザ/男/15/167/58

根暗。 - Dに在籍する男子。 典型的な「 クラスに友達居ない」 タイプ。

プテン。 紫の長い 臭を放ってそうだが、 XCM1回戦5番手でアルトと対戦した、 でも根暗。 のか短いのか良く分からない髪はボサボサで、いかにも異 学力そこそこ、 そんなことは無く。 運動神経まぁまぁと、中途半端な男。 ロクラスメンバー いたって清潔である。

というより、 から立候補するほど決断力はある男。 クラスにもちゃんと友達はいて、 だけど根暗 キャプテンには自分

省略しました。 チカラ』は、 触れた相手に「種」 を仕込むチカラ】 長いので

分以外に「種」は見えない。 触れた相手の部位に「種」を仕込み、 のその部位を操る。 時間が経てば経つほど、 それを媒介に自分の手で相手 干渉力は増す。 自

その【チカラ】故、 《奇術師》の二つ名を持っている。

決めの時を狙って、アルトの右腕に「種」を仕込んだ。 X それから1週間で干渉力はMAX。 C M では、 1 回戦で対戦するキャプテンが握手するトー 勝ちを確信したモザは自分の ナメント

それで自分の右腕の違和感に気付いたアルトは【クリエイター】で 力のことをベラベラ喋ってしまう。

た。 それを消滅させ、 拳 一 発。 簡単に吹き飛んで意識が飛び、 敗北し

な奴ベスト10」に入るかも。 簡単に言うと、 テンプレ通りの馬鹿。 ダントと同じく、 可哀想

コルモ・ヒューリス/男/15/173/58

Cに在籍する男子。 イケメンでナルシスト。 爆発しる。

X C M 上回るかっこよさの顔を持つ。 でのCクラスキャプテン。 顔面リア充。 首まである白髪と、 ダントをも

そのため、 ントとか、 Cクラス内の女子(と一部男子)は彼にぞっこん。 彼女達にはアウト・オブ・眼中のようだ。 ダ

さを追求するために相手の事を気遣うほど。 極度のナルシストであり、 自分カッコイーだけではなく、 もう病気クラス。 かっこよ

相手に攻撃したり。 翼を操るチカラ】 を持ち、 その戦闘する姿は美しく、 銀色の翼を生やしたり、 見とれる気持ちも 羽を飛ばして

わかるほどだと言う。

だが、 はとても言えない姿を曝け出してしまった。 そのままブルーミアの蹴りでKOされ.....幻覚に慌てる、 女子のため手加減の心配をしていたら簡単に幻覚に嵌った。 1回戦では幻覚使い のマリン・ブルーミアと当たり、 美し 相手が

だが、 思っているそうだ。 子)はまだまだ彼に釘付け。 倒れる姿がまた美しかっ たのか、 彼 は 1 てクラスの女子(と) 嫌われなくて良かっ たと 部男

やっぱり爆発しろ、リア充が。

エリヴァ ン= シャ ルロッ テ/女/1 5 6 2 ?

しし В に在籍する女子。 ただひたすらにお嬢様。 絶対奴隷とか

おり、 X C W かにもお嬢様というそういっ Bクラスキャプテン。 長い金髪はクルクルとカー た髪型。 ル じて

着している。 顔は可愛いと言うか綺麗。 しさを加速させる。 首にはネックレス。 少し吊り上がった鋭い目が、 指には大量の指輪を装 お嬢様ら

性格は、 必要な人にはちゃ やはりお嬢様らしく高飛車で、 んと敬意を持つ て接するので、 自分が絶対。 別に嫌な人じゃな でも敬意が

逆に、仲間思いな面もあったり。

常 の魔法とは別に「宝石魔法」宝石を魔法に変えるチカラ】 で、 を放つことが出来る。 身につけた宝石を消費して、 通

彼女は、 相手を翻弄したり。 の着用が認められている。 2つを組み合わせて強大な攻撃を仕掛けたり、 この 【チカラ】をおかげで、 ネッ クレスなど 別々にして

利した。 X C M では、 しかし、 1回戦でFクラスキャプテンのフォロウを圧倒して勝 次の相手はAクラス。

自信を持っていた魔法を相手に悉く吸収され、 女は数秒動けず。 その間にその魔法を跳ね返され痛みで気絶。 ショッ クを受けた彼

敗北を喫した。

魔法の技術ならAクラスにも引けを取らない、 なかなかの実力者で

カノン・レアトリア/男/15/176/72

B 在籍、 XCMのBクラスメンバー。 フルボッコされてた人。

を持つ格闘家体質なBクラスの男子生徒。 無造作な短い茶髪、 それなりに整えられた顔、 そして有り余る筋肉

言動は激しく、相手にムカついてくると「ゴルァ 要するにキレやすい。 現代の若者。 とか使っ たり。

の中でも人気者らしい。 しかし性格は明るく、 ムカついてなければフレンドリー。 クラス

劣化K 幽霊でも空気でも、 何でも殴り飛ばすチカラ】 J さん。 殴ろうと思えば何でも殴り飛ばすことが出来る。 の持ち主。 その名の通り、 魔法でも

特に、 技 場 の地面の一部を粉砕するほど強力である。 空気を殴って相手に向けて飛ばす《空気の弾丸》 Ιţ 硬い

激昂。 作中では名前しか呼ばれていないのだが、 しかし、 まんまと相手の策に嵌りフルボッコ、 XCM2回戦では相手の素早い動きで攻撃を全て避けられ とりあえず入れておいた。 敗北した。

フウカ・エーリル/女/15/155/?

スメンバーの女子。 - B在籍。 シャ ルロッテ、 あれだ、 妖 レアトリアと同じく みたいな人だ。 X C M の B クラ

黒髪で、 Mで自クラスキャプテンだったシャルロッテには、 可愛さの顔から言って、日本の何処かに1人は似た人がいる。 一般的な日本刀(のような片刃剣)を持ち、性格は物静か。 おかっぱに良く似たヘアスタイルの女子。 敬語で話す。 大和撫子的な

戦 所 サブキャラで個人的に好きなキャラ。 XCM2回戦では、 【チカラ】は不明。 刀に【チカラ】 リーチの圧倒的な差が響いたのか、 大剣使いのウェスレイ・リスニル (後述)と対 の秘密があるようだ。 しかし、 素早い動きと精密な刀さばきで戦う 後々再登場するかもね。 惜敗。

テミニル・ラート/男/15/158/48

A在籍のXCMメンバー。 Aクラスらしく、 かなり強い。

ちょ 短い黒髪で、 つ と可愛いAクラスの男子。 適当に固めたと思われるヘアスタイル。 童顔なので

き潰すことが大好きと言うドS人間だったりする。 なれなれしい物言いとその 【チカラ】 で、 相手を精神、 身体的に叩

XCM2回戦では、 を一旦体に溜め、 魔法を吸収、 発射するチカラ】を持っていて、相手が放っ 黄色い球体に変換して相手に発射する。 Bクラスキャプテン、 シャルロッテの強大な魔 た魔法

油断って怖いね。 な魔力の前に魔法を跳ね返せず、 しかし決勝1番手では、 アルトの観察眼と対戦相手メテリアの豊富 自爆。 敗北した。

法を悉く吸収し、

跳ね返して勝利した。

アグス= レイアン/男/15/169/59

A 在籍。 X C Mのメンバー。 学力はAクラス上位らしい。

首まである青髪。 傍から見ると優男。 常に笑顔で、 何を思っているのか読みにくい。

のが基本的な戦法。 とぼけたピエロのような言動で相手を逆上させ、 そのため、 普通に喋っていてもちょっとイラ 自分の罠にかける

その結界に入った者は動きが蚊が止まるほど遅くなり、 点」を置き、 処を見計らって敵をフルボッコにする。 【チカラ】は、 それを繋ぐことで結界の面とする。 【超鈍化結界を張るチカラ】。 地面に手を付き「 アグスは其

X C M ヨハ ンをそれぞれ同じ戦法で破っ 2回戦では Bクラスのカノンを、 た。 決勝2番手ではGクラスの

う。 倒せるのはアルトか、 でも格闘も得意らしいので、 魔法を多用する魔法使いだけじゃ 地味に万能である。 ないかと思

フィンル・エレンス/女/15/160/?

C M A 在籍。 のAクラスメンバー。 決勝まで正体を表さなかったくせに、 地味に強い
メ

大勢とは違ってちょっとだけ黒い。 所々跳ねたショートカットの金髪に赤いメッシュが入り、 ル (笑)系女子。 ブレザー も着崩して着るギャ 肌も他の

性格は明るく.....というか戦闘狂の疑いがある。 お前は明るすぎと思わすほど。 冷静なアリスに、

を王水のような強酸に変え、相手に襲い掛かる。 【チカラ】は【自身を強酸に変えるチカラ】。 その名のとおり体

出す蔦の槍や木の槌を、体を強酸に変えて無効化するばかりか、 を溶かしてダメージを与える。 XCM決勝3番手では、Gクラスのアリスと対戦。 アリスが打ち 木

最終的には、 勝利を収めた。 アリスが痛みによるショックで気絶。 チー ムはその後負けるのだが。 完璧なまでの

ウェスレイ・リスニル/女/15/170/?

女流剣士。 A 在籍。 X C M X ダントのファ A クラスメンバー。 ンクラブにこっそり入っていたりする

た美人さん。 脇付近まであるストレー トの銀髪に、 きりっとした綺麗な顔を持っ

性格は冷静沈着。 こもってないという生粋のポー カジノではぼろ儲け出来そう。 いつも無表情で、 カ l フェイス。 戦闘するときさえも声に感情が

せる。 剣『クラッ 【チカラ】 は カー』に自身の魔力を食わせ、 7 クラッカー』 を扱えるチカラ】。 強力な地属性の攻撃を出 彼女が持つ魔

デメリットは他の魔法が上手く出せなくなることだが、 ラッカー』でカバーしているため、余り気にはならないらしい。 XCMの2回戦ではBクラスの刀使い、フウカ・エーリルと対戦し、 『 クラッ カー <u></u> の力を最大限発揮して勝利。 それを『 ク

ドと戦った。 決勝4番手では、 同じく大剣使いのGクラス、 エイナ゠ユー グリッ

2回戦と同じく『クラッカー』を使って地属性の攻撃をするも、 イナの剣技に少しずつ押されていく。 エ

最後は、エイナの剣を弾き飛ばし油断して斬りかかった所、 に敗北した。 により戻ってきた剣でエイナがカウンター。 防ぐことが出来ず **伸長**ストレッチ

これまたサブキャラの中でお気に入り。 再登場あるかも。

トな俺は、 Gクラス」編 人物紹介 (後書き)

過去最多文字数です。 やばい、4日ほど掛けた甲斐があった。

始まる予定です。 舞台は、XCMの3ヵ月後。 さて、明日か明後日かは分かりませんが、次からは新編です。 現代の暦で言うと、7月中旬頃から

ててくださいな。 「チートな俺は、 Dランク (仮)」編、 期待しないで、楽しみにし

第27話:アルトは、今後の計画を決めようとした。 (前書き)

さて、今日から新編、 「チートな俺は、Dランク」開始です!

お待たせしました。 今日は短いですが、どうぞ読んでいって下さ

v

第27話:アルトは、 今後の計画を決めようとした。

アルト視点

本の暦で言うと、 俺達GクラスがXCM優勝を果たした、 7月下旬。 そして、季節は その3ヵ月後の 日

(..... あ..... あぢぃ......)」

は、夏の暑さが大嫌いだったのだ。 夏である。 何故、 こういう所だけは日本に似るのだろうか..... 俺

もうムシムシとか言うレベルを超えた熱気の中で、 俺は心の中で呟

いた。

此処エクシリアの夏は厳しく、普通でも30度以上、 酷い時には 4

0度以上になると言う......俺にとってこっちの方が魔王のような気

がしてきた。

:.. あぁ、 ソツタは涼しかったんだ。 あの頃が懐かしい。

いたが、 入学当時は、 なるほど。 A~Gクラスの待遇の違いが机の違いだけかと思って

変えて室内に送る.....「 Gクラスには勿論無く。 変えて室内に送る.....「魔術式温冷変換送風機」が設置されている。Aクラス含め、上位クラスには、魔術で室外の空気を冷風、温風に ...手で扇ぐしかないのだ。

実は、 それが無理なんだよね。 【クリエイター】 で対策すればいいじゃないか。 今の状況が原因で。 つ て?

.....キーンコーンカーンコーン......

は 用紙を前に回してー 名前はちゃ んと書いてあるなー

を前に回し、 同じようにぐったりする俺含むGクラスの面々は次々にテスト用紙 ェイ先生は、かったるそうにそう言った。 お馴染みの学校のチャイムが鳴り響き、前に立って手で顔を仰ぐジ 仕事を終えるとまた同じように脱力する。

そして、 まり、 結界が教室棟全体に張られているのだ。 であるから、当たり前のようにテストはある。 今は期末考査中。 【チカラ】や魔法魔術を使えないように、 教室内では問題を解くこと以外何も出来ないように そう、所謂定期テスト。 それを無効化する 此処は教育機関 つ

だから、 ら苦労しないさ。 り出すことが出来ないのだ。 何かで氷作って持ち込めばいいんじゃないかって? 氷属性魔法を使ったり、 熱気が直撃。 【暑さにものすごい強い体】 はは、 出来た を作

え去るな、 力で作られた氷だ。 【チカラ】や氷属性魔法で作る氷は、 多分。 持ち込もうとした瞬間、 水で出来てるんじゃなくて魔 魔力の粒になって消

チカラ】は分かる。 それは分かるが、 何も魔法まで無効化すること無いじゃねぇか.. 特に俺みたいな感じのヤツ用だろうな。

:

「きりーつ、れい、ちゃくせー.....」

結界が掛けられているのは教室棟の中だけなので、外に出ちまえば 魔法使い放題だ。 に、大半の生徒は教室外へと駆け出し、外を目指す。 こんな時でも真面目な男子生徒の号令。 1階でよかった。 男子生徒の多くは、 ソイツが「 窓から外に飛び出す。 き」を言う前

俺も当然その中の1人であり、 全身の汗を飛ばし、 暑さに強い体にした。 出た瞬間に【クリエイター】 あースッキリ。

窓から飛び出す女子が一人いた。

あちぃ アルト、 なんか出してくれー

ちょ、 ないそうだから、仕方ねぇか。 出て早々それかよ.....。 まぁ、 エイナは氷属性魔法が扱え

こ数日、 俺は【クリエイター】でエイナの周りに冷気を纏わせた。 何時もこれだ。 どうせ便利屋だよ、 俺は。

ト終了記念だ!」 バ い し、 サンキュー、 アルト。 早く飯喰いに行こうぜ! テス

食って寮へと帰る生活も今日で終了だ。 今日で、 4日間のテストは終了。 全日昼食前に終わるので、 飯を

そんなわけで、 った俺。 エイナが言うようにテスト終了記念にと、 食堂に向

ットを選ぶ俺 何時ものように食堂へと向かい、 何時ものように日替わり定食Aセ

かも1番美味しい定食のことである。 日替わり定食Aセットとは。 学園の食堂で1番早く出て来て、 し

プに、 今日はチーキンの塩焼きと葉物のサラダ、コンソメ 仲良しでよかった。 (俺がおばちゃんに教えた)パスタである。 (っぽい) おばちゃ

めた。 エイナも同じものを選んだようで、適当に席を取って座り、うん、 美味い。 食べ始

そういえば、 アルトは夏休みどうすんだ?」

·.....あー、もう夏休みか。 考えてねぇな」

かぁ。 エイナの突然の問いかけに一瞬驚くも、 何年ぶりだ? そう答える。 : 夏休み、

学園生徒が夏休みにやることベスト3は、 ね みの敵である課題を押え、ナンバー1は 因みに、 エクシル魔法学園にも、 夏休みが始まるまで後2日。 夏休みはある。 補習、 課題、 やっぱ、 そして夏休 暑いから

ナの声。 やっぱさ、 ギルドに入って狩猟でもしたいよなぁ はテンプレ、 ギルド登録である。 エ

が出来るようになる。 15歳になると、 エクシリア内のギルドに登録、 依頼を受けること

尤も、 録し、 夏休みまでは暇が無いので、 依頼を受けるのだ。 勿論、 報酬も貰える。 夏休みに入って からギルドに登

Dランクからのスター トだぜ?」 でもよ、ギルダーになったとしても俺らGクラスだぞ?

そう俺が言うと、エイナは「 そうだよなぁ」と首を傾げ

たランクでクエストを受けることになる。 ギルドにおいて登録者は「ギルダー」 と呼ばれ、 自分に合っ

最低ランクだ。 ランクはS 依頼の数とタイムでランクが上下する。 Á ,B,C,Dの5段階。 ランクは1ヵ月ごとに更新され、 Sが最高ランク。 一月で成功した D は

そして、通常は登録時でランク決めのクエストを受け、 でランクを決めるのだが.....。 そのタイム

クラスのスタートランクは、 俺達学園生徒の場合、今のクラスでランクが決まる。 Aクラスの連中はAランクからスタートできるらしい。 勿論Dランク。 最低位だ。 羨ましい G

Dランクは「何とかの採集」とか、 クエストの難易度は、 要するに、 手ごたえが無い。 当たり前のようだがSに行くほど高くなり、 超 弱い魔獣の狩猟」とか。

きらな 行くのは不可能であり、 つまり、 であろう強さのエイナは、 1ヵ月ほどの夏休みでDランクから2ランク以上上に XCMで見せたようにDランクでは収まり それを不満に思ってい るような

だが、 ギルダー たちがチー ラスにしかチームが組めるほどの友人が居ない俺達は、 いう制度もある。 しかなかったのだ。 チーム1人1人のランクでチームランクが決まるため、 勿論、 ムを組んで専用依頼を受ける「ギルダー チームにもランクが存在する。 頭を抱える ズ Gク ع

けど、 休み毎にでもまた行けば良いじゃねぇ 冬休みにはCランク、 春休みにはBランクってさ」 が 今はDランクだ

つ たぞ? だけどよおやっぱり」 エイナは呟く。 ぁੑ もう食い終わ

関係無しに、 どうせやること無いし、 楽しめりゃ良いや。 俺もギルダー になってみるかー..... ランク

気付く。 俺とエイナは向かい合って座っているのだが、 そう思っていた矢先だった。 エイナが先に彼女に

あっ、お前.....!!」

みると。 エイナがそう言う。 確かに何か影が落ちているので、 振り返って

 \neg 少し、 君達と話がしたい。 良いか?」

リとした瞳が印象的な、 XCMから少し伸ばしたのか腰まであるストレー C M の時と同じで、 無表情・冷静な口調の彼女は、 俺より背が高い女子。 トの銀髪。 XCM決勝で キリ

エイナと激戦を演じた大剣使い。

ウェスレイ・リスニルがそこにいたのだ。

会も無かったので、 俺とエイナは、 いのかもしれないが。 XCMであったきり。 会った」というか「見た」というほうが正し 俺に至っては其処で話す機

ているわけでは無さそうだが、ついつい少し強い口調になるようだ なんだよ」 エイナが言う。 別に敵対意識とかを持つ

次の言葉を待った。 俺は特に言うことも無く、 エイナをなだめる事もせず、 リスニルの

そして、次にリスニルが発したのは、 俺にとっては エイナにとっては歓喜の言葉。

是非とも私が作るチームに入り、 「それでは簡潔に言おう。 夏季休暇中にギルド登録するのなら、 一緒に依頼を受けてくれないか?」

良い のか? 夏の生活を決定付ける、 言葉だった。 これ、 喜んで

第27話:アルトは、今後の計画を決めようとした。(後書き)

さっそくリスニルを出してみました。

自分、やっぱ剣使いが好きなのかな.....などと思う今日この頃です。

第28話:アルトは、 Aクラスの1人から勧誘を受けた。 (前書き)

はい、1日ぶりの夜来です。

うとうとと書いて文章崩壊してますが、できる限り手直ししました。

何かありましたら、感想欄にお願いします。

第28話:アルトは、 Aクラスの1人から勧誘を受けた。

Side アルト

是非とも私が作るチームに入り、 「それでは簡潔に言おう。 夏季休暇中にギルド登録するのなら、 一緒に依頼を受けてくれないか?」

た俺とエイナ。 そんな言葉を、 Aクラスのウェスレイ・リスニルから突きつけられ

俺はただただその言葉を頭の中でリピート再生し..... . 3秒後。

·「...... はぁ?」」

偶然にも、エイナと声が重なった。

つまりは、 因みに、俺は語尾を下げ調子。 俺は「あぁ、そうですか」的な感じで言ったのに対し、 エイナは語尾を上げ調子。

エイナはマジで驚いているようだった。

そりゃそうだろうな、 XCM以来一度も会った事が無いAクラスの

エリート中のエリートに、 いきなり「チーム作るから入れ」と言わ

れたんだから。

まぁ、 きな差だろう。 チームにAクラスが入っているのと入っ ランク的にも、 戦力的にも。 ていないのとでは大

お、俺が?良いのか?」

良くなかったら此処に来ていないだろうに」

ニル。 エイナ の問いに即答するウェスレイ 確かにそうだな。 リスニル.. 長いな.. リス

跳ね上がっている。 ギルダー ズのクエストは、 しいんだろう。 やはりエイナは、 チー ムプレイが必要な代わりに難易度が 手応えが有れば有るほど嬉

エストの難易度×3位か。 簡単に言えば、ギルダーズクエストの難易度= 同じランクの個人ク

ンクに相当する。 ランク的に言うと、 ギルダー ズでのDランククエストが個人のBラ 3つほどランクが上がるんだな。

そうは言っても所詮Dランク。 手応えが無いに等しい。

話だ。 因みにこれ、 学園の「ギルド活動部」なるクラブの顧問から聞いた

と懇切丁寧に答えてくれたのだ。この先生、元は有名なギルダーだったらしく。 俺が質問する

ちょっと、 であり.....質問し終えると、俺は逃げるかのようにその場を去った。 しかし、その先生はどう見ても、口調からも察するに「 そういう系の人が苦手な俺だった。 オネェ」

よっ しゃ あつそういや、 「君達」って事はアルトもか?」

当然だ。 どうやら、 納得していないようだがな

あぁ、 エイナが歓喜する中、 俺の存在は「そういや」で片付けられるんだな。 俺は1人考える。

俺とエイナを何故アンタのチームに入れる?」

逆に問おう。 ト様を倒した。 XCMで1人は私を倒し、 そんな人材を、 何故見逃す?」 もう1 人は最高位のダ

見逃すとして。 出てくるんだか。 やはり即答された。 ダント様」とかは、 頭の回転速いな、 何でそんな早く答えが 仕方ないから今日は

だが、 俺が言っているのはそういうことではなく。

「 違 う。 ルダー ズはチー ムプレイが基本だろ?」 俺達とアンタは1回しか顔を合わせていない。ギ

男の癖にそんなことを気にするのか?」 生憎、 友人を作るのに物怖じしない性質でな。 それとも君は、

言外に「ほぼ初対面で動きを合わせ難いと思うが、 られ、逆に質問された。 大丈夫か?」と質問すると、速攻で「大丈夫だ、問題ない」と答え そんなチー ムで

クラスには口喧嘩で勝てないということはわかった。 ちょっとネタが古いと感じるが.....まぁ良いさ。 とりあえず、 Α

俺も良いぜ」 いや、 ちょ つ と聞いてみたかっただけさ。 エイナが良いなら、

俺は勿論OKだ。 アルトがいれば、 心強いからな」

合わせをしたい」 決まりだ。 終業式の日の午後2時、 寮前に集まってくれ。 顔

え、 メンバーの都合が合わないらしい。 今じゃ駄目なのか? と思いリスニルに質問してみると、 他の

終業式は2日後。 になるが、 とりあえずはそれまで待とう。 ずはそれまで待とう。俺の前に座る少女2日も都合が悪くなる用事が何なのか非常に気

その日の夜。 エイナは、興奮冷めやらぬ様子で話す。 俺の部屋にやってきた赤いハート柄の寝巻きを着た

俺に心を開いてるからこその行動だと思うけどさ。 けや 美少女だから目の保養になるのはどうでも良いとして、

男の部屋に寝巻き姿で入るのはどうかと思うぞ。

男は、

きっかけがあれば何時でも野獣に進化するからな。

俺の頭の片隅に有った馬鹿な思考は放っといて、本題に戻ろう。

あー、 からスカウトされたんだからよ!」 待ちきれねぇよ! なんたって、 AクラスのXCMメンバ

早めに寝かせてくれ」 「とりあえず落ち着け。 周りに声が響く。 それと只今午前2時だ。

ろ?」 つ すまねぇ。 でも、 アルトも嬉しくないわけでは無いだ

闘術とか魔法魔術の練習にもなるしな。 勿論。 強い魔獣と殺れあえるなら、 ちょうど良い暇つ b.. そして早く寝かせてくれ」 格

· だろ? だから

」……以下、「寝かせてくれ」

を無視したエイナの独壇場の為、割愛。

エイナが俺の部屋に入ってきて喋りだしてから、 早4時間 ね

知らぬ相手でも仲良くできるとは思うぞ?前に言ったように、 俺も手ごたえあるほうが嬉しい 別に見

だから、 早く寝かせてくれよ。 明日も学校、 有るんだぞ

半ば倒れるようにベッドへダイブし、 結局、 3時まで続いたエイナの語り。 直ぐ眠ってしまった。 俺はエイナが帰ると

後のSHR。時は飛び、今日 今日は終業式の日。 細かく言うと、 終業式が終わった

あ、そうそう。 ての教科で帰ってきたのには驚いた。 一昨日期末考査が終わったばかりなのに、 昨日全

現代国語、古代国語、 (現代社会みたいな感じ)、生物、 数 学 1、 数学 2、 **魔獣学、** 地理、 そして実践魔法学のあ 世界史、魔法社会学

俺は964点と、妥当な線だった。

わせて10教科。

合計1000点。

.....痛い痛い、止めろッ!!

61点と撃沈。 アリスは600点ちょうど。 因みに、エイナは新しく加わった教科の殆どが苦手らしく、 メテリアは670点、 ヨハンは597点、そして

さて、 今の状況に戻ろう。 只今午前11時30分。 S H R 中 だ。

「それじゃ、SHR始めるぞー」

らに行くも良しー。 「エクシリアのギルドでギルダーになるも良し、海やら川やら山や でも課題はちゃんとやってー、 これ約束なー」 明日から.....という言うより―、今日の昼から夏休みだ―」 楽しんでくるんだぞー」 危険なことには首突っ込まないー。

それじゃ、解散ー」

ま、短いのは良い事だな。 開始13秒だ。 ショートすぎにも程がある。 ジェイ先生グッジョブ。

きりーつ、れい、ちゃくs「あざっしたー」.....グスッ

挨拶もジェイ先生率いる「あざっしたー」族が、メテリア率いる「 ありがとうございました」族を人数と声量で上回っていた。 勿論「あざっしたー」だけど? 真面目な男子生徒の号令は最後まで言われること無く。 俺?

期、 挨拶から数秒でワイワイガヤガヤ賑やかになる教室内の 時間的な意味で)。 長かったな。 皆にとっては4時間ちょっとだろうけど (読破

ナは興奮しっぱなしだったな。 メタ発言はさておき。 んな目で見てる感じ)、 その後は普通に食堂で昼飯を食べ(エイ それを俺とかメテリアとかがいろ

寮前。 そして、 午後1時59分。 場所は、 エクシル魔法学園、 学園生徒

あぁ、誰がくるんだろうなぁ、アルト!」

「俺と、 イが連れてくるんだったらAクラスの奴らじゃねぇか?」 エイナと、 ウェスレイは確実だろ? やっぱり、 ウェスレ

だよな、ワクワクするな!」

あぁ、 さすが元気つ娘。 エイナはもう課題とか吹っ飛んじゃってるんだろうなぁ。 元気の塊だな。

とか言っていると、 来たみたいだ。 1番先頭はウェスレイ。

彼女に続くように視界に入ってきたのは、 碧色短髪の男子と、 黒髪

を首で1つに纏めてある女子。

そして

金髪をオールバックにした男子。 ダント・サスティ フが視

界に飛び込んできた。

.... ええええええ.....

0

第28話:アルトは、 Aクラスの1人から勧誘を受けた。 (後書き)

今回から S i d e でやっていきたいと思います。

そうそう、【クリエイター】なんですが。 アレですね。 何でもできるとやっぱ

デア浮かばないですねww なので、デメリットとか欠点を決めようと思うんですが、 何もアイ

そういうわけで、ちょっとデメリット募集したいと思います。 か案がありましたら、ご気軽に書いてください。 何

皆さんの力が、小説の運命を変える.....かも。

第29話:アルトは、学年最高位と再会した。 (前書き)

5 更新速度ががた落ちの夜来です。 いいんだもん。 1ヶ月はほぼ1日1更新したか

サブタイトルは「ダントとの再会」ですが、物語はギルドに行くま でに進みますよ。

327

第29話:アルトは、学年最高位と再会した。

Side アルト

がある金髪の男、 ほぼオールバックは健在のようで、×CMから殆ど何も変わってね 目に飛び込んできたのは、 リスニルは結構変わってたというのに。 ダント・サスティーフ。 見たことが無い2人と、 確実に見たこと

IJ ダントは、 視界に俺達を捉えたのかその瞬間だけ石像のように固ま

最下位はさっさと寮の中に入っていろッ!き、貴様ッ! 何故貴様が此処に居る、ア 何故貴様が此処に居る、アルト= シューバ!

ツ 其処の大剣女も同じだっ! 私の視界から失せろッ 今すぐに

..... ちょ、 に っていうか、しつこい。 感動(笑)の再開なのに、其処までまくし立てるか。 XCMで負けたことを根に持っているようだな。 未だ

た奴の言うセリフかっ いきなり何なんだテメェはっ! それがアルトに負け

ネー っていうか大剣女って何なんだよ! ムで呼べよ!」 せめてアルトみたいにフル

エイナ、 お前もか。 感想で指摘されたばかりなのに、 酷くなって

る感がするぞ。

まぁ、 名前で呼んでもらえないのはちょっと可哀想な感じがする。

「お前が言うな」って聞こえたけど、 無視。

ますから」 「落ち着いてください、 ダント様。 美しいお顔が醜くなっており

貶しては.....ないよな?リスニルがダントを宥めようと、 そんな言葉を口に出した。

だけかもしれないだろ?」 「まぁ まぁ、 落ち着けって。 あいつもエイナの名前知らなかった

だが.....気にしない。 ダントは頭に血が上ってエイナの名前が出てこなかったことは明白 そして俺も、 エイナを落ち着かせようとそう言葉にする。 まぁ、

しかし争いはすぐには収まらず、5分後。

うだ。 ダントとエイナは幾分落ち着いたか、まだ相手を睨んでいるが (ダ ントは俺を、 エイナはダントを、 だな) 口喧嘩をすることは無さそ

それを見たリスニルは、 息を小さくつきながら話し始めた。

トを受けたいと思う。 えーっと... この6人で、 夏季休暇のギルダー ズクエス

このチームで頑張っていきたい。 6人は結構大目の人数で依頼も難しいものになると思う。 だが、

チー まずは自己紹介と行こう。 ムのリー ダーを務める。 私はウェスレ よろしく」 1 リスニル。 この

ぁ 私が作るチー 占 って言ってたからやっぱり、 ダントじゃな

リスニルは、 くてリスニルがリーダー 次に「よろしくお願いします」と隣のダントに言う。 なんだな。

..... ダント ・サスティーフ。 よろしく」

調子狂うな。 頭を掻きながら、 渋々といった表情で自己紹介するダント。 何か、

次は、 多分ダントの右隣にいる黒髪の女子だろうか。

Bクラスのソフィ・マクエルです。 よろしくお願いします」

う。 愛らしいな。 丁寧な自己紹介をした黒髪の女子、 何も持って無いから、 ソフィ。 武器とかを使う感じじゃ無さそ ニコニコ笑う姿は可

なせ 次の碧髪の男子に回した。 こんなか弱そうな子には武器は扱えないか。 ソフィは、

もしれないけど、よろしく」 同じくBクラスのラウス= ガレーダ。 あんまり活躍できないか

ちも目立った武器は見当たらない。 軽くお辞儀をした碧髪の短髪男子、 ラウスはそう自己紹介。 こっ

チラッと見える筋肉から明らかだ。 細身だけど、何かしら武器を扱えるだけの筋力があるのは、 腕から

.....次は、エイナか。

もと同じ男勝りな、 Gクラスのエイナ= もう男同然の口調で話すエイナ。 ユーグリッドだ。 よろしくな」 説明は不要

......そんで、次は俺か。

かもしれないけれど..... よろしく」 同じくGクラスのアルト= シュー バ 俺もあんま活躍できない

.....やっぱ り、貴方がシューバさんだったんですね! X C M の

「最高位のサスティーフを殴り飛ばした時は凄いと思った。決勝戦見てました!」 憧れる」

を当てる。 ントの名を出した途端、 俺の自己紹介に、 ソフィとラウスが食いついてきた。 ダントはあの時を思い出したのか、 ラウスがダ 胸に手

小さく、 くそ.....」 なんて呟いてる。 なんか、 す

い魔法を使えるなんて! せ、 サスティーフさんも凄かったですよ! ラウスッ!」 あんな強

でも使えるだけでも凄いのに」 《輝く世界》だったか。 最上級魔法を一 個

めるが、 その鋭い瞳で睨むリスニル)に気付いた2人は、 ダントが苦しむ姿 (..... もう遅い。 正確には、苦しむダントを心配し、 慌ててダントを褒 2人を

とリスニルに言った。 はぁ」と1回大きなため息を吐き、 「もう良い」 と2人

のは目に見えていただろうに」 リスニル。 何故コイツらをメンバーに選ぶんだ。

ナ= ユー グリッ かと思います」 すみません、 ドの力は強力な物というのも、 ダント様。 しかし、 アルト= お分かりいただける シュー バとエイ

ントは納得しながらもまだ不満があるようだ。 まぁ 、だが......」......リスニルの的を得た (?) 意見に、 ダ

.....此処で俺がなんか言うと、またダントは怒り狂うだろうから、 口出しはやめておこう。

まぁ、 チームを組むんだから仲が良いのが1番1番。

減納得しろよな。 負けたんだから」

..... あっ。

伏したのだった。 隣から聞こえた一言。 今度こそダントの心は折れたようで..... た時には、それは的確にダントの耳を通り抜けていて。 俺がそれをエイナの放った一言だと認識し バタッと。 その場に倒れ

落ちるダントを支え、 そんな構図が、 俺がエイナを少しばかし強い調子で叱り、 数分続いた。 ソフィとラウスはその場で立ち尽くす。 リスニルはその場に崩れ

゙......それで、もうギルドに行くのか?」

意外にも . ん? 10数秒で復活したダント。 俺はちょっと疑問が。 リスニルにそう尋ねる。

負けず嫌い。 お前、 リスニルから何も聞かされて無いのかよ?」

「くつ、 から入ってください』と数時間前に言われたばかりだからな」 だからそう呼ぶな.....あぁ、 私はリスニルに『お願い

.. お前も苦労人だな。 少しは計画性持て、 リスニル。

登録を済ませてしまいましょう」 まだ日は高いですから。 ギルドに行って、 今日のうちにギルダ

0分にもなってないしな。 その計画性が無いリスニルは、そう提案する。 リスニルは俺達に良いかと確認を取り(ダントに確認を取らない辺 強制的なんだな)、全員が良いと言うと..... そのほうが良いか。 まぁ、まだ2時3

それでは、早速行こうじゃないか」

そのままギルドへ向かう。 ...案の定、その予想は当たり、出口から商人エリアへ出た俺達は、 そう言い放ち、学園出口へと向かうのだろうか、 歩き出した。

もなく。 出口からエクシリアギルドでは十数分しかないため、 少しばかし懐かしい。 まぁ、 ちょっと外へ出るのは久し振りだった為、 特に話すこと

俺達6人が立ったのは、まるでサーカスのテントのような丸い外壁 そんなことを思っていると、 にでかでかと掲げられた看板、その下の扉の前 着いてしまった。 早ツ。

看板には、 赤字で「 Н e r o S В 1 0 0 ď Ļ 書いてあった。

王都エクシリア公認ギルド、 \neg Н e r o S В 1 0 0 ď

Ļ 勇者の血」の由来は、 「勇者の血が流れる国」という意味が有るらしい。 「勇者の血によって出来た国」 という意味

が暮らし、ギルダーにも、 勇者の活躍で出来た王都、そして国。 少なからず勇者の力という物が流れてい そして、今でも勇者の子孫

る..... そういう意味。 多分。

此処で言う「勇者の力」とは、 いることではなく、 あくまで雰囲気的なものだろうが。 別にエクシリア都民全員に血が流れ

右を向くと、 吟味している。 の受付嬢が、 扉を押し、中に入った俺達。 のギルダーが、 1階は受付らしく、 い、白と黒と赤を基調とした、 それぞれ屈強なギルダーの応対をしていた。 様々な依頼が書かれた依頼書が張られた壁。 S~Dに分けられたその依頼書の内容を、 中央には受付らしきカウンター。 中は、 小奇麗な内観だった。 そのちょっと怖 い名前とは 可愛い しっ 何人も かり 3人 違

此処から依頼書を取り、 クエストスター 受付嬢に持っていく。 トとなる。 そして予定時間と

まぁ、 エストは指定時間内に目的を達成できれば、 これは当たり前か。 クリアとなる。

クエストには大別すると【採集】 【その他】の5個に分けられる。 【護ガード **御**】 【輸送】、 【調^サ 査】

集に入ってるらしい。 討伐しても、 【採集】は、 どうせ魔獣の毛皮とか、 魔獣の討伐や捕獲、 植物などの採集が混ざった物。 良いものは貰っていくから採

が弾む物が多い。 獣や賊はすべて排除する。 【護衛】。 国の主要人物などを護衛する仕事。 大物が依頼主のケー スが多い為、 立ちふさがる魔 報酬

が多い。 ともあるらしい。 【輸送】は国跨ぎの配達だな。 配達品は絶対に壊してはいけない為、 時にはサタナー ・エリアに入るこ 高ランク

とか。 【調査】、遺跡の調査とか、 遺跡調査は、思わぬ発掘品があるかも。 魔獣がいるかもしれ ない エリアの調査

するのが多い。 【その他】はその名のとおり。 故に、Dランクが多いな。 雑用(窓拭きとか、 迷子とか) を

色々クエストがあるのだ。 それだけの話

するのだ。 左側には、 ギルダー ギルダー たちは、 此処で交友関係を持ったり、 たちの交流の場である酒場が設置されていた。 チームを組んだり

酒場と言っても酒だけ置いてるわけではないのが良い な。

てい リスニルは登録を行うのだろう、 く俺達。 受付へと向かう。 それに付い

録をしに来たのだが」 エクシル魔法学園の生徒だ。 ギルダー登録、 及びチー

学園生徒の方ですか! 分かりました、 それでは生徒証をお見せ

るようだ。 来た学生証(紙製だ……)を取り出す。 そう言われ、 俺はポケットから、 事前にリスニルに言われ、 他の5人も持ってきてい 持って

報が其処に入るらしい。 ギルダーカードは、 ギルダーの証明証のような物。 いろいろな情

受付嬢は6枚の学生証を手に取ると、 く、ガラス球のようなものを持ってきた。 った。 大きさは.....「判定球」 奥から何か黒い物が中で渦巻

.....なんですか、それ?」ソフィが受付嬢に尋ねた。

トの依頼記録まで何でも出来ちゃう優れものなんですよ!」 これはギルドボールといって、 ギルダーカードの発行からクエス

途端、ギルドボールはその2枚を飲み込み、 2枚がゆっくりと吐き出された。 の鉄板と、リスニルの学生証を、 受付嬢はそう言って、ギルドボールと同じく持ってきた名刺サ ギルドボールに触れさせる。 2枚を手に取る受付嬢 数秒したところでその イズ

をリスニルに手渡した。 はいどうぞ、 ウェスレ イ・リスニル様」そう言って、 2 枚

そして中央には「ウェスレ 表面には、Aランクを示しているであろう「A」が左上に大きく、 ちょっと近づいてよく見ると、リスニルが受け取った元鉄板.....ギ そして下部には一見ランダムで打ち込まれたと見える、 ルドカードは金色に変化していた。 多分これが、 ギルドボー ルだけが読み込める、 イ・リスニル」と刻印されている。 個人情報なのだろ ドット模様。

る。 判定球といい、 これといい、 この世界のボールハイテク過ぎだ

渡された。 その後も次々にカードは発行されて行き、 俺にもギルドカー

「はいどうぞ、アルト=シューバ様」

放っている。 Gクラス= Dランクのギルドカードは、元のまま鉄板の鈍い輝きを 左上には、 「D」の文字。

うーん、まぁエイナと俺以外の4人は金色だからちょっと見劣りは するけど、まぁいいか。

登録しても、 「そのギルドカードは絶対に失くさないで下さいね。 此処での活躍は元には戻りませんから。 失くして再

預かりします」 それでは、次にチーム登録ですね。 全員のギルダー カー ・ドをお

動かし、 そう注意してから、 6枚のギルダーカードを受け取った。 受付嬢は横に退けていたギルドボールを正面に

大事な物ですから必ず決めていただきます」チー ム名はどうされますか? チー ム名はそのチー ムを表す

ニルはというと. チーム名? そんな物決めるのか。 ダーであるリス

.....

..... 今考えるのかよ、計画性持てッ!

y Team」とかか?」と、ダント。ピン゚ルーーム Pant」とか.....」と言て「The Dant」とか.....」と言そこから、俺達は数分唸っていた。 ・・・・・うーん、 もういっそ名無しで良いんじゃ Dant」とか.....」と言うのはリスニル。 下手な名前じゃアレだよな。こいつら.....。決めろって言われ Mゎ

そのとき、俺に電流走る。

後々今よりも強くなる、 Л О Ν a m e _ みたいな」 って、 今は名無しだけど、

..... 反応は....

「良いと思う」.....ラウス。良いですね。 響きも気に入りました!」.....ソフィ。

「アルトにしちゃ、 いいアイデアじゃねぇか」..... 余計なお世話だ、

エイナ。 反応は上々のようだ。

を告げると、 あとの2人はまださっきのアイデアでもめていた。 案の定またギャアギャアいうので..... そしてこの案

いて、受付嬢には俺が言った。 「それじゃ、「No Name」でお願いします」放って置

ギルダーカード、そしてまた新たな1枚の鉄板とともにギルドボー ルに入れる受付嬢。 かしこまりました」と、 紙 に 「 N 0 Ν a m e と書き、6枚の

数秒後、 出てきたのは銀色のカードと、それぞれのギルダーカード。

Dランクが2人なので、Bランクスタートとなります。 て下さいね」 「この銀色のカードがギルダーズカードです。 ギルダーカードと同じ様、失くさない様にリーダーが常に携行し Aランクが4人、

ギルダーズカードは、基本的にギルダーカードと同じようだ。 ンクを表す大きな「B」、 そして下部のドットと。 , И О Name」と刻印された中央。

それぞれギルダーカードを受け取った。 Aクラス2人は最後までごねていたが、 諦めたようで、 2枚のカードを受け取ったリスニル。 他5人も、

数に押し切られたようだ。

卢 N 0 N a m e J 此処に誕生。

第29話:アルトは、学年最高位と再会した。 (後書き)

ネームセンスの無さに脱帽しました。 自分で。

たくさんのご提案、ありがとうございました。 それでは、デメリット募集は打ち切らせて頂きます。

ご感想やご指摘は、ドンドン感想欄に書き込んでくださいね!

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きインター 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 の縦書き小説 ています。 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 存書籍 は 2 0 タイ いう目的の 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n2837w/

チートな俺は、Gクラス。

2011年10月10日02時17分発行